

令和8年度 高瀬保育園耐震改修工事

図面リスト

	図 番	名 称	原図	縮 尺
意匠図面	A－００	図面リスト	A3	
	A－０１	建築工事特記仕様書-1	A3	－
	A－０２	建築工事特記仕様書-2	A3	－
	A－０３	案内図・配置図・仮設計画図	A3	1:300
	A－０４	仕上表	A3	－
	A－０５	平面図	A3	1:200
	A－０６	立面図【改修前】	A3	1:200
	A－０７	立面図【改修後】	A3	1:200
	A－０８	屋根伏図	A3	1:200
	A－０９	遊戯室 平面詳細図【改修前】	A3	1:60
	A－１０	遊戯室 平面詳細図【改修後】	A3	1:60
	A－１１	遊戯室 断面詳細図【改修前】	A3	1:50
	A－１２	遊戯室 断面詳細図【改修後】	A3	1:50
	A－１３	遊戯室 展開図 A面	A3	1:50
	A－１４	遊戯室 展開図 B面	A3	1:50
	A－１５	遊戯室 展開図 C面	A3	1:50
	A－１６	遊戯室 展開図 D面	A3	1:50
	A－１７	保育室 断面詳細図【改修前】	A3	1:50
	A－１８	保育室 断面詳細図【改修後】	A3	1:50
構造図面	S－０１	構造関係共通事項	A1	－
	S－０２	構造関係共通図(鉄骨標準図)	A1	－
	S－０３	構造関係共通図(耐震改修標準図)	A1	－
	S－０４	基礎伏図【改修前】	A1	1:100
	S－０５	基礎伏図【改修後】	A1	1:100
	S－０６	R階梁伏図【改修前】	A1	1:100
	S－０７	R階梁伏図【改修後】	A1	1:100
	S－０８	鉄骨梁伏図【改修前】	A1	1:100
	S－０９	鉄骨梁伏図【改修後】	A1	1:100

	図 番	名 称	原図	縮 尺
	S－１０	軸組図(1)【改修前・改修後】	A1	1:100
	S－１１	軸組図(2)【改修前・改修後】	A1	1:100
	S－１２	軸組図(3)【改修前・改修後】	A1	1:100
	S－１３	軸組図(4)【改修前・改修後】	A1	1:100
	S－１４	補強詳細図(1)【改修前・改修後】	A1	1:30
	S－１５	補強詳細図(2)【改修前】	A1	1:30
	S－１６	補強詳細図(2)【改修後】	A1	1:30
	S－１７	補強詳細図(3)【改修前】	A1	1:30
	S－１８	補強詳細図(3)【改修後】	A1	1:30
	S－１９	補強詳細図(4)【改修前・改修後】	A1	1:20
	S－２０	補強詳細図(5)【改修前・改修後】	A1	1:20
	S－２１	既存部材リスト	A1	1:30
電気設備図面	E－０１	電気設備特記仕様書	A3	
	E－０２	照明器具リスト	A3	－
	E－０３	遊戯室 電灯設備図【改修前・改修後】	A3	1:100
	E－０４	遊戯室 コンセント設備図【改修前・改修後】	A3	1:100
	E－０５	遊戯室 弱電設備図【改修前・改修後】	A3	1:100

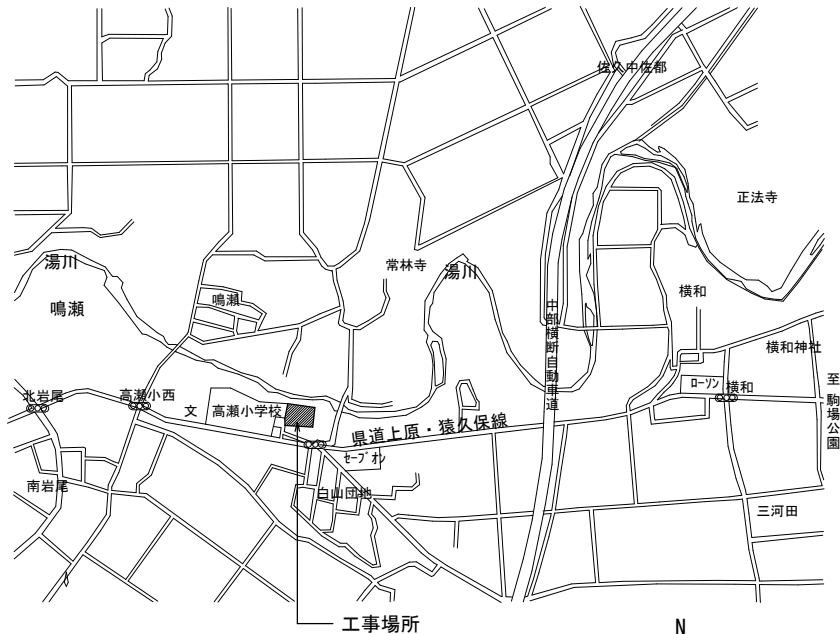


魁設計事務所

建築工事特記仕様書		提出書類				佐久市建築工事書類作成マニュアルに基づき作成する				防水工事				
工事名称	令和8年度 高瀬保育園耐震改修工事	名称	提出物名	当該区分提出部数	摘要			1. 塗膜防水	※ウレタンゴム系（■X-2）					
工事場所	佐久市鳴瀬1371	■工事施工関係書類	100 目次	☒	1				2. シーリング	種類は標準仕様書表9.7.1により、最小施工寸法は10x10mmとする 接着性試験（□行う ■試験成績表による）				
工事概要	園舎の耐震改修工事 遊戯室の照明器具LED化工事他		101 工事実績情報登録報告	☒	1	請負金額500万以上の場合			木工事					
			102 実施工程表	☒	1	計画：黒線 実施：朱線								
103 下請人通知書	☒		1	監督員に提出した書類の写し										
104 総合施工計画書	☒		1											
106 施工体制台帳（写し）	☒		1	□施工体系図										
107 廃棄物等処理計画書	☒		1											
工事項目	●仮設工事 ●防水工事 ○木製建具工事 ●土工事 ○石工事 ●塗装工事 ●地業工事 ○タイル工事 ●内装工事 ●鉄筋工事 ●木工事 ●雑工事 ●型枠工事 ○屋根及び樋工事 ○外構工事 ●コンクリート工事 ●金属工事 ●解体工事 ●鉄骨工事 ●左官工事 ○組積工事 ○銅製建具工事 ※構造関係の特記仕様は別図による		108 再生資源利用[促進]計画書	☐	1	対象工事のみ			金 属 工 事					
			109 使用材料発注先調書	☒	1	JIS、JAS等規格調べ								
			110 材料及び機器の品質・性能証明書	☒	1	□一覧表添付								
			111 工種別施工計画書	☒	1	□一覧表添付								
			■工事完成資料	200 目次	☒	1						1. 構造用製材 JAS規格等級 ■目視等級区分構造用製材 ■機械等級区分構造用製材 含水率（□15%以下 ■20%以下） 強度基準別樹種 ■あかまつ、べいまつ ■からまつ、ひのき □つが □すぎ		
		202 製作図		☒	1	製造者作成								
		203 工事施工・変更協議書		☒	1	□経緯表添付								
		204 工事打合簿		☒	1									
		205 工事写真		☒	1									
		206 工事記録（月報）		☒	1	着手日から竣工日まで								
		一般事項	適用範囲 この特記仕様書は建築工事のほかに設備工事にも適用するものとし、図面及びこの特記仕様書に記載されていない事項は、全て公共建築工事標準仕様書最新版及び建築改修工事標準仕様書最新版（建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編）、建築物解体工事共通仕様書による。 優先順位 設計図書 の優先順位は次のとおりとする。 1、現場説明事項及び質疑応答事項 2、特記仕様書 3、設計図 4、公共建築工事標準仕様書及び公共建築改修工事標準仕様書 記載のないもの 設計図書に記載のないもの及び記載されていても工事の納まり等について不都合な箇所が生じた場合は、監督員と協議の上その指示による。 疑義 軽微な変更 設計書に明示のない場合又は疑いを生じた場合は監督員と協議し、その指示を受けてから施工する。 本工事の施工にあたり、納まり等軽微な変更又は図面に記載のない部分で技術的に必要が生じた場合は、監督員の指示に従い施工する、この場合請負金額の増減は行わないものとする。 工事看板 本工事の現場には関連公的表示板及び工事名称・発注者名・設計事務所・施工業者を明記した工事看板を設置する。 届出等 工事請負業者は施工に必要な一切（建築確認申請を除く）の官公署及び事業所への諸手続きを延滞なく行うものとし、これに掛かる経費は請負者の負担とする。 施工計画書 工事着手前に施工計画書を提出し、監督員の承認を受けること。 施工上必要な各種の施工図・原寸図・工作図又は型板の類は、施工に先立ち監督員に提出し、承認を受ける。 工事材料 工事に使用する材料については全て見本品を提出し、監督員の承認を得て使用すること。 材料の製造所、製品、業者等は特記されたもの又は同等品以上とする、ただし同等以上とする場合は、その理由を明記して監督員の承認を受ける。 災害防止 工事の施工に伴う災害及び郊外の防止は、関係法令等に従い適切に処理する。 工事中、既設の設備を損傷した場合は、監督員の指示に従い現状復旧を行う。 発生材の処理 発生材は整理の上その調書と共に係員に引き継ぎ、係員の指示により処理する。 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）」を厳守し、マニフェストA票、B-2票、D票、E票の写しを提出する。ただし、一般土砂については軽量伝票又は搬入伝票を転出する。 工事写真 カラーサービス版で、A4版の工事用アルバムに工程順に説明を記入し提出する。デジタル写真可、着工前、施工中（各工程毎に撮影）、竣工時撮影の他、資材搬入時及び使用後の空袋（塗料・接着剤等）状況等を撮影のこと。 工事現場の環境改善 1 施設利用者等に対する災害防止関係 ※施設利用者等に対する災害防止策の充実 監督員との協議による） 2 地域住民とのコミュニケーション ※現場見学会の実施（監督員との協議による） 再生資源の利用促進 1 再生資源利用促進計画 ※工事完了後に、実施状況を取りまとめ、提出すること。 2 再生資源利用計画 ※工事完了後に、実施状況を取りまとめ、提出すること。 ※「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」による届出を行うこと。 保険等 ※ 工事請負者は工事内容に応じた建設工事保険等を付すものとする（火災保険、建設工事保険、請負者賠償責任保険等）。加入期間は、監督員との打合せによる。 その他 ※ 工事期間中、請負者の責任と負担により、労災保険に加入すること。 ※ 工事の請負額が2500万円以上の工事については、工事実績情報（工事カルテ）の登録をすること。 工事請負額が500万円以上2,500万円未満の工事については、受注時及び訂正時のみ登録をすること。 登録する場合は、内容について監督職員の承諾を受けた後、次に示す期間内に登録の手続きを行うとともに、登録されたことを証明する資料を監督員に提出すること。 (1)工事受注時 契約締結後10日以内 (2)登録内容の変更時 変更契約締結後10日以内 (3)工事完了時 工事完了後10日以内	207 工事進捗状況報告書	☐	1	工事3か月を超える場合							
				208 臨機の措置報告書	☐	1	契約約款第26条							
209 事故報告書	☐			1										
210 使用材料の出荷証明書	☒			1	□一覧表添付									
211 材料及び機器の試験・検査結果報告書	☒			1	□一覧表添付									
212 施工の試験・検査結果報告書 社内の試験・検査結果報告書	☒			1	□一覧表添付									
213 工事材料搬入報告書	☒			1										
保守管理資料	■保守管理資料			301 廃棄物等処理報告書	☒	1								
				302 再生資源利用[促進]実施書	☐	1	対象工事のみ							
				308 完成写真	☒	1	□着手前・着手後の写真をデ-タ提出							
				305 完成図（製本）	☒	1	A4版（見開きA3）							
				完成図CADデータ	☒	1	□PDFデータ							
		施工図（製本）	☒	1	A4版（見開きA3）									
		施工図CADデータ	☒	1	□PDFデータ									
		300 目次	☒	1										
		303 納入品目録	☒	1										
		304 保証書	☒	1										
		306 機器完成図	☒	1	製造者作成									
		307 保全に関する資料	☒	2	□1部は別冊 ファイル									
官公署届出書類等	■官公署届出書類等	105 官公署届出書類等	☒	1										
		官公署検査結果通知書	☒	1										
その他	■その他	建退共関係書類	☒	1	工事費800万円以上の場合									
		工事保険関係書類	☒	1	火災保険等									
		安全管理書類	☒	1	検査時に持ち込み									
		創意工夫・社会貢献等	☒	1										
※目次は書類全体で1部作成する。														
仮設工事														
1. 監督員詰所	□要（ m程度） ■不要	■不要 構内既存の施設：□利用できる（※有償 □無償 ■協議による） □利用できない 構内既存の施設：□利用できる（※有償 □無償 □協議による） ■利用できない 構内既存の施設：□利用できる（※有償 □無償 □協議による） ■利用できない ■要 □不要 構造：■成形鋼板 □既製バリカー ■その他（ガードフェンス） 高さ：■3.0m □1.2m ■その他（1.8m） ■本工事現場に掲示する看板は、大きさ、書体、仕上げ、取り付け位置などあらかじめ監督員と協議する。 ※工事前撤去、移設を要する軽微なものは、本工事の範囲とする。 □標準G.L.の決定及びB.M.の設置は、監督員の立ち会いのもとに行う。 ※本工事の施工に当たり、付近住民、隣接建物、工作物、通行人に対して損害を与えないように、必要な保護設備を計画し、監督員及び各関係の承認を得て実施する。 万一損害を与えた時は、速やかに応急手当、復旧工事をし、これに要した費用は請負業者の負担とする。 ※工事完了後、建物引渡前に全体の清掃を行い、工事による損傷部は完全に復旧する。 引き渡し前に遊戯室の空気中VOC濃度測定を行う（□パツツ法 ■アクティ法） 対象物質（■ホルムアルデヒド ■トルエン ■キシレン ■エチルベンゼン ■スチレン ■パラジクロロベンゼン） 構内に設ける仮設物・車両・資材用地等について、施設管理者と事前に協議を行うこと。												
2. 工事用水														
3. 工事用電力														
4. 仮設便所														
5. 仮囲い設置														
6. 看板														
7. 障害物処理														
8. 設計G.L.														
9. 保護設備														
10. 化学物質の濃度測定														
11. その他														

長野県佐久市野沢 306-12 PHONE (0267) 63-6355 FAX. (0267) 63-6366	一級建築士事務所登録 (佐久)G第7Z161号 一級建築士登録第 163929 号 土屋正明	CHECK	DESIGN	DRAWING	DATE	JOB NAME	
		土屋			2026・05	令和8年度 高瀬保育園耐震改修工事	
							SHEET NAME
建築工事特記仕様書-1							PART 意匠

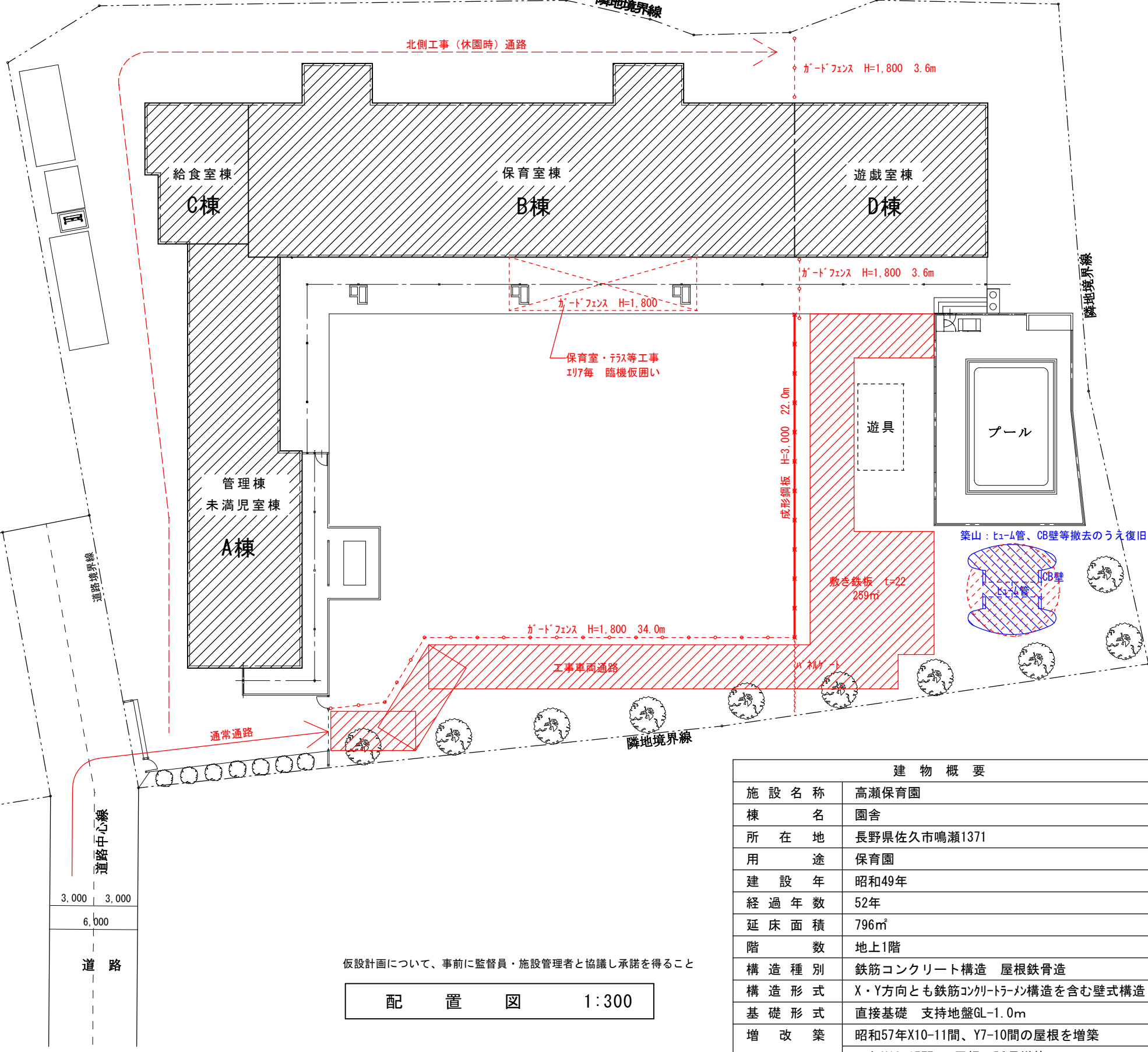
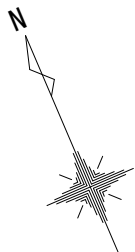
アスベスト含有建材の除去		○印のものを適用する		項目	特記事項	項目	特記事項																				
項目	特記事項			③ 除去工事共通事項 専門工事業者	都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関 施工記録報告書の作成 報告内容 1. 施工計画書 2. 工事記録及び工事写真 3. 産業廃棄物処理記録（廃石綿） 4. 施工調査等記録（上記施工調査、含有分析、粉塵濃度測定等） 5. 作業車の作業記録、各種健康診断記録、安全衛生教育記録 6. その他必要事項 提出部数 3部作成 アスベスト含有建材の除去を行う業者については、工事に相応した技術を有することを証明する書類を、監督員に提出する。 石綿作業員主任者 石綿作業主任技能講習又は平成18年3月以前のと特定化学物質等作業主任技術者技能講習を終了した者の中から「石綿作業主任者」を選出しなければならない。 除去業者 業者は、就業時に石綿則第7条に基づく教育を受けた者とする。また一般健康診断、石綿健康診断、塵肺健康診断を受信した者とし、肺機能に以上がない者とする。 特別管理産業廃棄物管理責任者 排出者は、特別管理産業廃棄物管理責任者の資格を有する者を選任管理しなければならない。 ただし、アスベスト含有成形板の処理工事を除く。 表示及び掲示 ※ アスベスト作業主任者名と業務内容 ※ 関係者以外立入禁止 ※ 禁煙・飲食の禁止 ※ 「アスベスト除去作業中」の表示 ※ アスベストの有害性 ※ 取扱上の注意事項 ※ 使用すべき保護衣 周辺住民の見易い場所に以下の掲示を行う。 ※ 「建築物等の作業に関するお知らせ」（労働基準監督署への届け出内容・粉塵飛散抑制措置、暴露防止措置等） 保護具・保護衣 作業内容に応じた呼吸用保護具、保護メガネを使用すること。 除去したアスベスト含有建材の保管・運搬・処分等 ※ 他の内装材、廃棄物との分別保管 ※ 保管場所での飛散防止 全体をシート等で覆い、飛散防止に努める。 ※ アスベスト等の保管場所である旨の表示 アスベスト含有示吹付材の除去工事 ○行う（財）日本建築センターの「建築技術審査証明事業」による吹付けアスベスト粉塵飛散防止処理技術（除去）の審査証明書（以下、「審査証明書」という）を取得している工法と同等の飛散防止処理技術を有する工法とする。 ・ 行わない 適当範囲 ※ 図示 作業場の隔離等 ・ 「審査証明書」内容による。 ※ 作業場は以下によるものとし、負圧除塵機にて負圧状態により飛散防止をすること。 隔離シートの性能 <table><tr><td>※ 床面</td><td>※ 0.15mm上のプラスチックシート等で二重</td></tr><tr><td>※ 壁面</td><td>※ 0.08mm上のプラスチックシート等</td></tr></table> セキュリティゾーンの設置 ・ 「審査証明書」内容による ※ 図示による <table><tr><th>適用</th><th>室名</th><th>状態</th><th>設置すべき機器等</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	※ 床面	※ 0.15mm上のプラスチックシート等で二重	※ 壁面	※ 0.08mm上のプラスチックシート等	適用	室名	状態	設置すべき機器等													5 アスベスト含有保温材の除去	除去物及び汚染物 処理方法 ※ 密閉処理（二重袋梱包） 隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機フィルター、粉塵機フィルターについても密封処理を行う。 ・ セメント固化 除去工事 ・ 行う ・ 行わない 適当範囲 ※ 図示 養生等 ※ 養生シート等を用いて区画し、場外への飛散防止を行う。 掻き落とし・砕石・切断による除去工事 ※ 行わない ・ 行う この場合は<改修標仕9.1.3.(b)>により、密封処理とする。 除去工法 ※ 粉塵飛散抑制剤等により湿潤化し、手ばらしによること。 ※ 除去物については、<改修標仕9.1.3.(b)>により、密封処理とする。
※ 床面	※ 0.15mm上のプラスチックシート等で二重																										
※ 壁面	※ 0.08mm上のプラスチックシート等																										
適用	室名	状態	設置すべき機器等																								
6 アスベスト含有成形板の処理																											
⑦ 除去した石綿含有吹付け材等の保管、運搬、処分等																											
その他																											
① その他の提出書類		※労働基準監督署へ届出に必要な書類一式を、作業着手2週間前までに提出すること																									



案 内 図

仮設物設置場所（予定）

職員用駐車場



仮設計画について、事前に監督員・施設管理者と協議し承諾を得ること

配 置 図 1:300

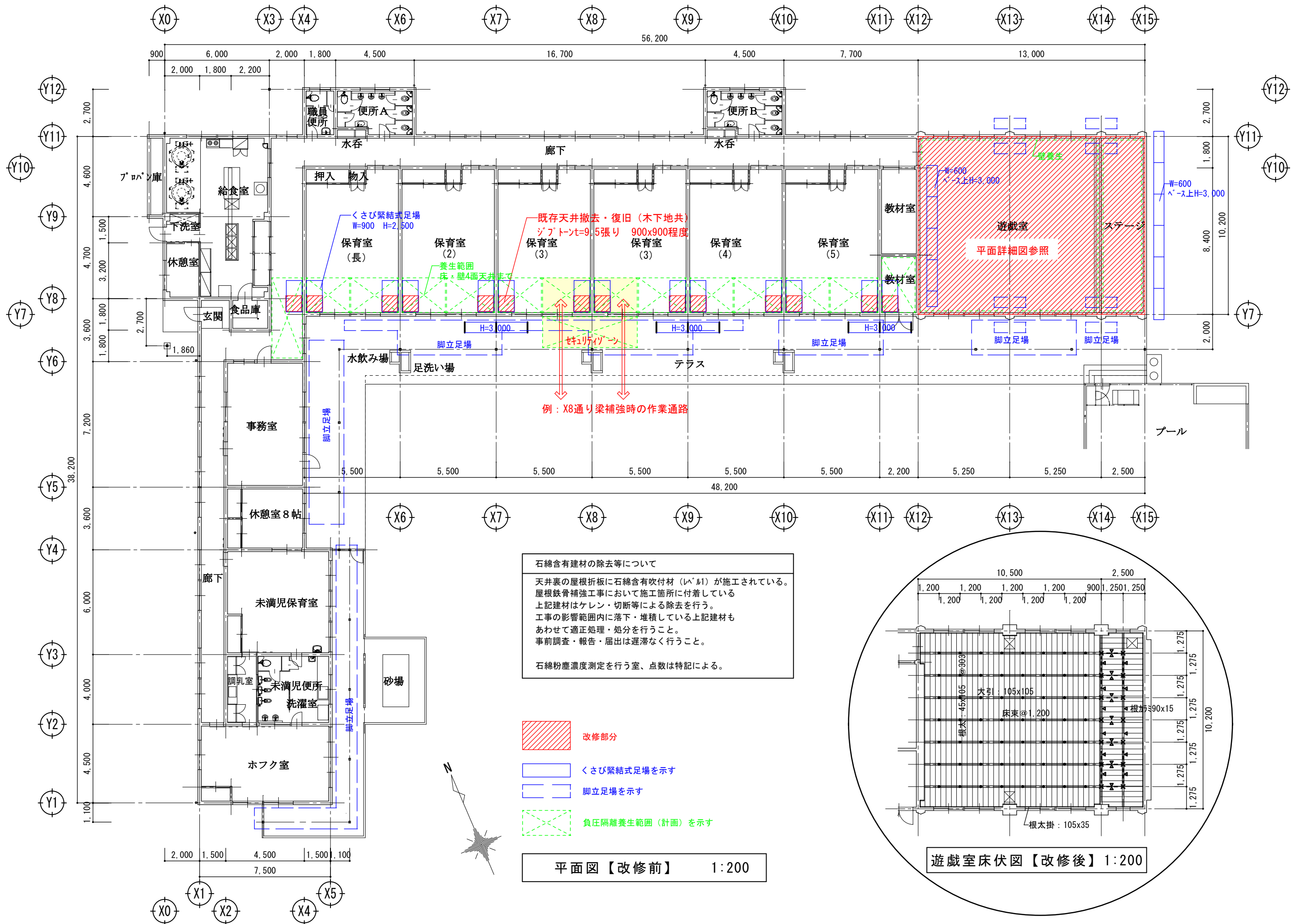
建 物 概 要	
施 設 名 称	高瀬保育園
棟 名	園舎
所 在 地	長野県佐久市鳴瀬1371
用 途	保育園
建 設 年	昭和49年
経 過 年 数	52年
延 床 面 積	796㎡
階 数	地上1階
構 造 種 別	鉄筋コンクリート構造 屋根鉄骨造
構 造 形 式	X・Y方向とも鉄筋コンクリート構造を含む壁式構造
基 礎 形 式	直接基礎 支持地盤GL-1.0m
増 改 築	昭和57年X10-11間、Y7-10間の屋根を増築 同年X10-15間テラス屋根の延長増築

外 部 仕 上 表			(屋根折板裏の岩綿吹付材は平成21年の調査によりアスベスト含有が確認されている※9)	青字：既存処理工事内容	赤字：改修工事内容
部位	【改修前】			【改修後】	
屋 根	保育室・遊戯室棟	(折板葺き H=150 t=0.8 岩綿吹付 t=15)	左記の上改修、カラーGL鋼板 角ハゼ折板 t=0.8 カバー工法	_____	
	廊下・便所・プロパン庫	(ルーフデッキ葺き H=88 t=0.6 岩綿吹付 t=15)	左記の上改修、カラーGL鋼板 角ハゼ折板 t=0.8 カバー工法	_____	
	給食室・事務室・未満児室棟	(折板葺き H=150 t=0.8 岩綿吹付 t=15)	左記の上改修、カラーGL鋼板 角ハゼ折板 t=0.8 カバー工法		
	テラス屋根	カラー鋼板小波板 一部透明樹脂小波板葺き	改修に係る部分の仮撤去	既存材にて復旧	露出する鉄骨補強部材はSOP塗り

軒 天	屋根折板裏表し 岩綿吹付なし			_____	
外 壁	コンクリート打放し仕上げ 及び同左ダイヤスキン吹付			改修に係る部分を補強要領に基づきケレン・はつり等	オーバーレイ合板コンクリート打放補修 シリコーン系撥水材塗り 取り合い部シーリング 天端ウレタン系塗膜防水
	一部リプラス溶接下地 モルタル金鍍 ダイヤスキン吹付			改修に係る部分の撤去	LGS下地 ラス合板t=7.5下地 モルタル塗 アクリルリシンローラー 既存取合い部目地切のうえシーリング
	底上部 防水モルタル金鍍				
開 口 部	アルミサッシ 一部カバー工法によりペアガラス入りサッシに改修			_____	
犬走り・テラス	テラス床 コンクリート同時金鍍 目地切			改修に係る部分の撤去	土間コンクリート同時金鍍仕上 既存取り合い部目地切
樋	軒樋	カラー鉄板 150x200x0.6t		_____	
	縦樋	VU Φ75		_____	
【その他】					
雨水浸透柵	コンクリート二次製品 外寸570角			根切範囲内の1ヶ所切り離し（接続配管共）	既存品にて復旧（配管、浸透材等是新規）
オイルタンク	防油堤付きオイルタンク			根切範囲外に移動	基礎新設のうえ既存品再設置（送油配管は新規）

改 修 室 内 部 仕 上 表									青字：既存処理工事内容	赤字：改修工事内容
		床	巾木	腰 壁	壁	天 井	FLヨリ	摘 要		
保 育 室	【改修前】	ブナフローリング t=15	米桐 OP	ラワンフローリング t=12 ワトコ塗	カラープaster塗 t=25	ジブトーン t=7 化粧釘打 一部開口	2,550	付鴨居 黒板 掲示板 押入 ロッカー		
		ワックス磨き	H=100		木軸部ラスボード t=9下地	7ﾙﾐﾅｰﾅｰﾅｰﾙ廻縁12x23	一部曲面	物入 ｶﾞｰﾝ掛		
	【改修後】	_____	_____	_____	_____	開口箇所：ジブトーン t=9.5張り				
		_____	_____	_____	_____	木製野縁復旧				
遊 戯 室	【改修前】	ブナフローリング t=15 全撤去	米桐 OP一部撤去	ラワンフローリング t=12 ワトコ塗 一部撤去	カラープaster塗 t=25 一部撤去 ※1	ジブトーン t=7 化粧釘打	4,700～	付鴨居OP 黒板・収納家具撤去		
		木床組 全撤去	H=100		木軸部ラスボード t=9下地		折曲	天井及び床ハッチ 床ハッチ撤去		
	【改修後】	長尺弾性塩ビシート t=6.2 ※2	ﾀﾏ集成材 CL	唐松羽目板 t=12 WP ※3	せっこうプaster塗	_____		照明器具取替 FF・扇風機再取付け		
		木床組 構造用合板t=12+ラワン合板t=9下地	H=100	構造用合板 t=12下地 ※4		_____		カーテン再取付け 床ハッチ 収納家具		
同 ス テ ー ジ	【改修前】	ブナフローリング t=15 全撤去	米桐 OP		カラープaster塗 t=25	ジブトーン t=7 化粧釘打	3,000	ｶｰﾅｰﾙ		
		木床組 全撤去	H=100		木軸部ラスボード t=9下地			床ハッチ撤去 ピアノ移動		
	【改修後】	複合フローリング t=15 ※5	_____		_____	_____		照明器具取替 床ハッチ ピアノ移動		
		木床組 構造用合板t=12下地	_____		_____	_____		カーテン・幕類再取付け		

特 記 事 項		
※1	既存仕上撤去	隠蔽された部分の躯体に、豆板、ひび割れ、発錆などの要補修個所が確認された場合は、状況を記録し監督員と対応について協議すること
※2	長尺弾性塩ビシート t=6.2	クヤマジャパン（株）タラフレックス 同等品
※3	唐松羽目板 t=12	長野県産材
※4	構造用合板 t=12下地	打設コンクリート面を平滑にケレンのうえ、コンクリート釘・接着剤を併用し仕上材の下地とする
※5	複合フローリング t=15	北海道ﾊﾞｰｹｯﾄ製 天然木ひき板複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ 加圧樹脂含浸寸法安定化高強度処理 リｰｼﾞｪﾝｷﾞｬﾝﾊﾞｽ t 15 x 75 x 909 ﾏｲｳﾍﾞﾐｯｸ塗装 同等品
※9	石綿含有建材の処理・処分	改修個所に施工された石綿含有建材が、本工事において除去の必要がある場合は、関係法令・ガイドラインに準拠し適正処理すること



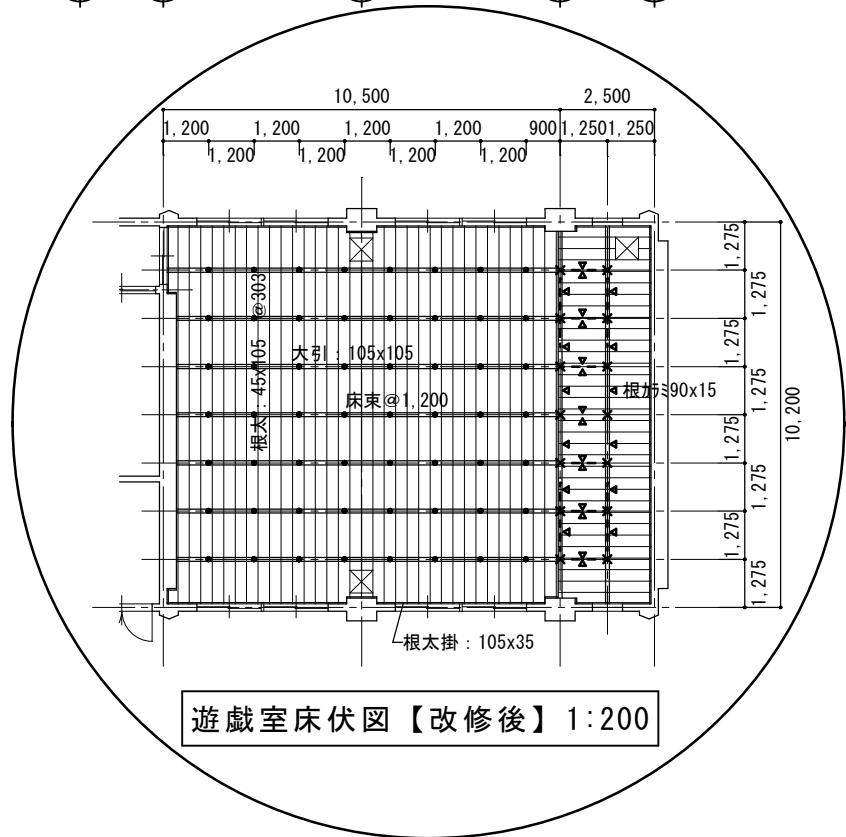
石綿含有建材の除去等について

天井裏の屋根折板に石綿含有吹付材（パル1）が施工されている。屋根鉄骨補強工事において施工箇所に付着している上記建材はケレン・切断等による除去を行う。工事の影響範囲内に落下・堆積している上記建材もあわせて適正処理・処分を行うこと。事前調査・報告・届出は遅滞なく行うこと。

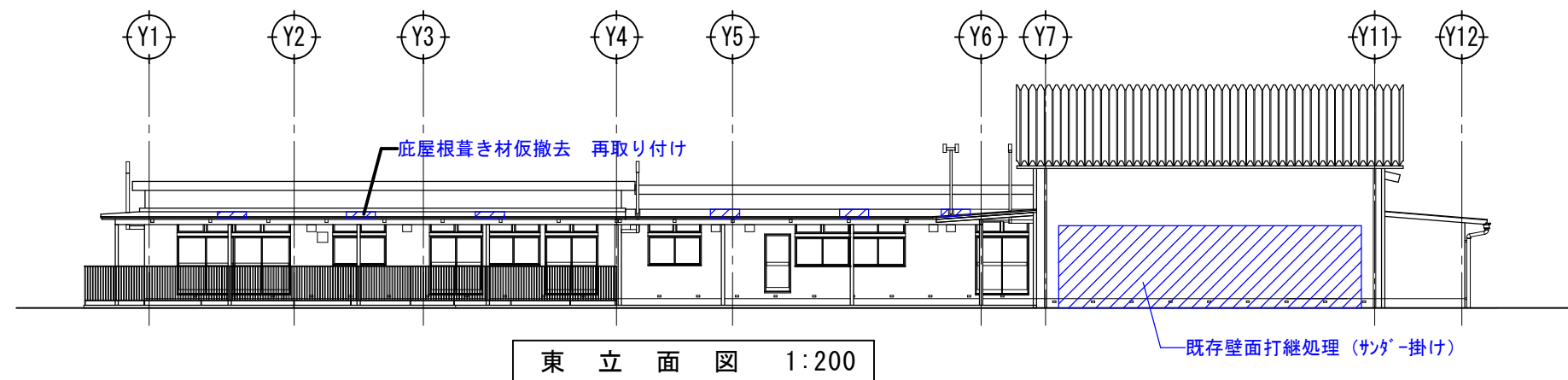
石綿粉塵濃度測定を行う室、点数は特記による。

- 改修部分
- くさび緊結式足場を示す
- 脚立足場を示す
- 負圧隔離養生範囲（計画）を示す

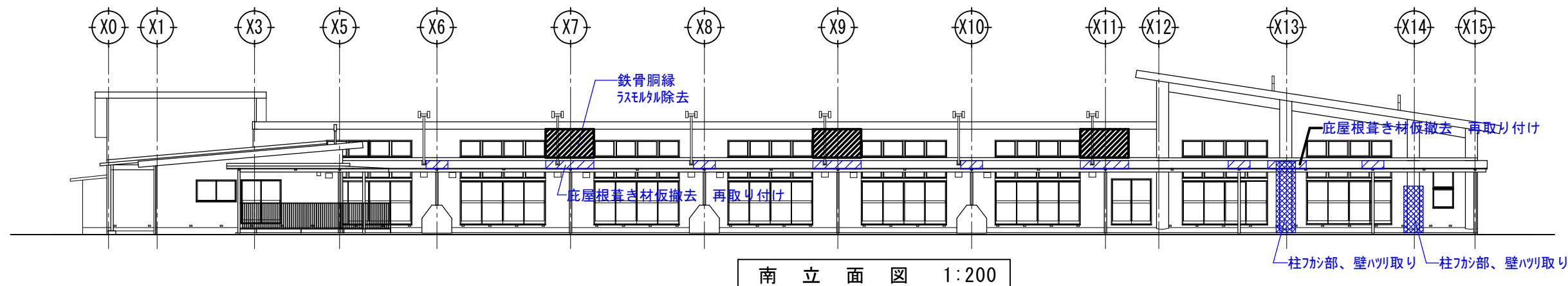
平面図【改修前】 1:200



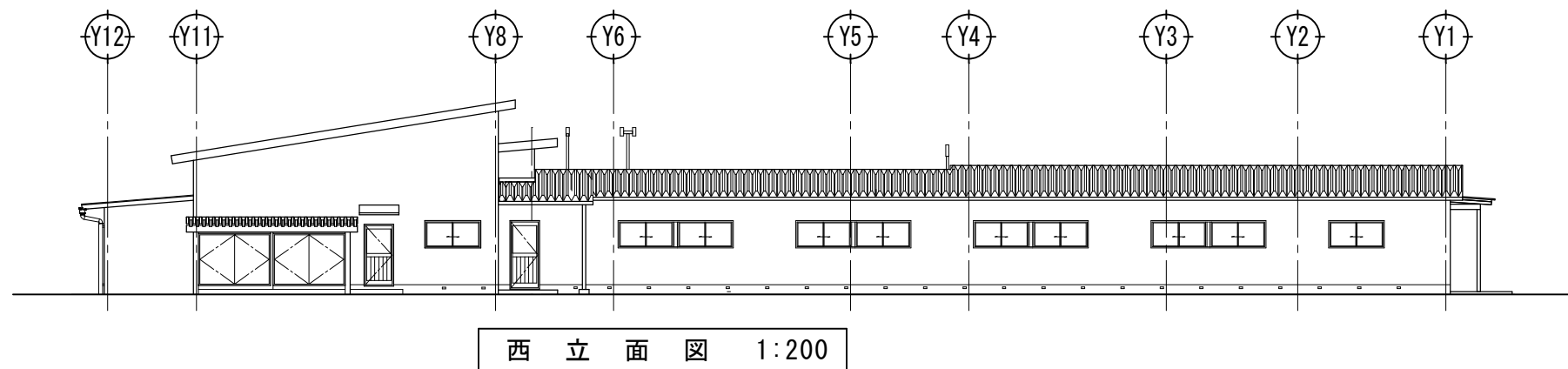
遊戯室床伏図【改修後】 1:200



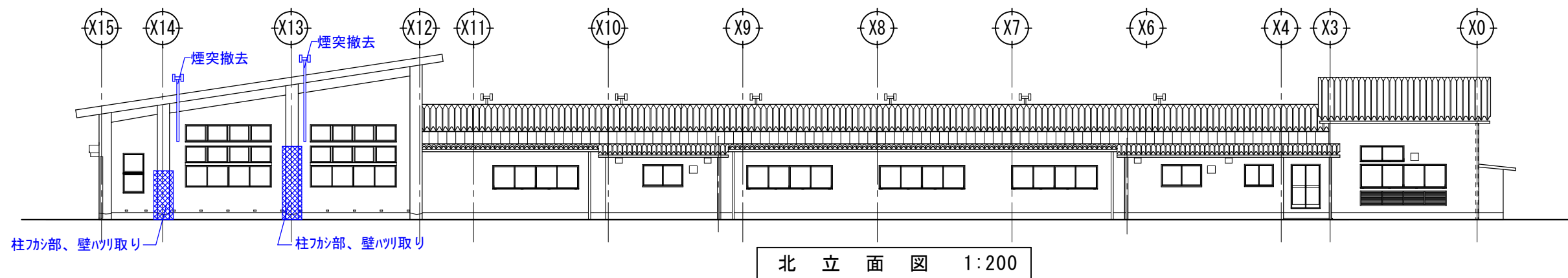
東 立 面 図 1:200



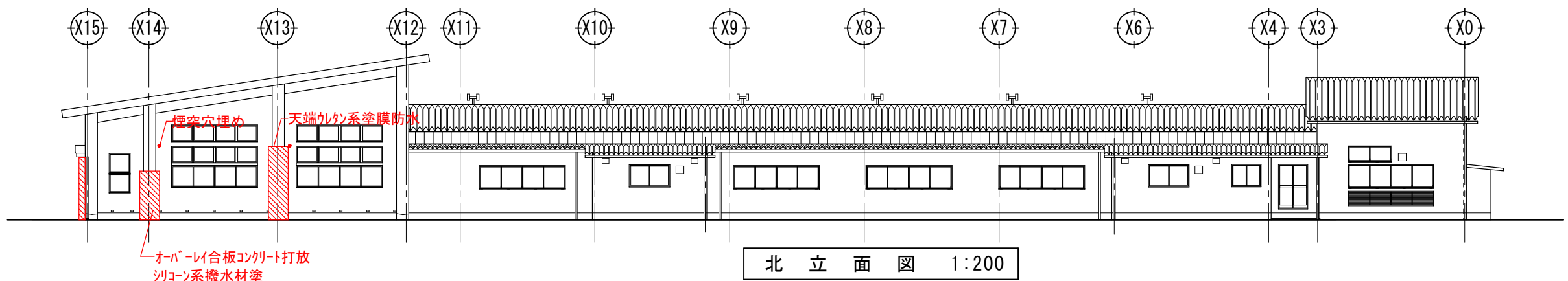
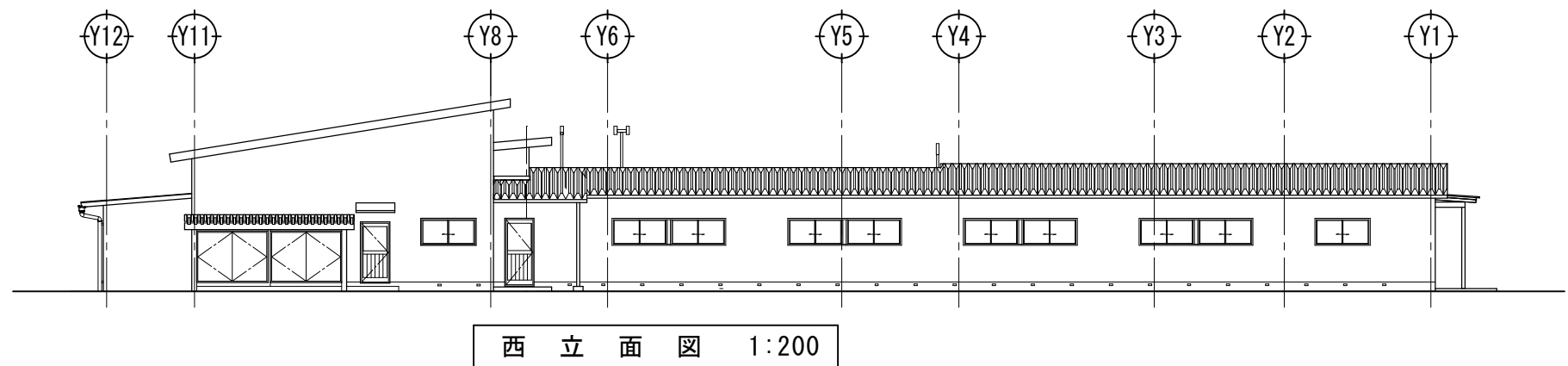
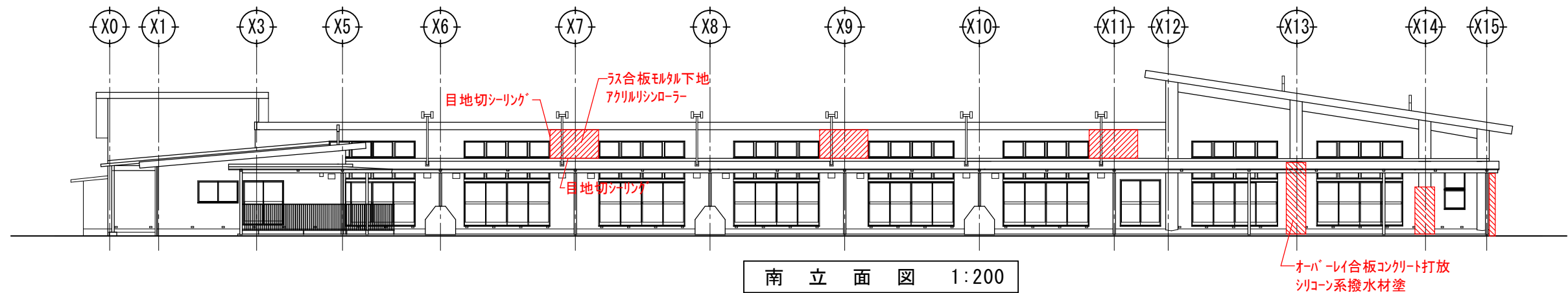
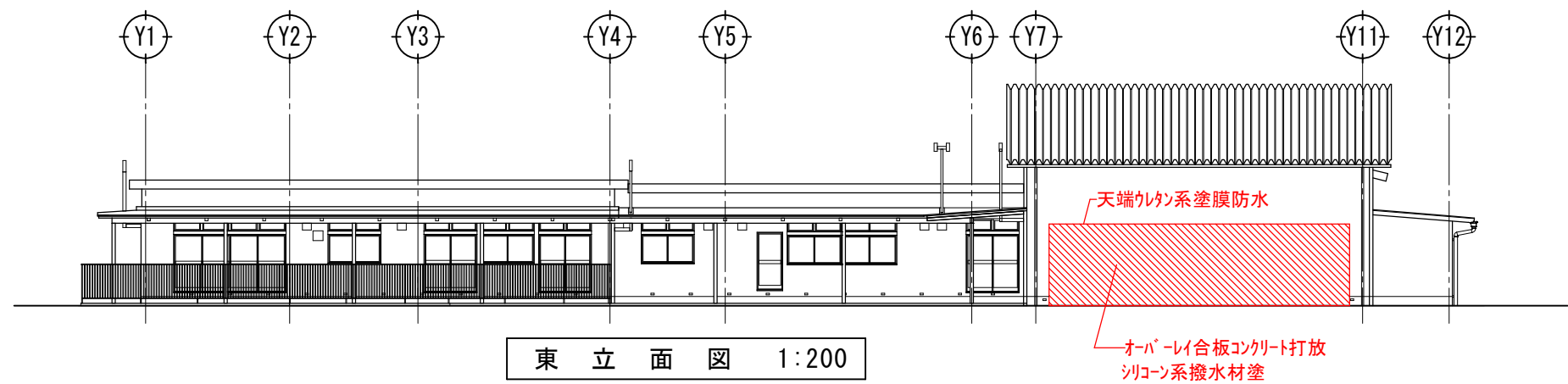
南 立 面 図 1:200

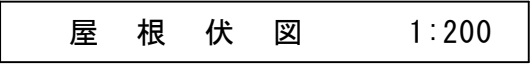


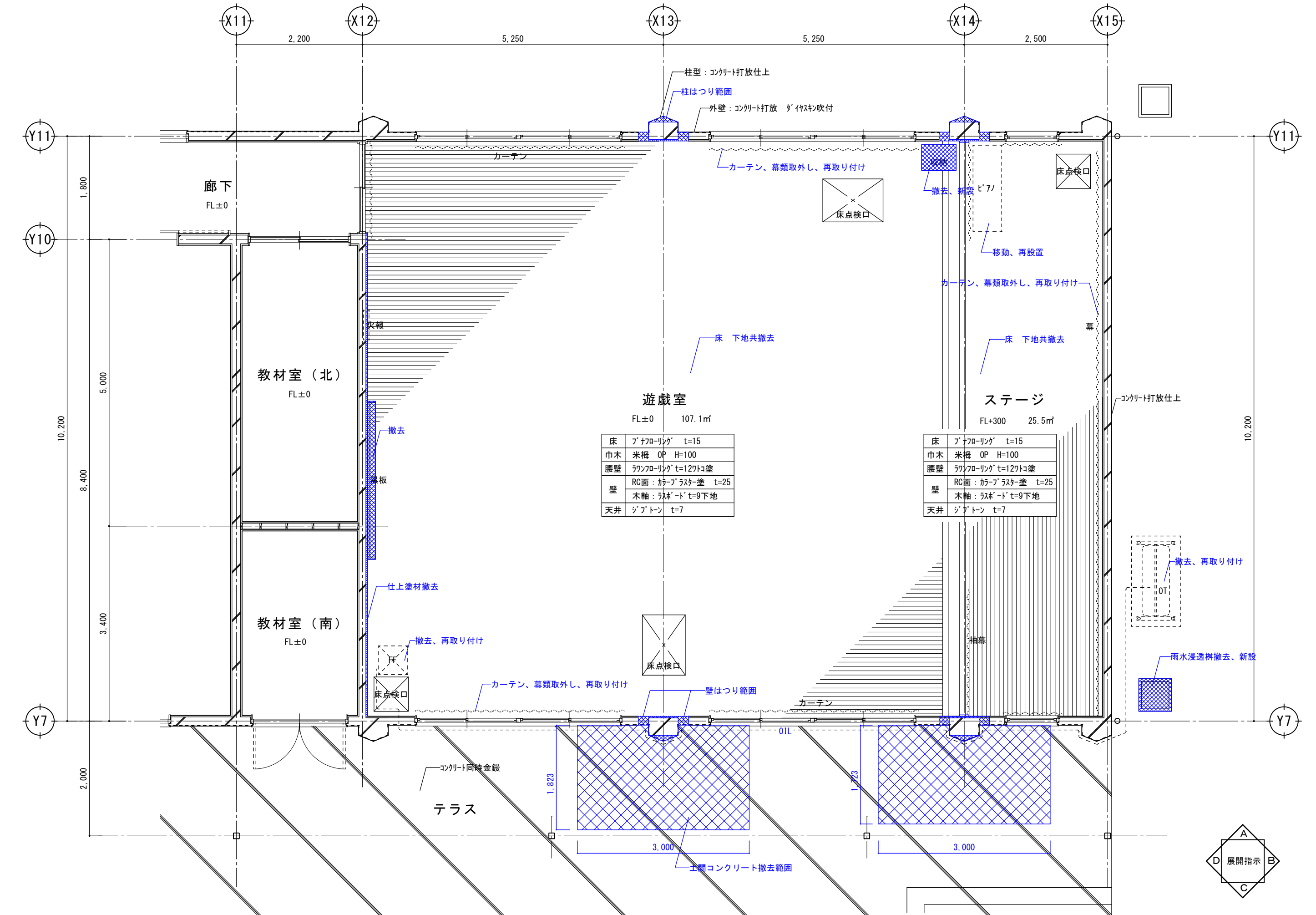
西 立 面 図 1:200



北 立 面 図 1:200







床	フナフローリング	t=15
巾木	米桐 OP	H=100
腰壁	フナフローリング	t=127トコ塗
壁	RC面：カーブ・ラスター塗	t=25
	木軸：ラスボード	t=9下地
天井	ジブ・トーン	t=7

床	フナフローリング	t=15
巾木	米桐 OP	H=100
腰壁	フナフローリング	t=127トコ塗
壁	RC面：カーブ・ラスター塗	t=25
	木軸：ラスボード	t=9下地
天井	ジブ・トーン	t=7



(有) 魁設計事務所

長野県佐久市野沢 306-12
PHONE (0267) 63-6355
FAX (0267) 63-6366

一級建築士事務所登録
(佐久) G第72161号
一級建築士登録第163929号
土屋正明

CHECK
DESIGN
DRAWING
DATE
2026・05

土屋

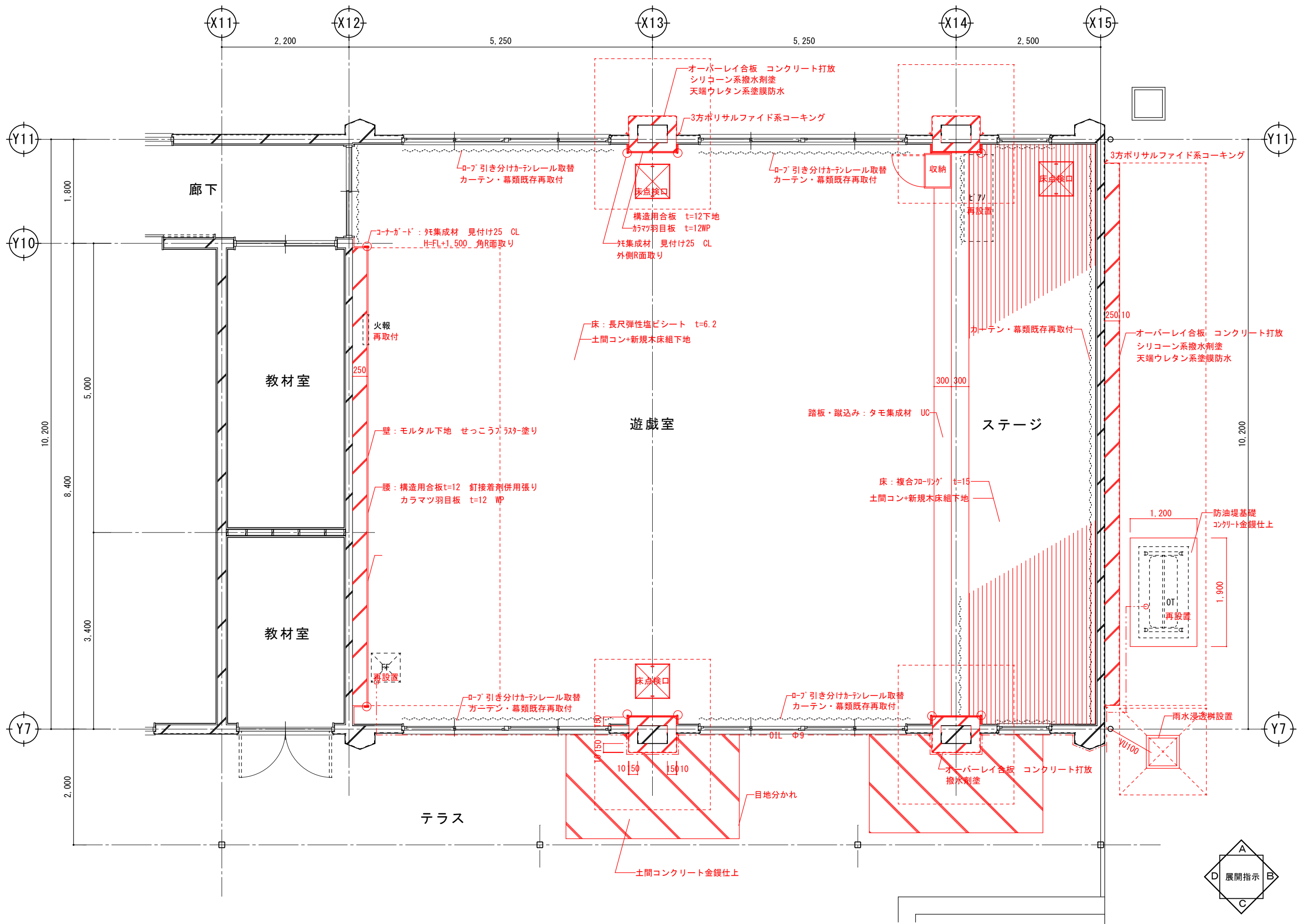
JOB NAME
SHEET NAME

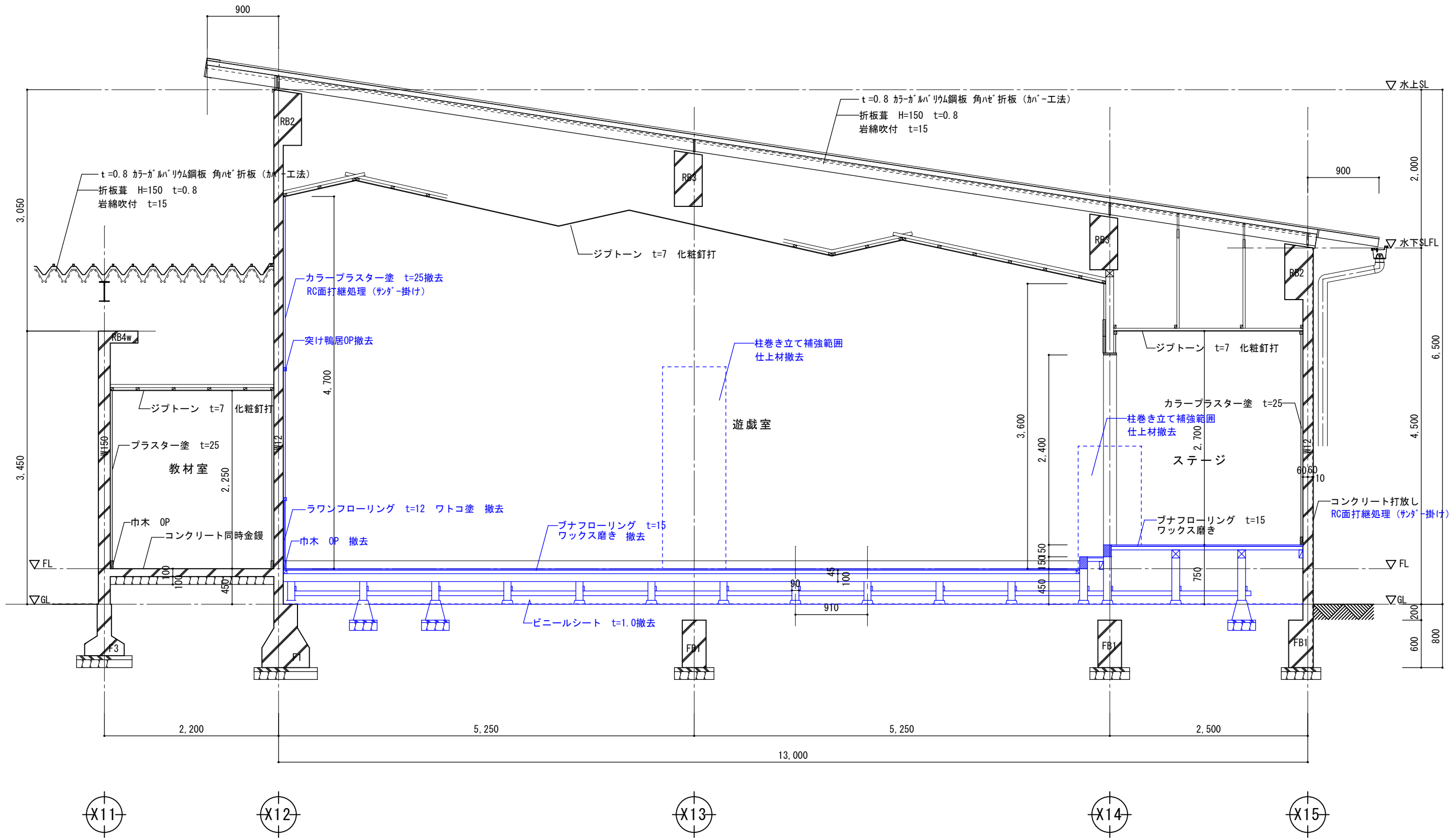
令和8年度 高瀬保育園耐震改修工事
遊戯室 平面詳細図【改修前】

SCALE
1:60

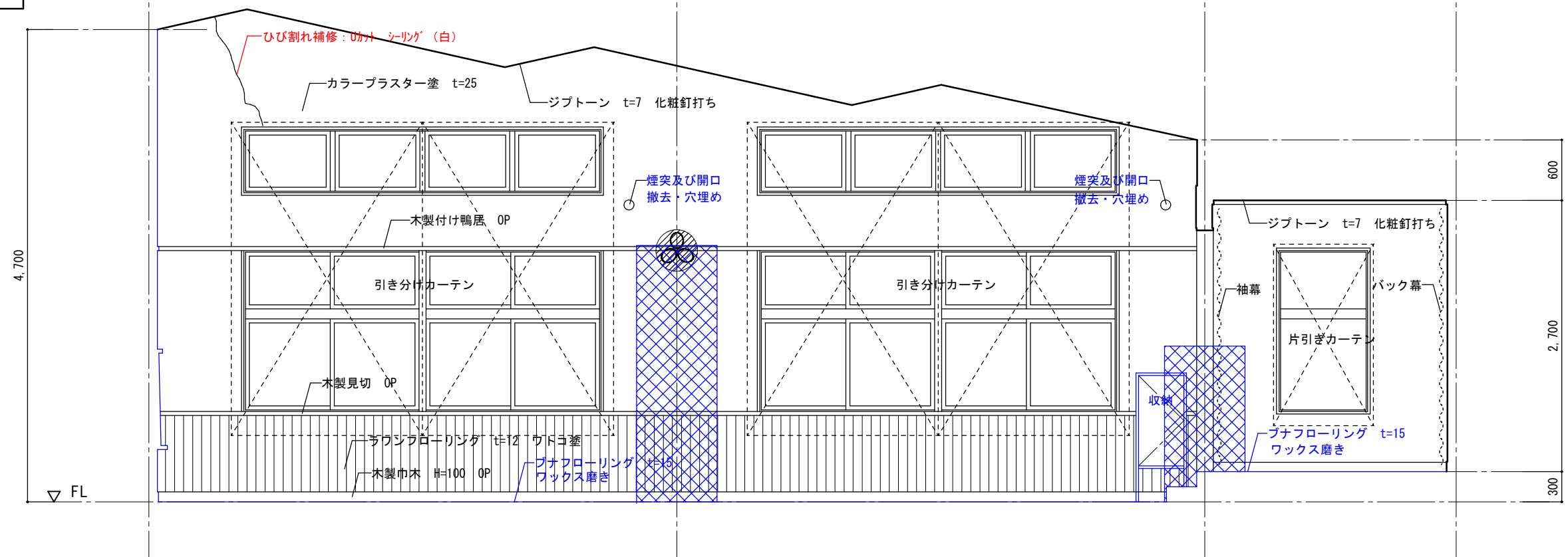
SHEET NO.
A-09

PART
意匠

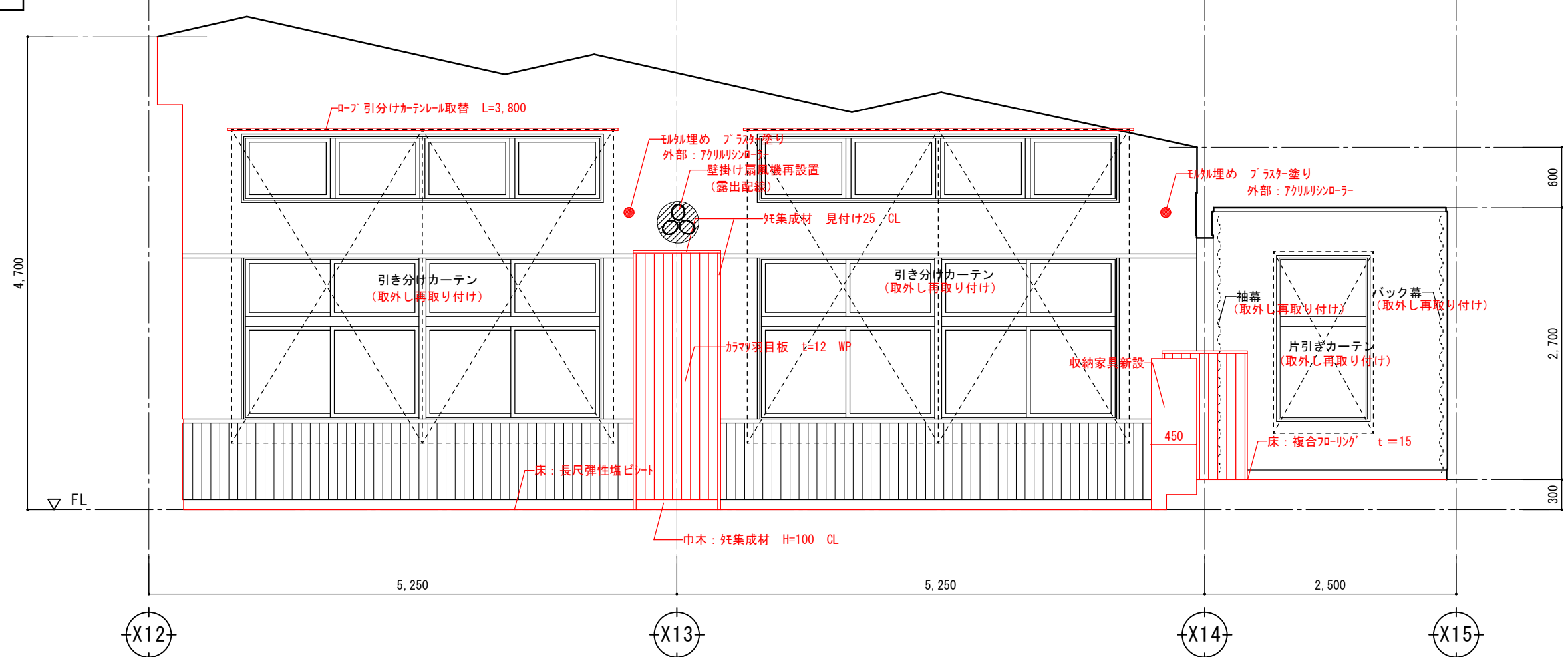




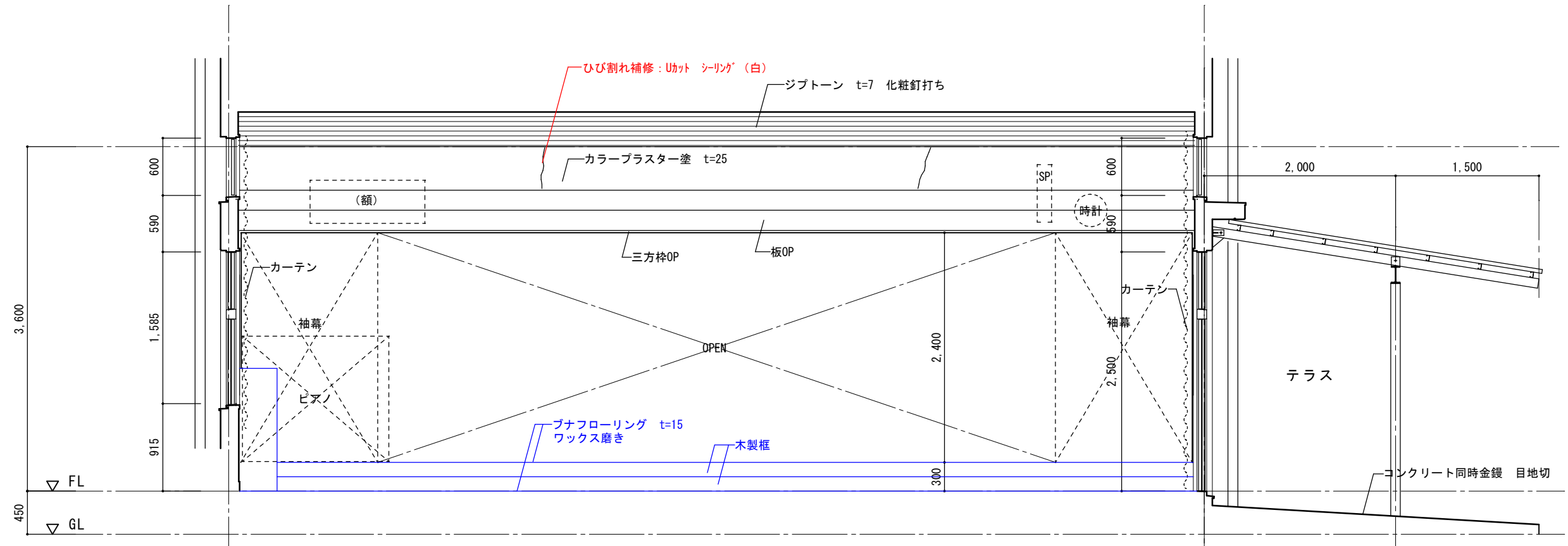
【改修前】 A面



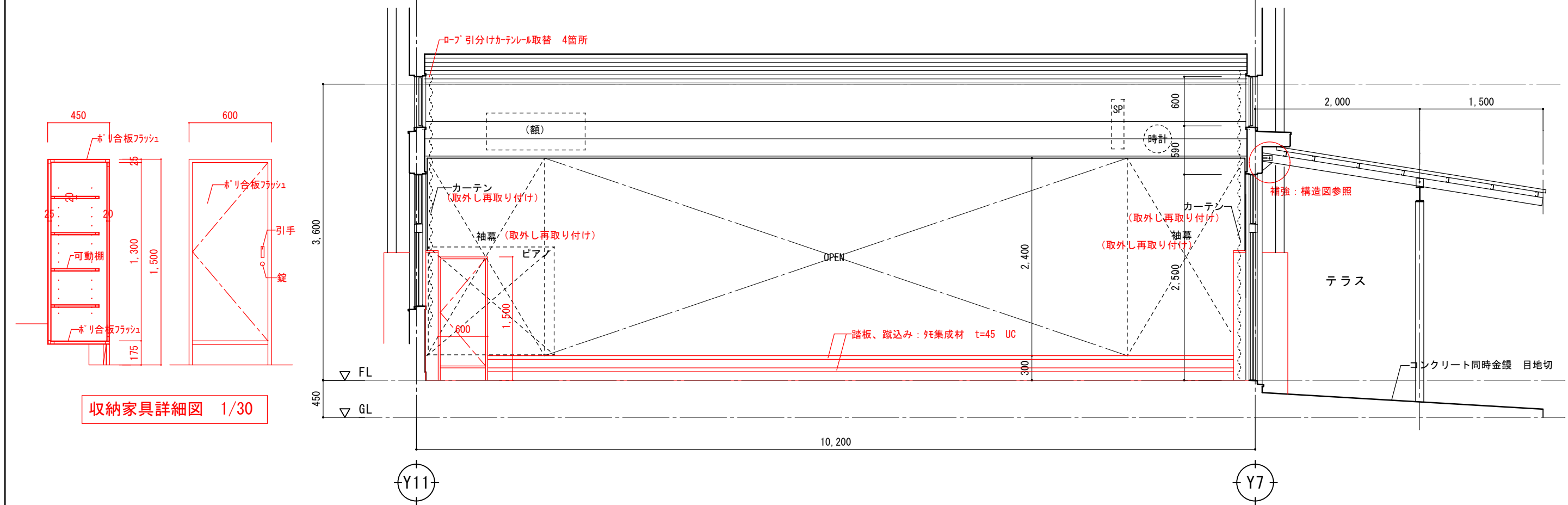
【改修後】 A面



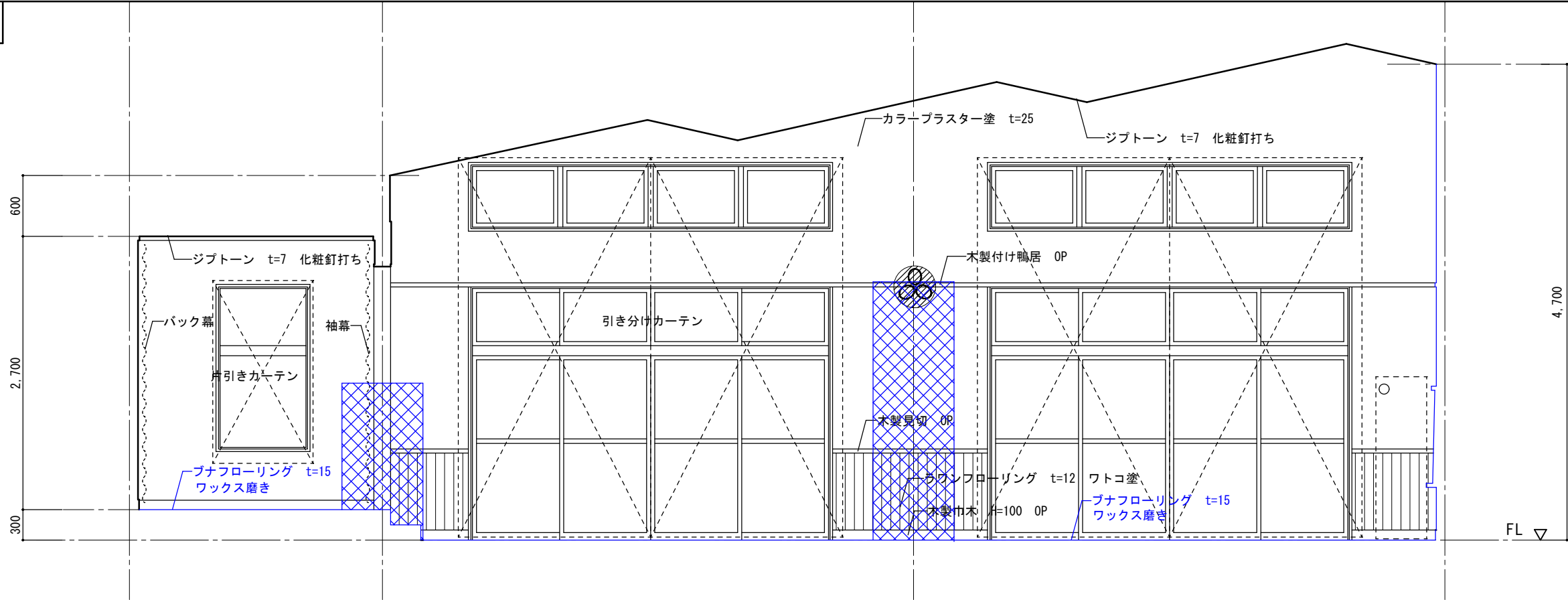
【改修前】 B面



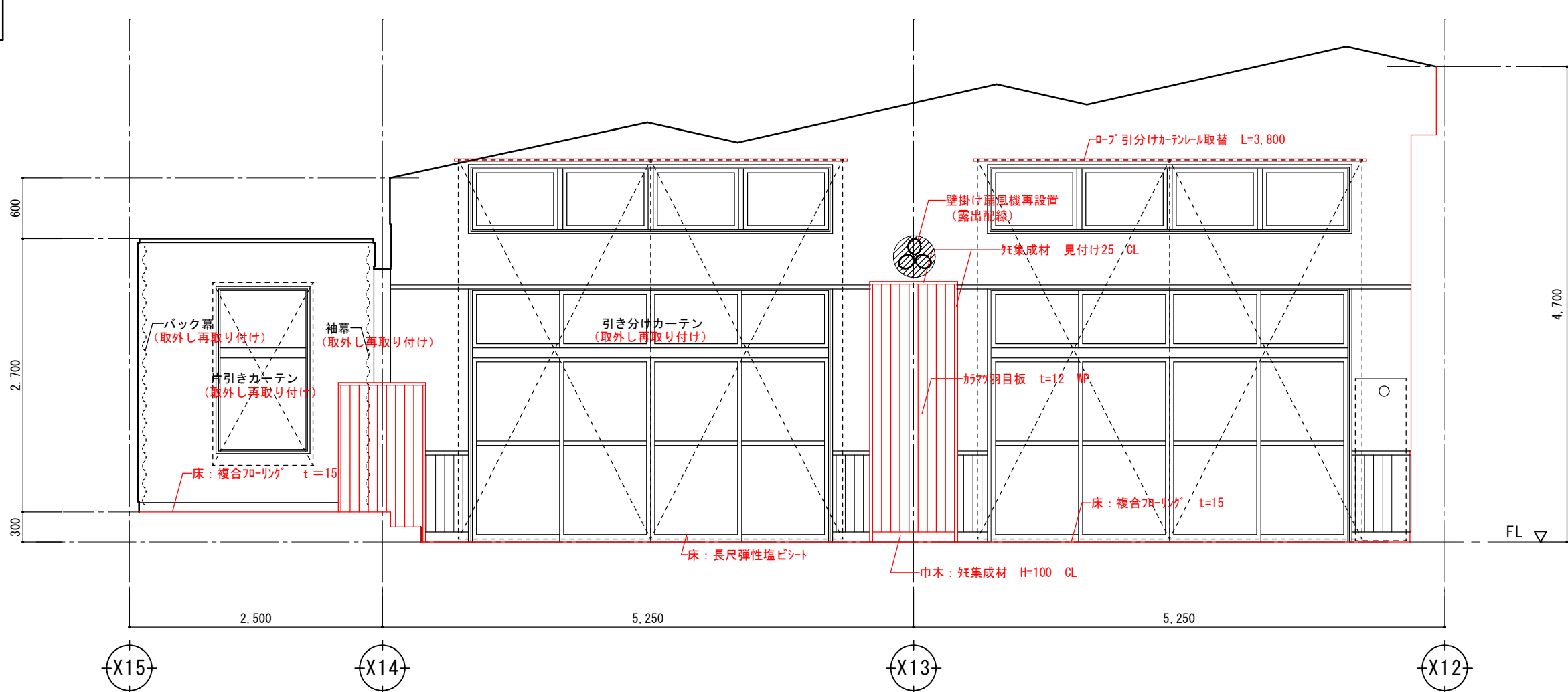
【改修後】 B面



【改修前】 C面



【改修後】 C面



㈱魁設計事務所

長野県佐久市野沢 306-12
PHONE (0267) 63-6355
FAX (0267) 63-6366

一級建築士事務所登録
(佐久) G第7 Z 1 6 1号
一級建築士登録第 163929号
土屋 正明

CHECK
土屋

DESIGN
土屋

DRAWING
土屋

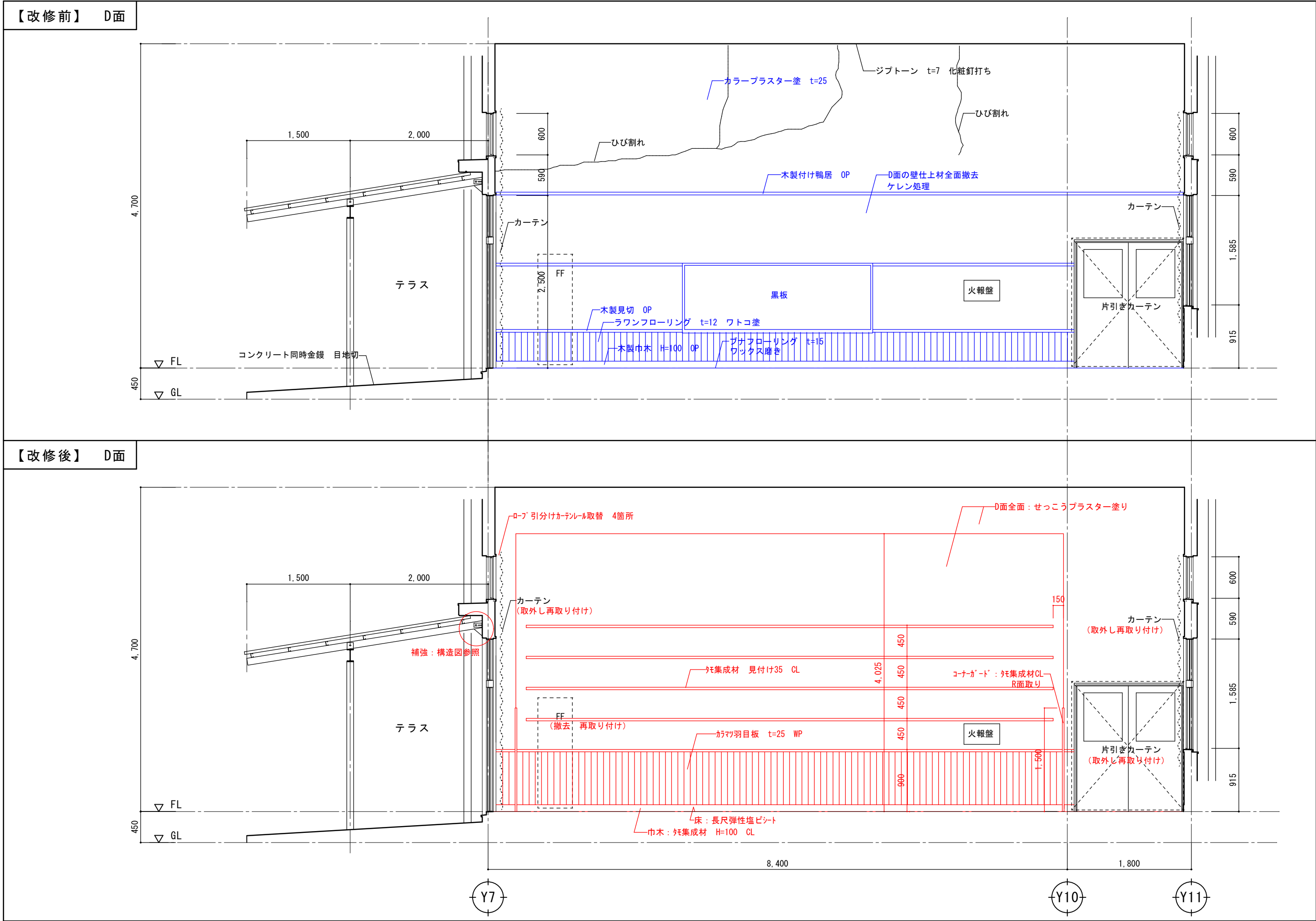
DATE
2026.05

JOB NAME
SHEET NAME

令和8年度 高瀬保育園耐震改修工事
遊戯室展開図 C面

SCALE
1:50

SHEET NO.
A-15
PART
意匠



(有)魁設計事務所

長野県佐久市野沢 306-12
PHONE (0267) 63-6355
FAX (0267) 63-6366

一級建築士事務所登録
(佐久) G第7Z161号
一級建築士登録第163929号
土屋正明

CHECK
DESIGN
DRAWING
DATE
2026.05

土屋

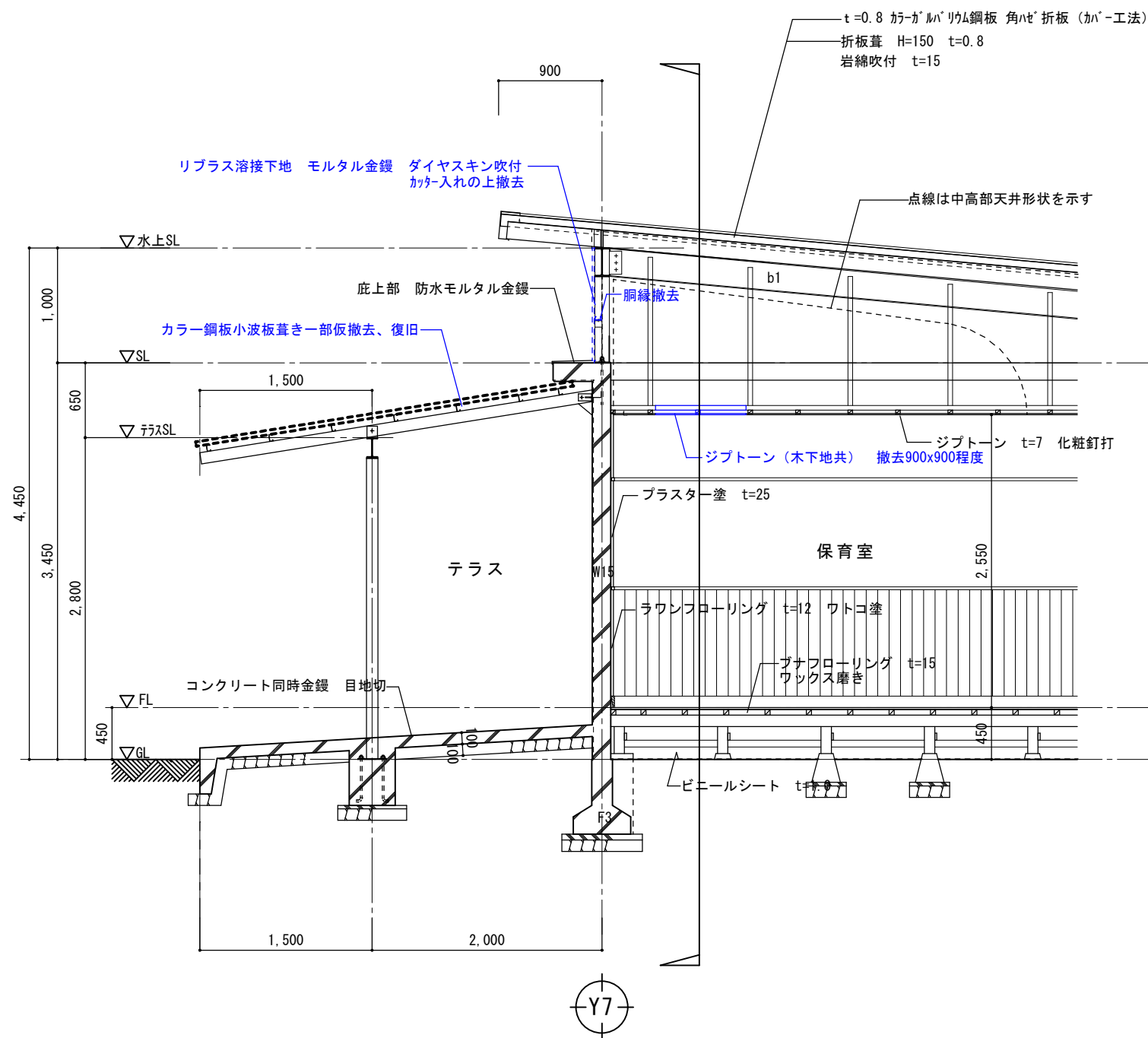
JOB NAME
SHEET NAME

令和8年度 高瀬保育園耐震診改修工事
遊戯室展開図 D面

SCALE
1:50

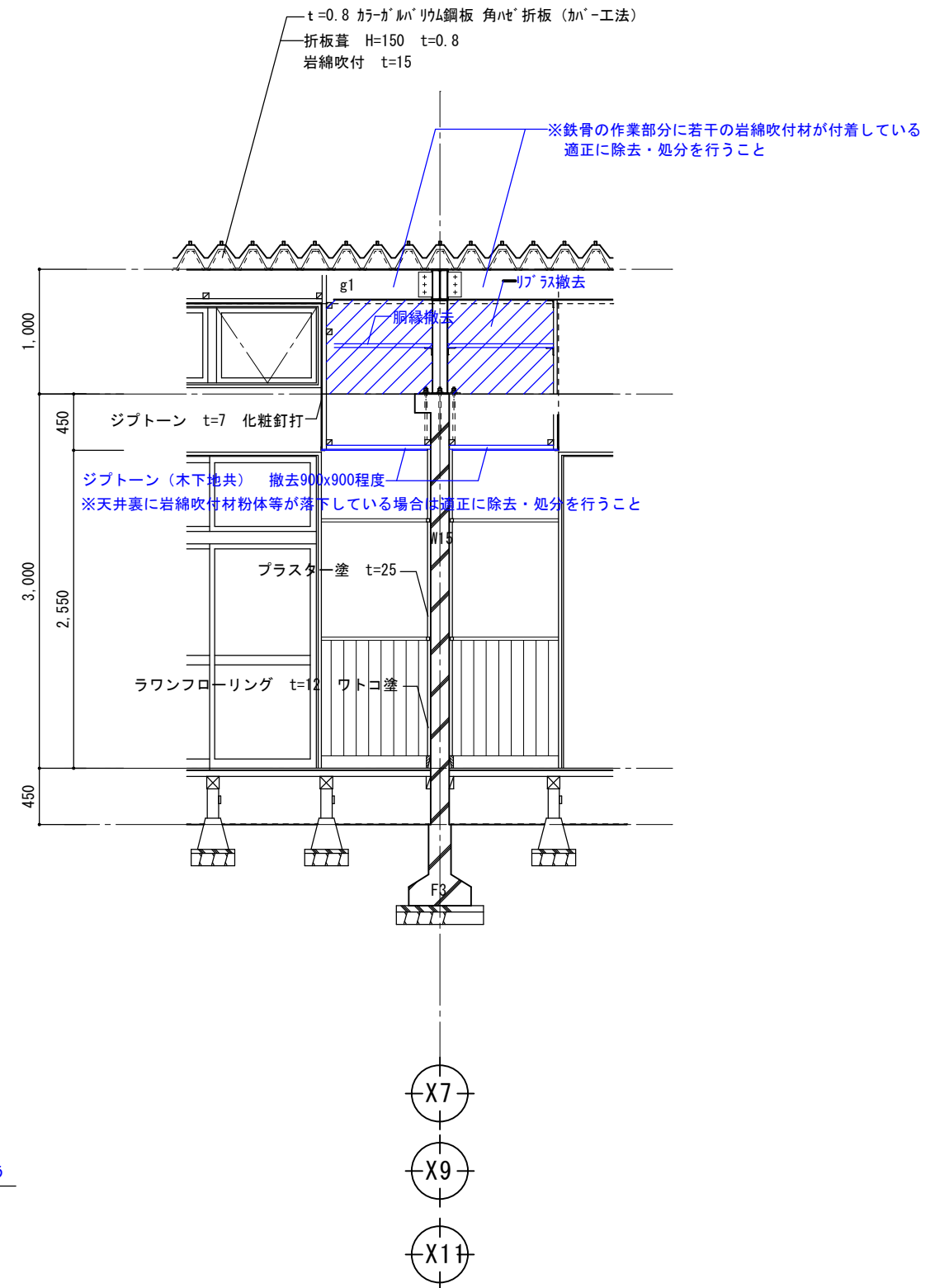
SHEET NO.
A-16

PART
意匠



※天井を開口した室は、施工中、施工後に石綿粉塵濃度測定を行う

保育室棟 断面詳細図 1:50



(有)魁設計事務所

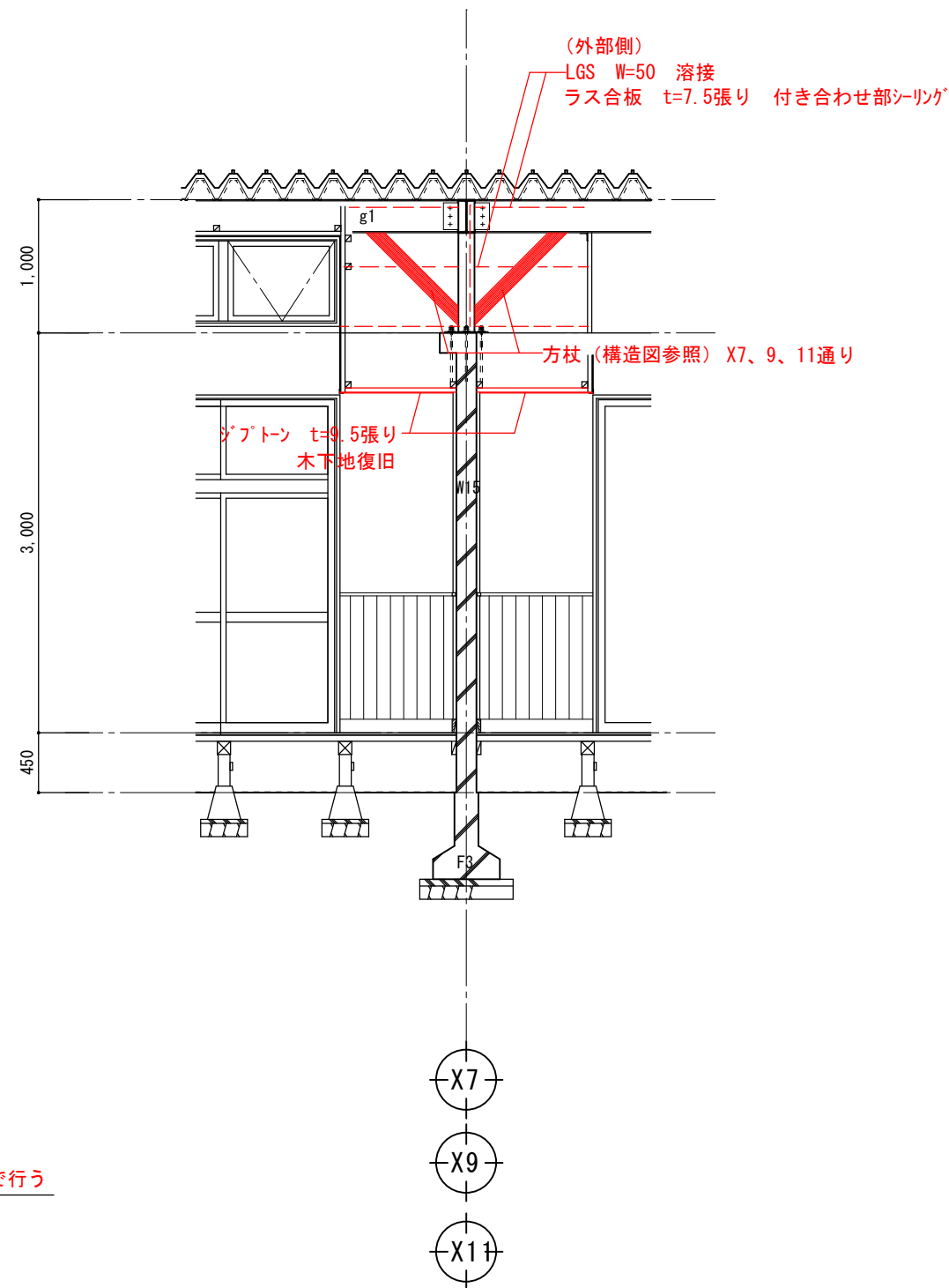
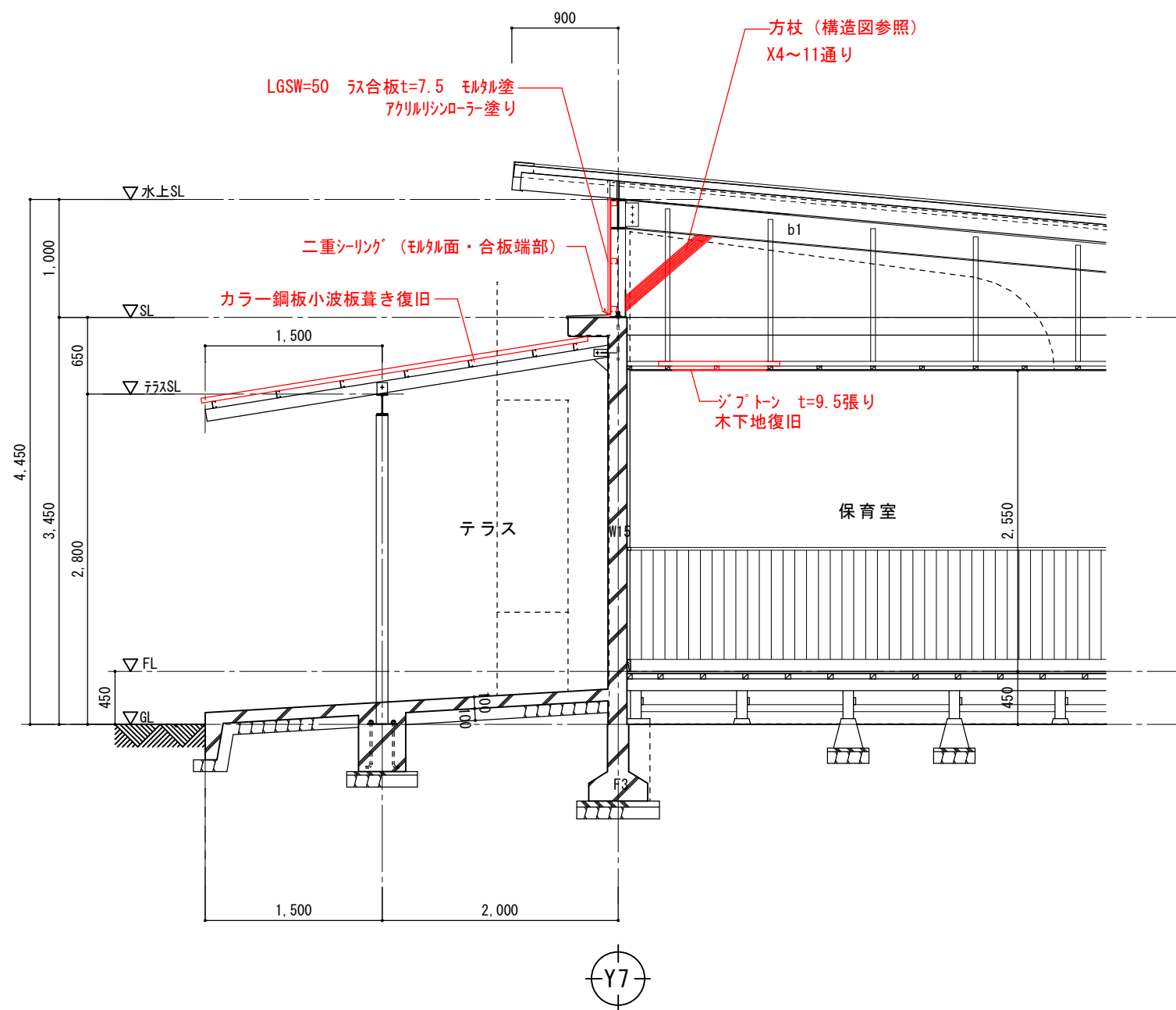
長野県佐久市野沢 306-12
PHONE (0267) 63-6355
FAX (0267) 63-6366

一級建築士事務所登録
(佐久) G第7 Z 1 6 1号
一級建築士登録第 163929号
土屋正明

CHECK
DESIGN
DRAWING
DATE
2026・05

JOB NAME
令和8年度 高瀬保育園耐震改修工事
SHEET NAME
保育室棟 断面詳細図【改修前】
SCALE
1:50

SHEET NO.
A-17
PART
意匠



※天井開口、補強工事、天井復旧は負圧隔壁養生内で行う

保育室棟 断面詳細図 1:50

構造関係共通事項

1 総則

1.1 適用範囲

- (1) 構造関係共通事項は、総則、構造関係共通図（配筋標準図、鉄骨標準図、耐震改修標準図、木造標準図）から構成される。
- (2) 構造関係共通図（配筋標準図）は、鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立等の一般的な標準図とする。
- (3) 構造関係共通図（鉄骨標準図）は、鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄骨の加工、組立の一般的な標準図とする。

1.2 優先順位

- (1) 設計図書の内容のうち配筋方法等に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
1. 設計図
2. 構造関係共通図（配筋標準図、鉄骨標準図、耐震改修標準図、木造標準図）

1.3 用語の定義

- (1) 異形鉄筋の径(本文、図、表において「d」で示す)は、呼び名に用いた数値とする。
- (2) 長さ、厚さ等の単位は、特記なき限りmmとする。

1.4 記号等

図面で使用する記号等は、表1.1～表1.8、図1.1を標準とする。

表1.1 異形鉄筋の断面表示記号

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築		○	×	∅	●	○	⊙	⊗	⊕

表1.2 各階伏図における記号

記号	説明	記号	説明
	スラブの配筋種別		杭の位置
	スラブ厚さ		試験杭の位置
	階段の配筋種別		打増しの範囲
	土間コンクリート		スラブ開口
	コンクリートブロック壁（C B壁）		ボーリング位置
	梁・スラブの上がり下がり範囲		FLからの上がり下がり
	耐力壁の種別		一般壁の種別
	片持スラブ形階段を受け、かつ耐力壁の種別		一般壁の種別
	土圧を受け、かつ耐力壁の種別		片持スラブ形階段を受け、かつ一般壁の種別

表1.3 梁貫通孔記号

区分	径	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400
建築																

表1.4 スリプ材質の凡例

管 名	鋼 管	溶融亜鉛めっき鋼板	硬質塩化ビニル管（薄肉管）	つば付き鋼管（黒管）
記号（建築用）	SP（白管）	GA	VU	RS

※建築用以外のスリプ材質は各工事による。

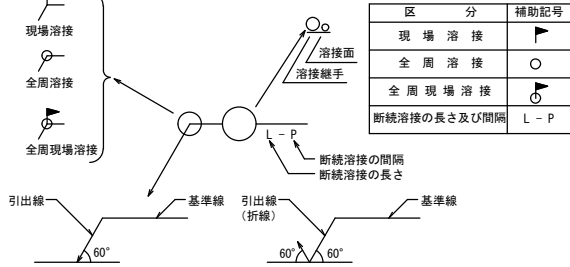
表1.5 高力ボルト径の記号

区分	径	M12	M16	M20	M22	M24
高力ボルト（F10T、S10T）		○	φ	⊕	⊗	⊕
溶融亜鉛めっき高力ボルト（F8T相当）						

表1.7 溶接継手及び溶接面の分類別記号

分 類	記 号
溶 接 継 手	
完全溶込み溶接	B
突出合せ継手	T
T型継手	L
かど継手	F
隅肉溶接	P
部分溶込み溶接	FL
重ねアーク溶接（フレア溶接）	1
片面溶接	2
両面溶接	

表1.8 溶接の補助記号



※特記無き限り、完全溶込溶接の溶接方法・溶接面は適切な溶接方法等による。

図1.1 溶接記号の記載例

構造関係共通図（配筋標準図）

1 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径は、表1.1を標準とする。

表1.1 鉄筋の折曲げ内法直径

折曲げ 角 度	折曲げ図 (余長)	折曲げ内法直径(D)		
		鉄筋の種類	SD295A SD295B、SD345	SD390
		呼び名	D16 以下	D19 ～ D38
180°				
135°				
90°				
135° 及び 90° (幅止め筋)				

1. 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フックまたは135° フックを用いる場合は、余長は 4d 以上とする。
2. 90° 未満の折曲げの内法直径は設計図による。

2 異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。

- (1) 柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部

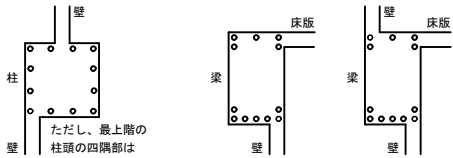


図2.1 末端部にフックを必要とする出隅部の鉄筋（●印）

- (2) 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
- (3) 杭基礎のベース筋
- (4) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋

3 継手及び定着

- (1) 鉄筋の重ね継手

- (7) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- (4) 柱及び梁主筋並びに耐力壁を除く鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。

表3.1 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の 種 類	コンクリートの 設計基準強度 F _c (N/mm ²)	L ₁ (フックなし)	L _{1b} (フックあり)
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24, 27	35d	25d
	30, 33, 36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24, 27	40d	30d
	30, 33, 36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24, 27	45d	35d
	30, 33, 36	40d	30d

- (注) 1. L₁、L_{1b}：重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合のL_{1b}は、図3.1に示すようにフック部分Qを含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。

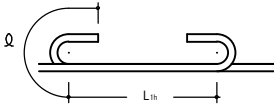
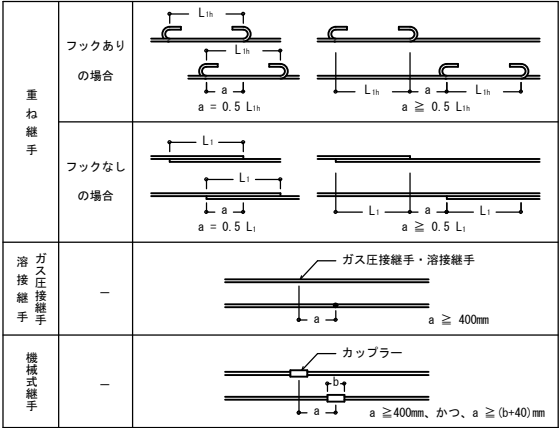


図3.1 フックありの場合の重ね継手の長さ

- (7) 耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、フックありなしにかかわらず40d（軽量コンクリートの場合は50d）又は表3.1の重ね継手の長さのうちいずれか大きい値とする。

- (1) 隣り合う継手の位置は、表3.2による。
- ただし、スラブ筋で D16以下の場合及び壁筋の場合は除く。

表3.2 隣り合う継手の位置



- (2) 鉄筋の定着

- (7) 鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。

表3.3 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の 種 類	コンクリートの 設計基準強度 F _c (N/mm ²)	直線定着の長さ				フックあり定着の長さ			
		L ₁	L ₂	L ₃	スラブ	L _{1b}	L _{1b}	L _{1b}	スラブ
SD295	18	45d	40d	小梁	10d	35d	30d	10d	—
	21	40d	35d	小梁	かつ 150mm 以上	30d	25d	10d	—
	24, 27	35d	30d	小梁	かつ 150mm 以上	25d	20d	10d	—
	30, 33, 36	35d	30d	小梁	かつ 150mm 以上	25d	20d	10d	—
SD345	18	50d	40d	(片持 スラブ の場合 25d)	(片持 スラブ の場合 25d)	30d	25d	10d	—
	21	45d	35d	(片持 スラブ の場合 25d)	(片持 スラブ の場合 25d)	30d	25d	10d	—
	24, 27	40d	35d	(片持 スラブ の場合 25d)	(片持 スラブ の場合 25d)	30d	25d	10d	—
	30, 33, 36	35d	30d	(片持 スラブ の場合 25d)	(片持 スラブ の場合 25d)	30d	25d	10d	—
SD390	21	50d	40d	(片持 スラブ の場合 25d)	(片持 スラブ の場合 25d)	35d	30d	10d	—
	24, 27	45d	40d	(片持 スラブ の場合 25d)	(片持 スラブ の場合 25d)	35d	30d	10d	—
SD390	30, 33, 36	40d	35d	(片持 スラブ の場合 25d)	(片持 スラブ の場合 25d)	30d	25d	10d	—

- (注) 1. L₁、L_{1b}：2. から4. まで以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
2. L₁、L_{1b}：割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
3. L₃：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
4. L_{1b}：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
5. フックあり定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分Qを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。

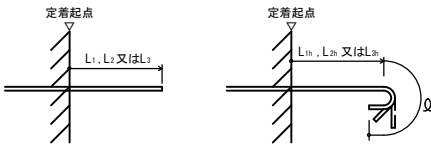


図3.2 直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

- (4) 梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、図3.3により、次の(a)、(b)及び(c)をすべて満足するものとする。
- (a) 全長は表3.3に示す直線定着の長さ以上
- (b) 余長は 8d 以上
- (c) 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さLa及びLbは、表3.4に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、原則として柱せいの3/4倍以上とする。

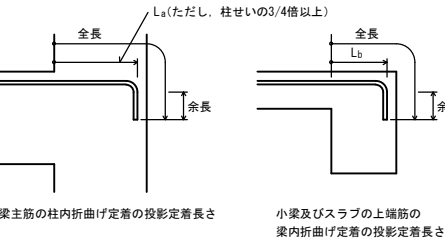


図3.3 折曲げ定着の方法

表3.4 鉄筋の投影定着の長さ

鉄筋の 種 類	コンクリートの 設計基準強度 F _c (N/mm ²)	L _a	L _b
SD295	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d
	30, 33, 36	20d	15d

- (注) 1. L_a：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持梁及び片持スラブを含む。）
2. L_b：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ（片持小梁及び片持スラブを除く。）
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。

- (7) 溶接金網の継手及び定着は、図3.4による。
- なお、L₁は表3.1に、L₁及びL_{1b}は表3.3による。

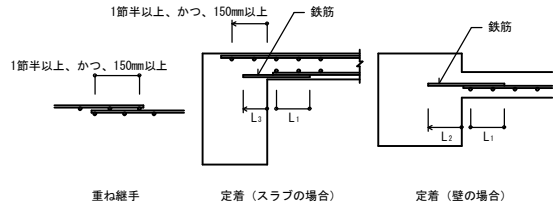


図3.4 溶接金網の継手及び定着

- (1) スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による

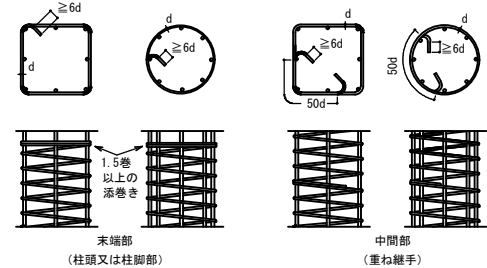


図3.5 スパイラル筋の継手及び定着

4 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

- (1) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。
- 柱及び梁の主筋に D29 以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ

構造部分の種別			最小かぶり厚さ (mm)	
土に接しない部分	スラブ、	仕上げあり	20	
	耐力壁以外の壁	仕上げなし	30	
		柱、梁、耐力壁	屋内	仕上げあり
			仕上げなし	30
	屋外		仕上げあり	30
				仕上げなし
	換壁、耐圧スラブ		40	
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁		40	
	基礎、換壁、耐圧スラブ		60	
煙突等高温を受ける部分			60	

- (注) 1. この表は、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートには適用しない。
- また、塩害を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び換壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合は基礎下端筋のかぶり厚さは、杭先端からとする。

- (2) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

- (3) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

- (4) 鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。

- (7) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
- (4) 25mm
- (7) 隣り合う鉄筋の径（呼び名の数値）の平均の1.5倍

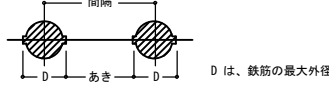


図4.1 鉄筋相互のあき及び間隔

- (5) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(4)による。

- (6) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。



魁設計事務所

長野県佐久市野沢 306-12
PHONE (0267) 63-6355
FAX (0267) 63-6366

一級建築士事務所登録
(佐久) G第7 Z 1 6 1号
一級建築士登録第 163929 号
土 屋 正 明

CHECK
DESIGN
DRAWING
土 屋

2026.05

JOB NAME
令和8年度 高瀬保育園耐震改修工事
SHEET NAME
構造関係共通事項

SCALE
1:---

SHEET NO.
S-01
PART
構造

構造関係共通図 (鉄骨標準図)

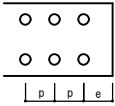
1-1 縁端距離及びボルト間隔

(1) 縁端距離及びボルト間隔

縁端距離及びボルト間隔は、表1. 1による。ただし、引継材の接合部分において、せん断力を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の縁端距離は、設計図による。設計図になければ、ボルト軸径の2. 5倍以上とする。
また、アンカーボルトの縁端距離は設計図による。

表1. 1 縁端距離及びボルト間隔 (単位mm)

ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12	40	60
M16		
M20		
M22		
M24	45	70

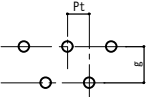


(2) 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔

千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1. 2による。

表1. 2 千鳥のゲージ及びボルト間隔 (単位mm)

ゲージ g	千鳥打ちのボルト間隔 Pt	
	ねじの呼び	
	M12, M16, M20, M22	M24
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	-	40



(3) 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表1. 3による。

表1. 3 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径 (単位mm)

A又はB	g ₁	g ₂	最大軸径	B		最大軸径	B	g ₃	最大軸径
				B	g ₁	g ₂	B	g ₃	
45	25	12	100	56	16	50	30	12	
50	28	16	125	75	16	65	35	20	
60	35	16	150	90	22	70	40	20	
65	35	20	175	105	22	75	40	22	
70	40	20	200	120	24	80	45	22	
75	40	22	250	150	24	90	50	24	
80	45	22	300	150	40 ^{※1)}	24	100	55	24
90	50	24	350	140	70	24			
100	55	24	400	140	90	24			
125	50	35	24						
130	50	40	24						
150	55	55	24						
175	60	70	24						
200	60	90	24						

※1 千鳥打ちとした場合

1-2 溶接継手の種類別開先標準

突合わせ継手 (B) の開先標準

(単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$	
$19 < t \leq 40$		$22 < t \leq 40$	

T型継手 (T) の開先標準

(単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$	
$19 < t \leq 40$		$22 < t \leq 40$	

部材が直交しない場合の開先標準

(単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$6 < t \leq 40$		$19 < t \leq 40$	

かど継手 (L) の開先標準

(単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 19$	
$19 < t \leq 40$		$19 < t \leq 40$	

隅肉溶接 (F) の開先標準

(単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 16$		$t \leq 16$	
$16 < t \leq 40$		$16 < t \leq 40$	

隅肉溶接のサイズ

(単位: mm)

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
s	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24

部分溶込み溶接 (P) の開先標準

(単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$12 \leq t \leq 40$	
$16 \leq t \leq 40$	

重ねアーク溶接 (フレア溶接) (FL) の開先標準

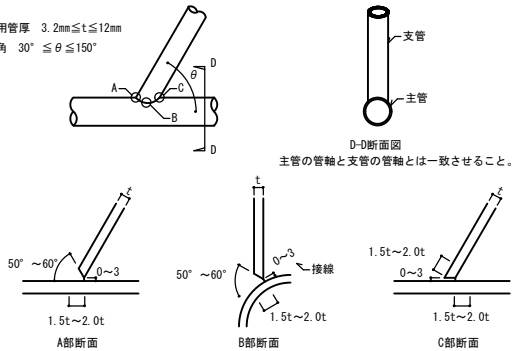
(単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)			
1 (丸鋼等片面溶接)	2 (丸鋼等両面溶接)	3 (軽量形鋼V形溶接)	4 (軽量形鋼U形溶接)
$t \geq 3$ のとき $S = t$ $t < 3$ のとき $S = 3$			

1-3 鋼管分岐継手詳細

自動機械により開先加工を行う場合はこの限りではない。

(単位: mm)

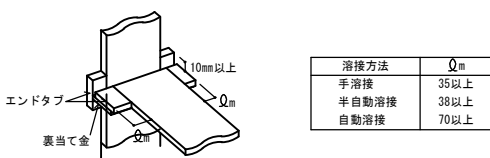


1-4 鉄骨溶接施工

(1) エンドタブ・裏当て金の鋼材の種類及び引張強さによる区分は、母材と同等とする。

(2) エンドタブ

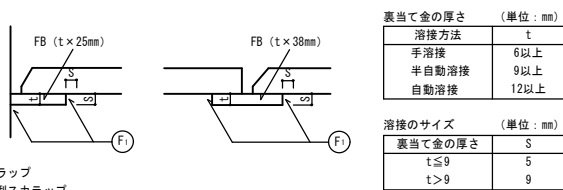
エンドタブの形状は母材と同厚・同開先のものとする。



(3) 裏当て金

(7) 裏当て金の組み立て溶接は、接合部に影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い、梁フランジ両端から10mm以内の位置には行ってはならない。

(4) 完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内側に設置する。

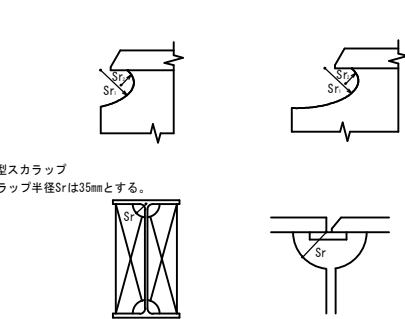


(4) スカラップ

改良型スカラップ

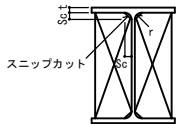
(7) スカラップ半径Srは35mmとする。Srは10mmとする。

(4) スカラップ円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。



(5) スニップカット

(7) スニップカット部は溶接により埋めるものとする。

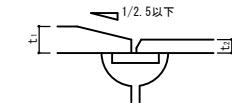


(4) スニップカットの寸法は、下表による。ただし、既製形鋼のスニップカットについては、 $S = r + 2$ により求めるものとする。

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

(6) 溶接部分の段差

完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段差が10mmを超える場合、又は低応力高サイクル疲労を受ける場合



1-5 重ねアーク溶接 (フレア溶接) を行う場合の溶接長さ

鉄筋又は軽量形鋼に重ねアーク溶接 (フレア溶接) を行う場合の溶接長さ (L) は、ビードの始点 (La) 及びクレーター (Lb) を除いた部分の長さとする。

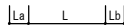
L: 片面フレア溶接の場合 10d
両面フレア溶接の場合 5d



La及びLbは 1d (軽量形鋼については 1S) 以上

D: 異形鉄筋の呼び名に用いた数値

S: 溶接のサイズ



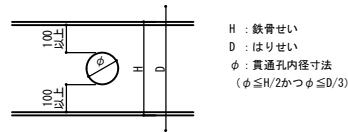
1-6 梁貫通孔補強

(1) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部材に貫通孔を設ける場合は、次による。

(7) 貫通孔の内径寸法は、鉄骨せいの1/2以下かつ鉄筋コンクリート梁せいの1/3以下とする。

(4) 貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で3倍以上確保する。

梁貫通孔の位置の限度 (単位: mm)



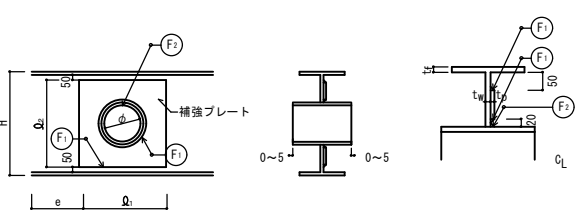
(2) 貫通孔の補強方法は、設計図による。

補強プレート法及び補強トラス法の溶接等は、以下による。

補強プレート法

(7) 補強プレートが16mm以上となる場合は、必要な長さの1/2以上の補強プレートをウェブ両面から溶接する。

(4) 補強プレートは丸型としても良い。上下フランジとのあき50mmについては施工性を考慮して小さくすることもできる。

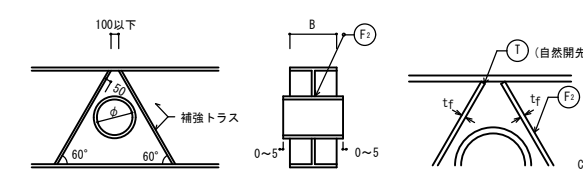


Q_eは3φまたはQ_eのうち小さい方とする。(e ≥ Hとする)

e: 材端と補強プレートの間隔

補強トラス法

スリーブの取付けは、全周隅肉溶接とする。



1-7 その他

(1) 広幅平鋼の取り扱いについて

BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スブライスプレートは、PL表記であってもFB又はPLとする。

(2) フィラープレートの材質

フィラープレートを使用する場合、材質はSS400とする。



魁設計事務所

長野県佐久市野沢 306-12

PHONE (0267) 63-6355

FAX (0267) 63-6366

一級建築士事務所登録

(佐久) G第7Z161号

一級建築士登録第163929号

土屋正明

CHECK

DESIGN

DRAWING

2026.05

土屋

JOB NAME

令和8年度 高瀬保育園耐震改修工事

SHEET NAME

構造関係共通図 (鉄骨標準図)

SCALE

1:---

SHEET NO.

S-02

PART

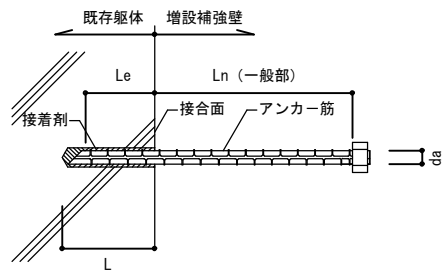
構造

構造関係共通図（耐震改修標準図）

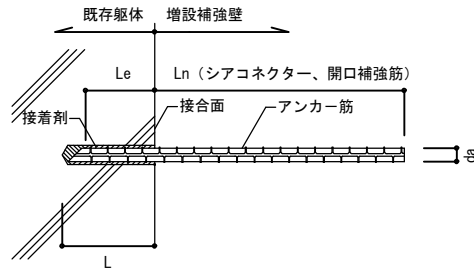
1 あと施工アンカー要領

(1) 接着系アンカー

一般部 既存躯体 増設補強壁



シアコネクター・開口補強筋

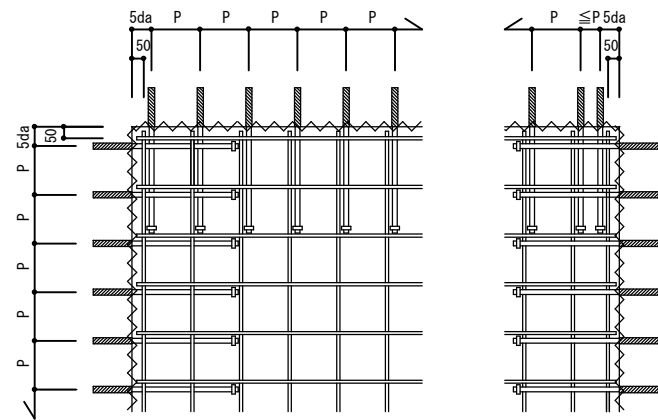
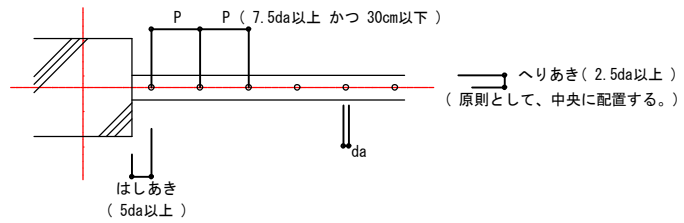


L : コンクリートの穿孔深さ
Le : アンカーの有効埋め込み長さ (打増し部は含まない)
Ln : 有効埋め込み長さ・定着長さ (打増し部は含まない)
da : アンカー軸部の直径、アンカー筋の呼び名

※ 接着剤は、打増し部を含め、穿孔深さ全域にすき間なく充填する

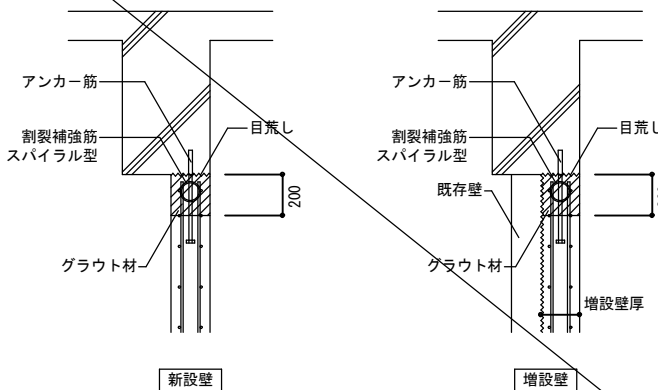
アンカー関係共通事項	一般部 : $L_e = 7d_a$ シアコネクタ : $L_e = 7d_a$ 開口補強筋 : $L_e = 10d_a$
接着系アンカーの有効埋め込み長さ	一般部 : $L_n = 20d_a$ シアコネクタ : $L_n = \text{増打壁厚} - \text{かぶり厚}$ 開口補強筋 : $L_n = L_1 + 50$ (= 補強筋との継手長さ + 余長)
接着系アンカーの有効定着長さ	
アンカー筋形状	一般部 : ナット付き異形棒鋼とし、ナットからねじ山が2山以上であること。 シアコネクタ : ナットなし。ただし、フォームタイを兼用する場合は、端部にナットを付ける。 開口補強筋 : ナットなし。 ※既存躯体側の先端形状は45°カットとする。

(2) アンカー筋の位置と間隔



2 グラウト要領

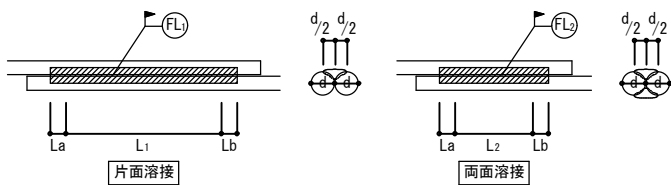
(1) 新設・増設壁上部グラウト



(2) 割裂補強筋の継手は、2巻以上の重ねとする。

3 重ねアーク溶接（フレア溶接）要領

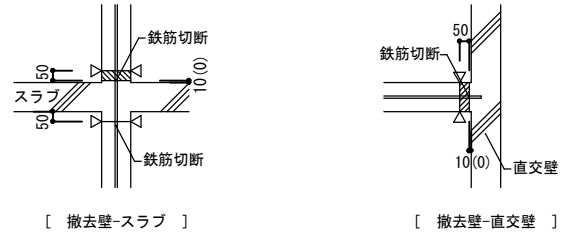
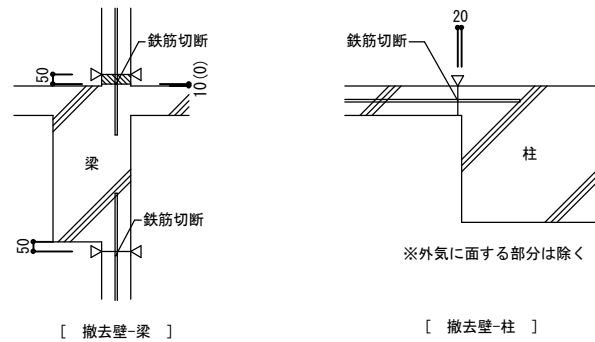
鉄筋の重ねアーク溶接（フレア溶接）の溶接長さは、ビードの始点（La）及び、クレータ（Lb）を除いた部分の長さとする。



L₁ : 10d 以上 (片面溶接)
 L₂ : 5d 以上 (両面溶接)
 La、Lb: 1d 以上
 d : 異形鉄筋の呼び名に用いた数値

4 既存壁の撤去要領

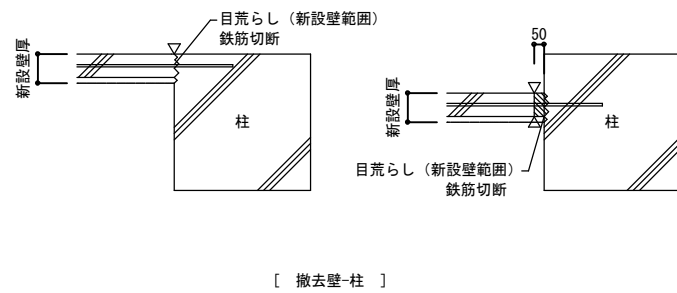
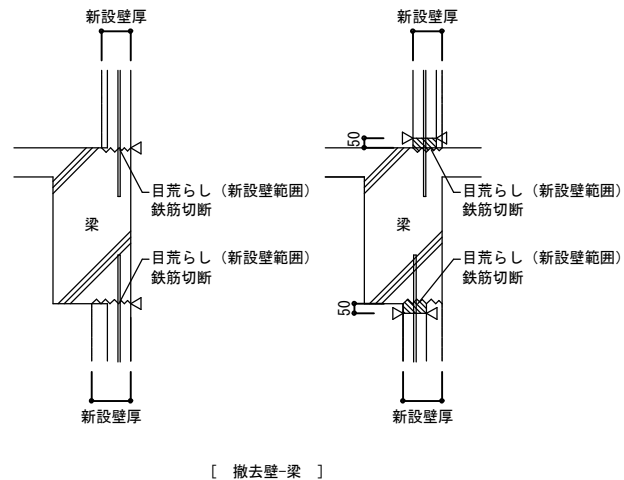
(1) 既存壁撤去要領（撤去のみの場合）



◁ : コンクリートカッター位置を示す。(カッター深さ30mm)
 : 手ばつり範囲を示す。
 () : 直均し仕上げの場合を示す。

注) 鉄筋切断部は錆止め塗装を行う。

(2) 既存壁撤去要領（壁を新設する場合）

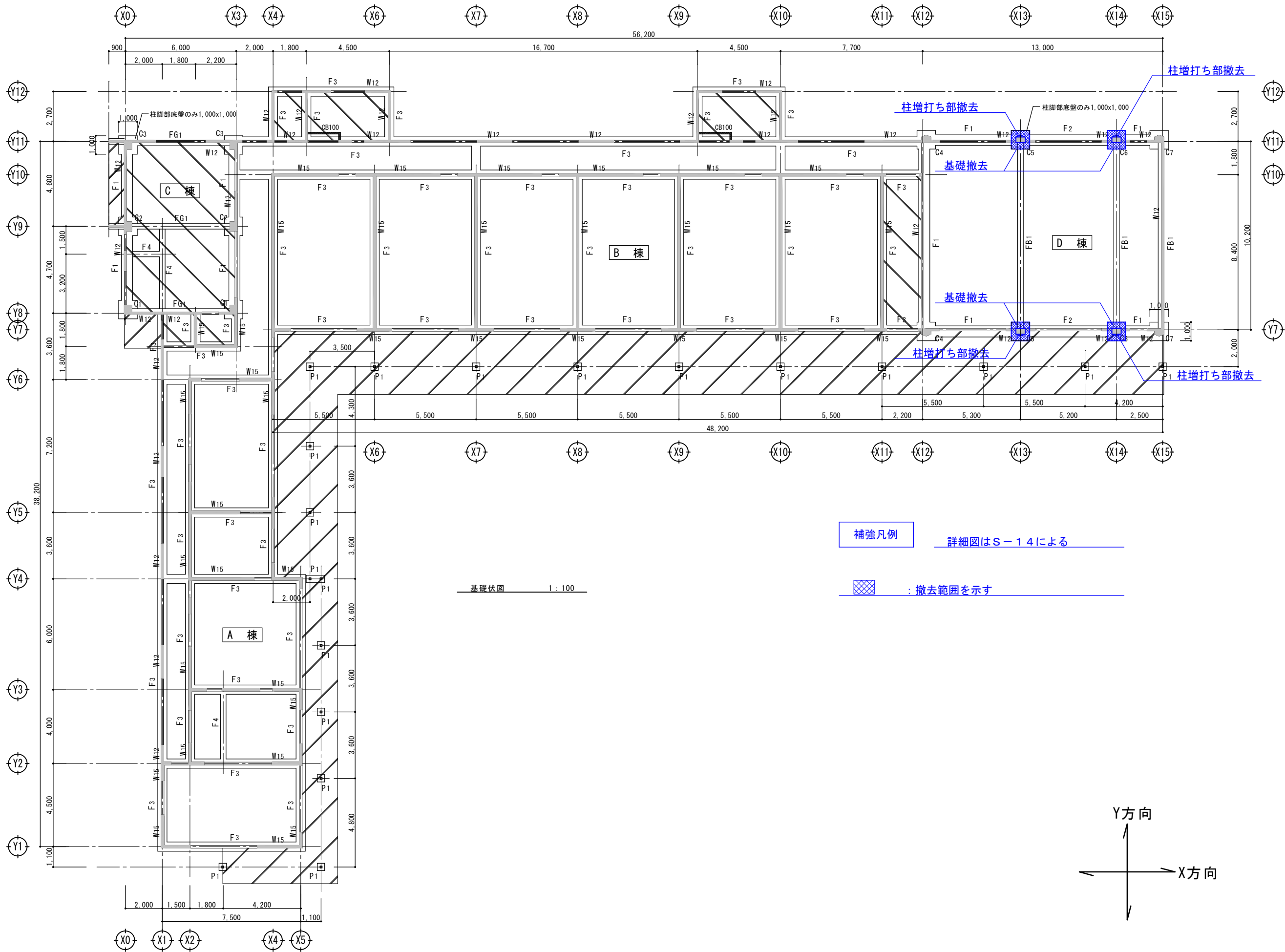


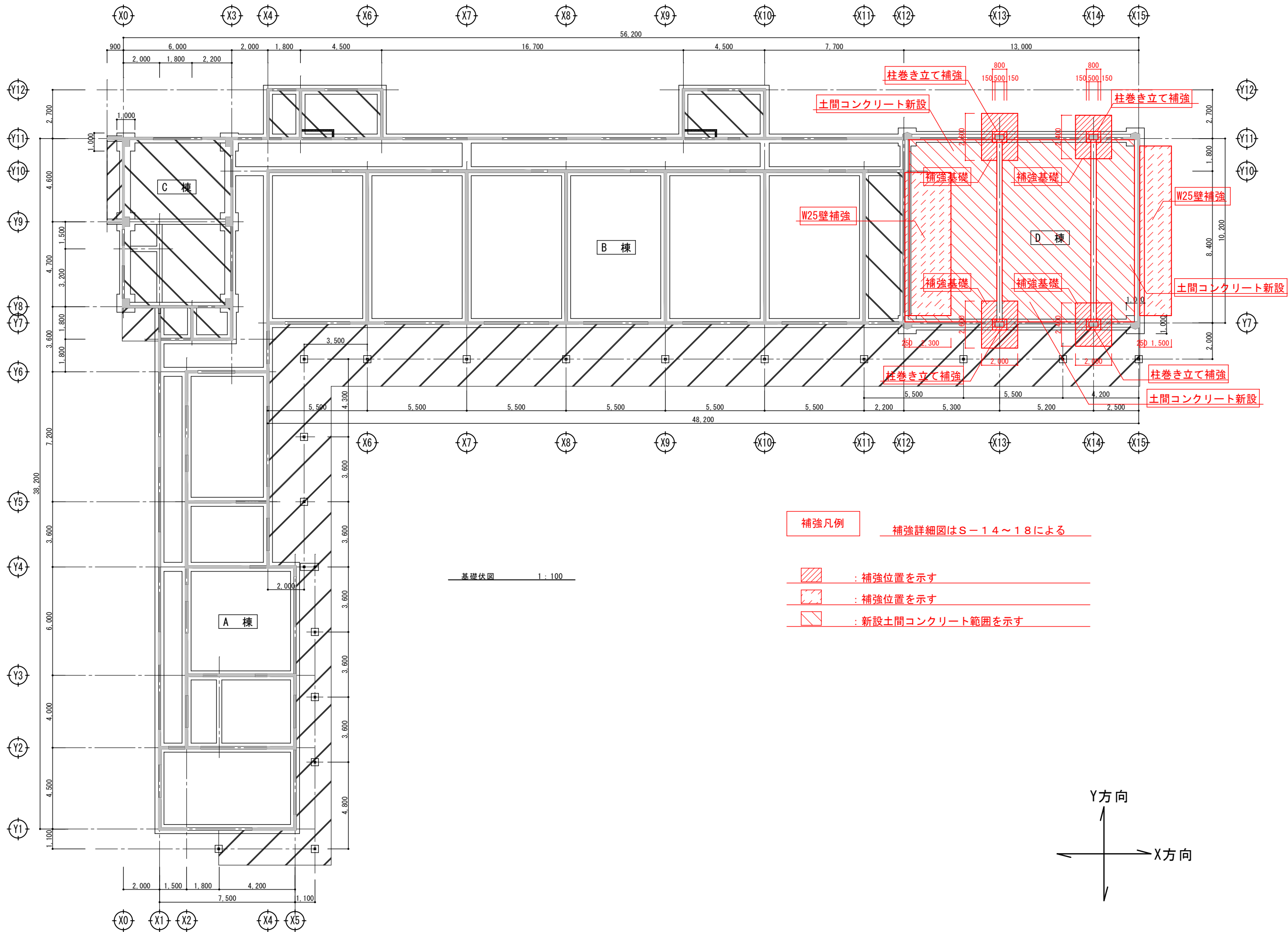
 : コンクリートカッター位置を示す。(カッター深さ30mm)
 : 手ばつり範囲を示す。

注) 鉄筋切断部は錆止め塗装を行う。

(3) アンカー引張強度試験

- ・基礎補強
あと施工アンカー（接着系アンカー）
D13-φ200 有効埋込深さ 10da
Ta= 19 KN/本
- ・土間新設（Y7通、Y11通、X12通、X13通、X14通）
あと施工アンカー（接着系アンカー）
D13-φ200 有効埋込深さ 7da
Ta= 13 KN/本
- ・土間新設（X15通）
あと施工アンカー（接着系アンカー）
D13-φ200 有効埋込深さ 10da
Ta= 19 KN/本
- ・テラス底層受補強（接着系アンカー）
2-M12 有効埋込深さ 7da
Ta= 14 KN/本
- ・W25壁補強（X12通）
シアコネクター（金属系アンカー）
D10-φ450（縦横） 有効埋込深さ 7da
Ta= 10 KN/本
- ・W25壁補強（X15通）
シアコネクター（金属系アンカー）
D10-φ400（縦横） 有効埋込深さ 7da
Ta= 10 KN/本





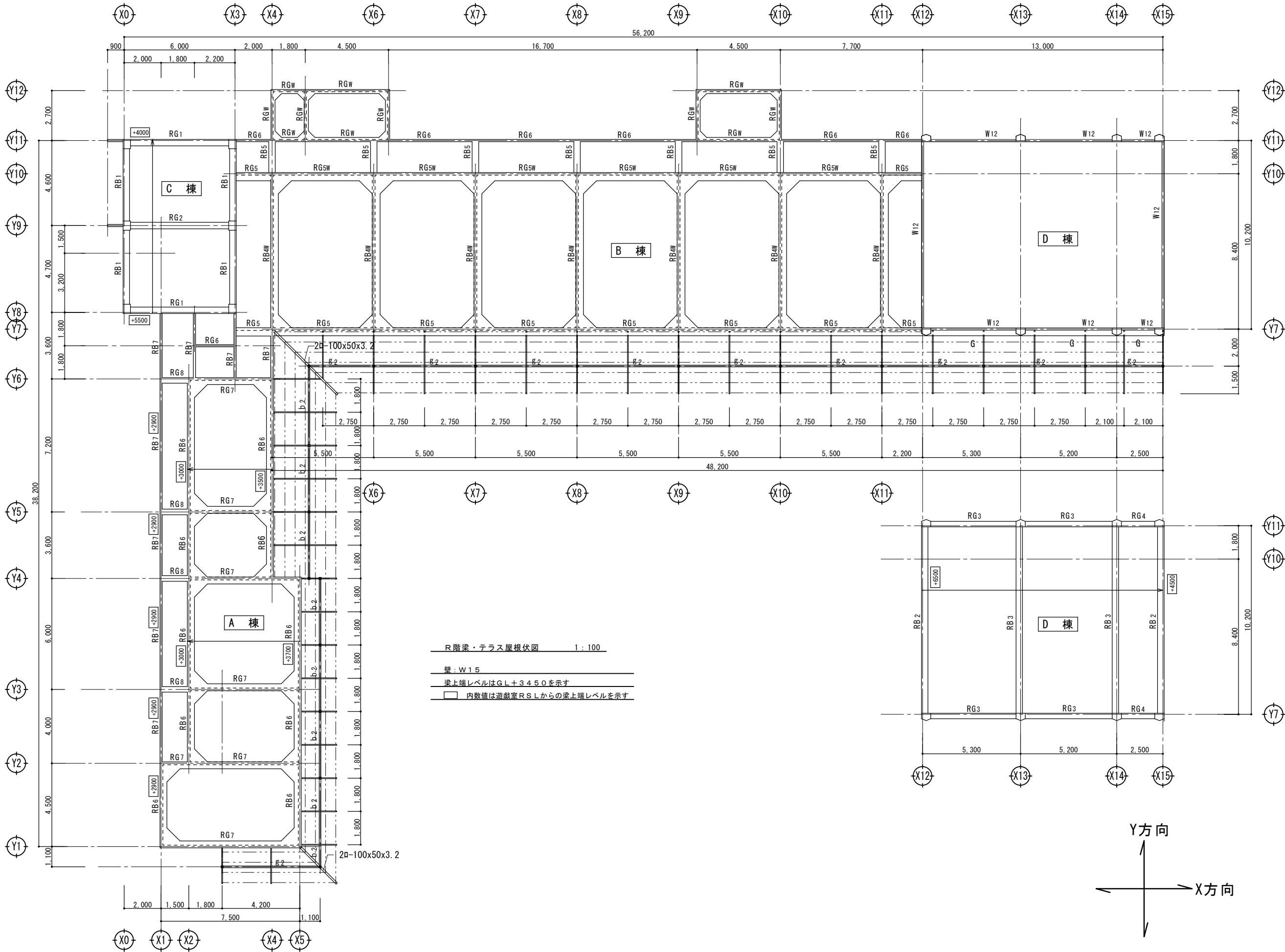
補強凡例

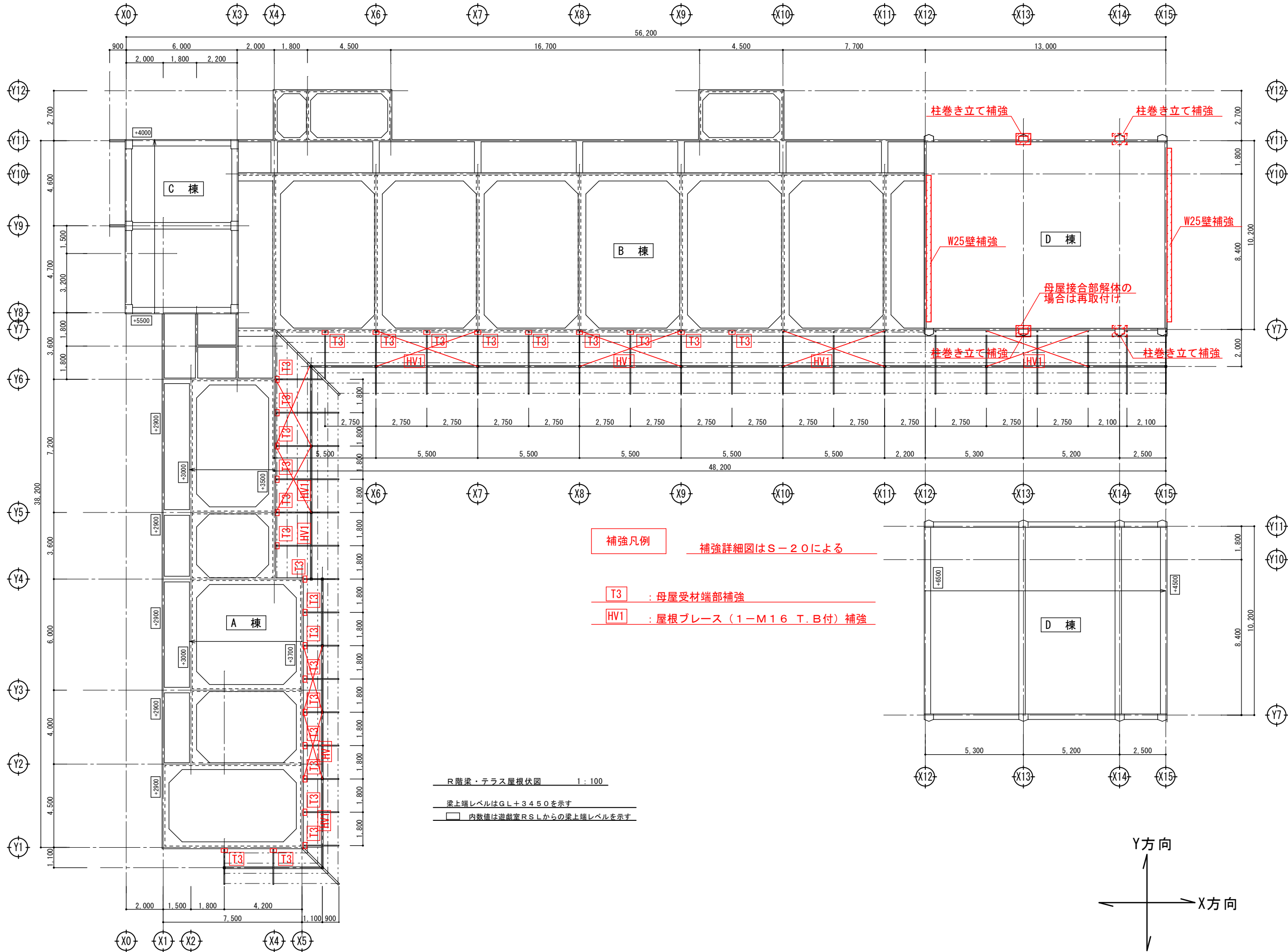
補強詳細図はS-14~18による

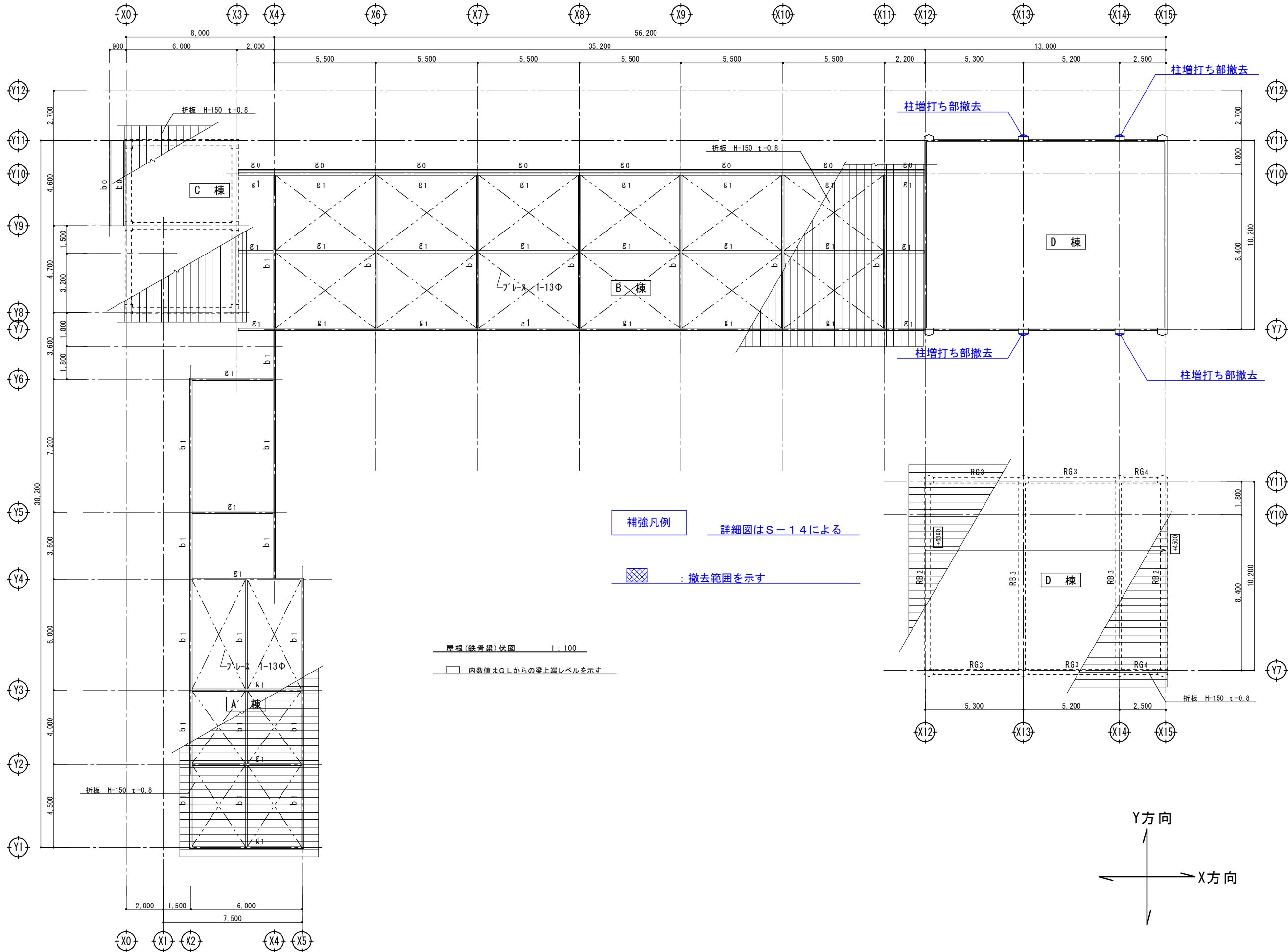
: 補強位置を示す

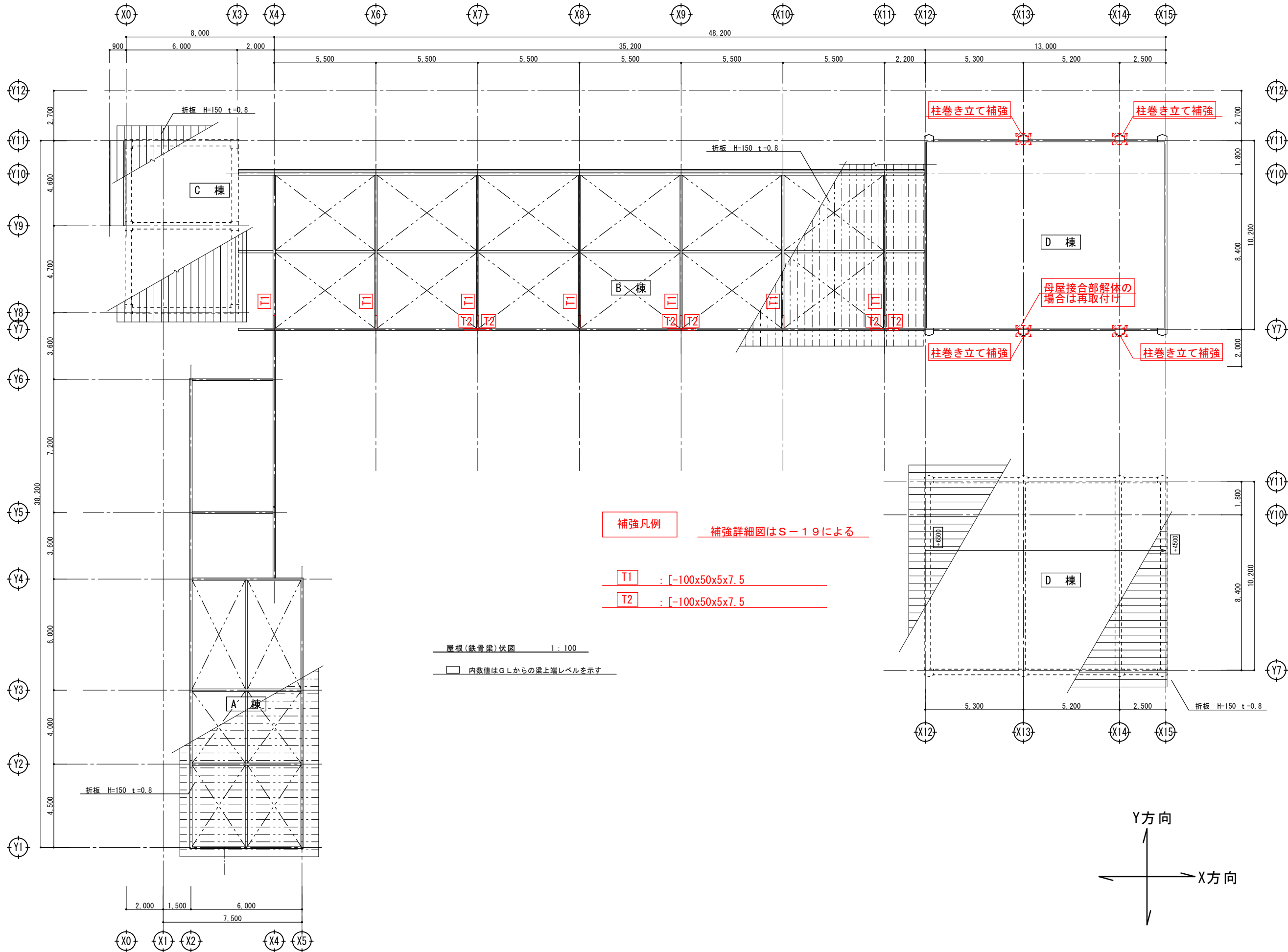
: 補強位置を示す

: 新設土間コンクリート範囲を示す









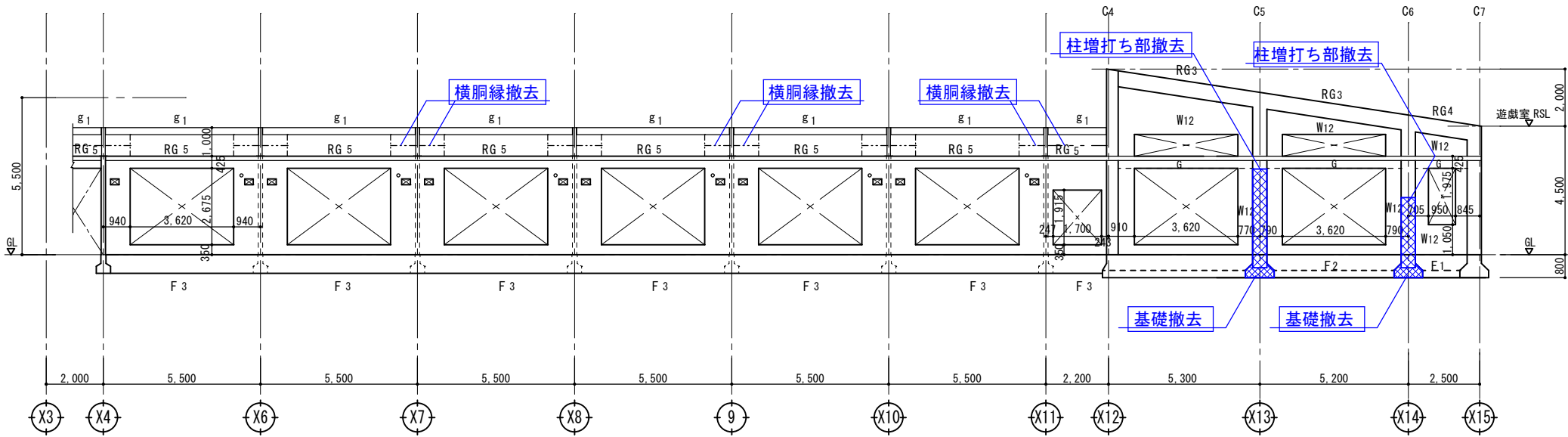
改修前

補強凡例

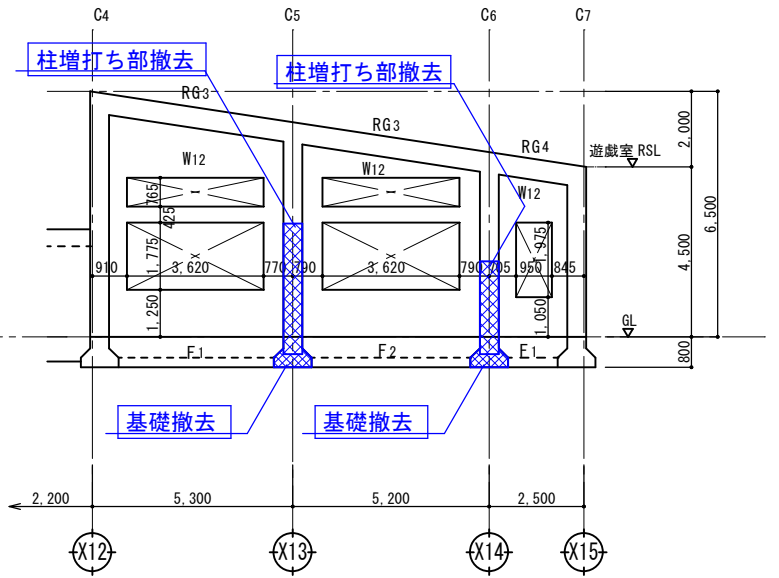
詳細図はS-14、19による



: 撤去範囲を示す



Y7通 軸組図



Y11通 軸組図

特記を除き 壁: W1.5

改修後

補強凡例

補強詳細図はS-14~20による



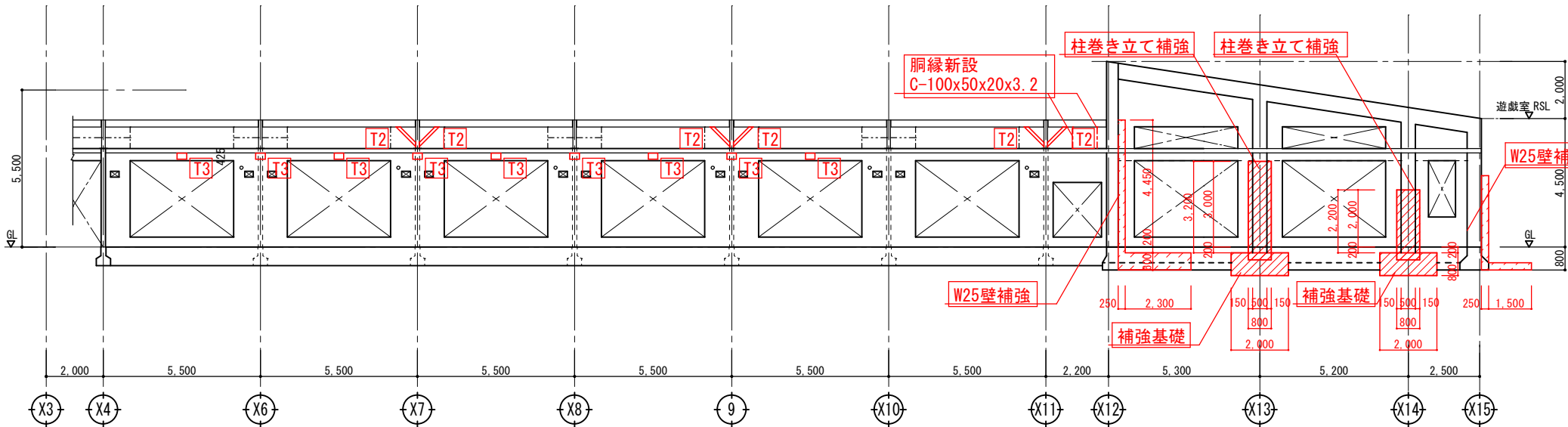
: 補強位置を示す

T2

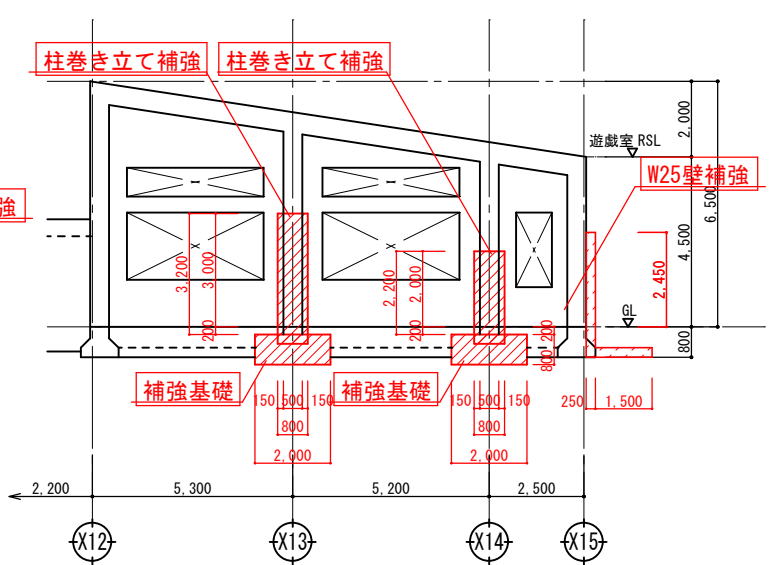
: [-100x50x5x7.5

T3

: 母屋受材端部補強



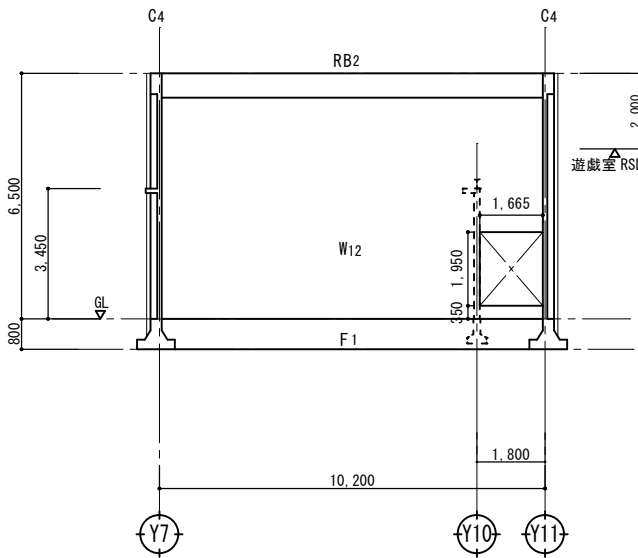
Y7通 軸組図



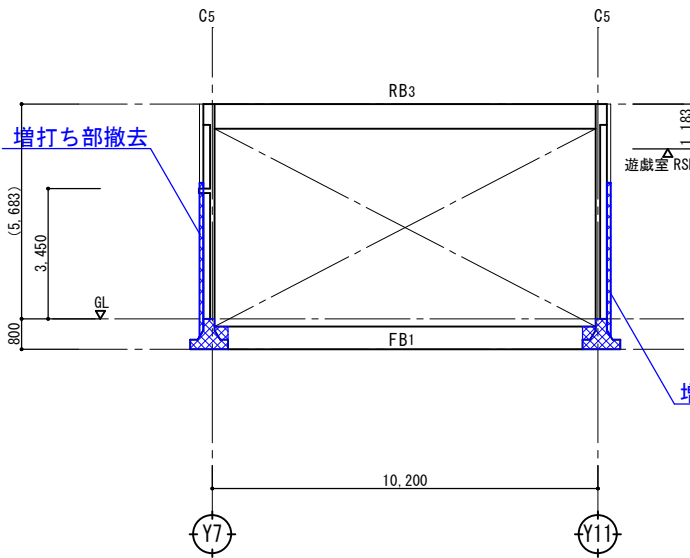
Y11通 軸組図

改修前

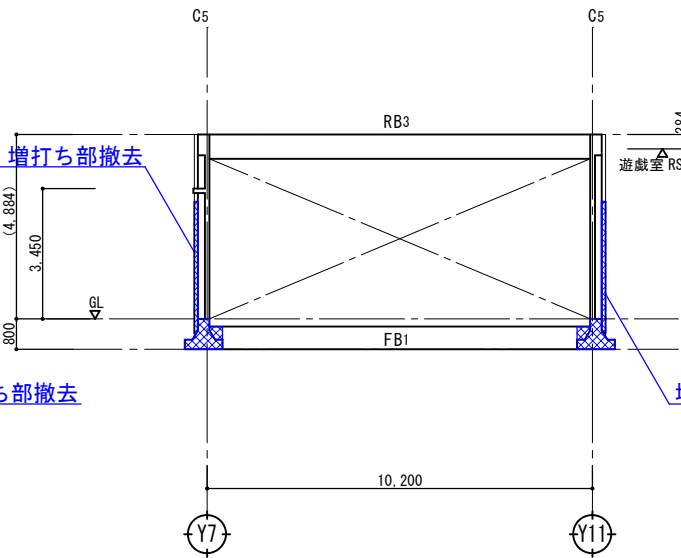
補強凡例
詳細図はS-14による
: 撤去範囲を示す



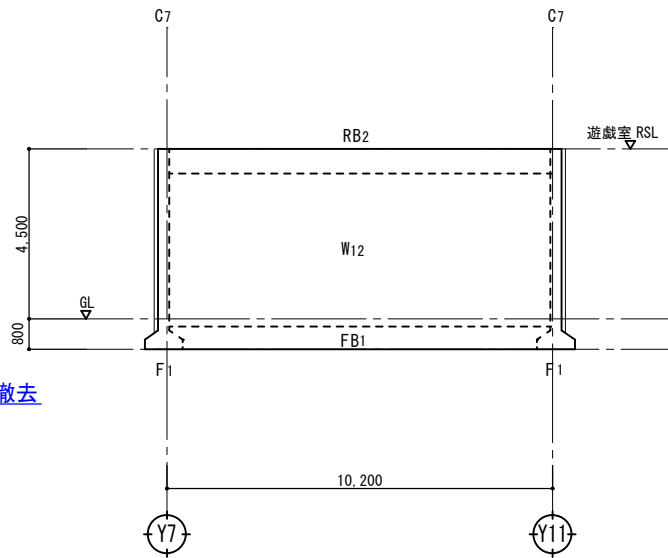
X12通 軸組図



X13通 軸組図



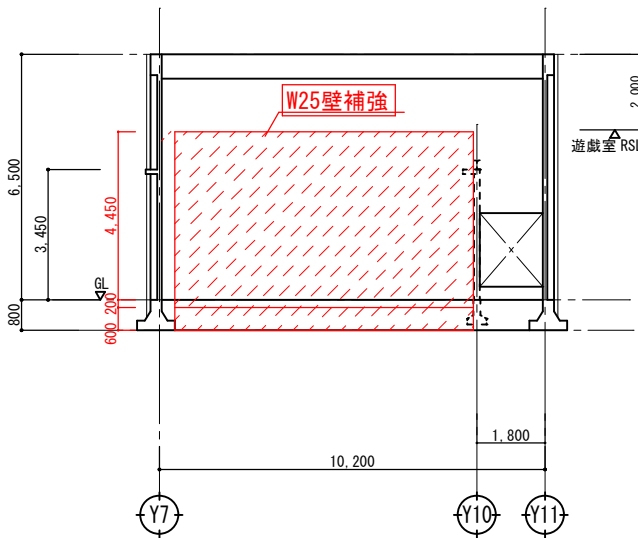
X14通 軸組図



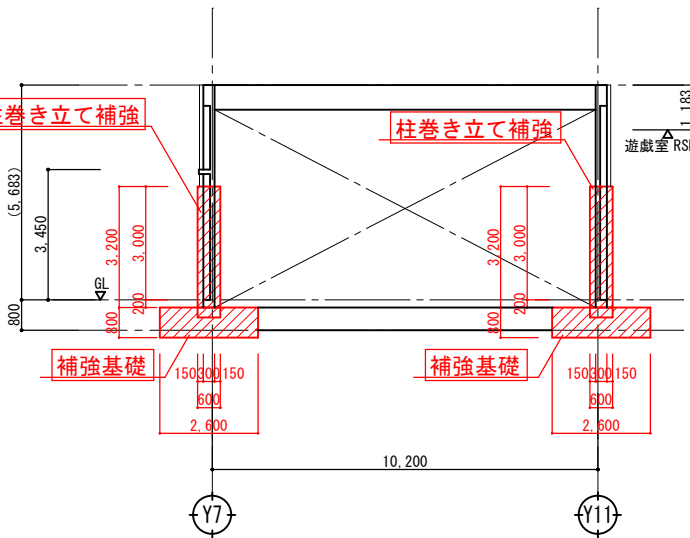
X15通 軸組図

改修後

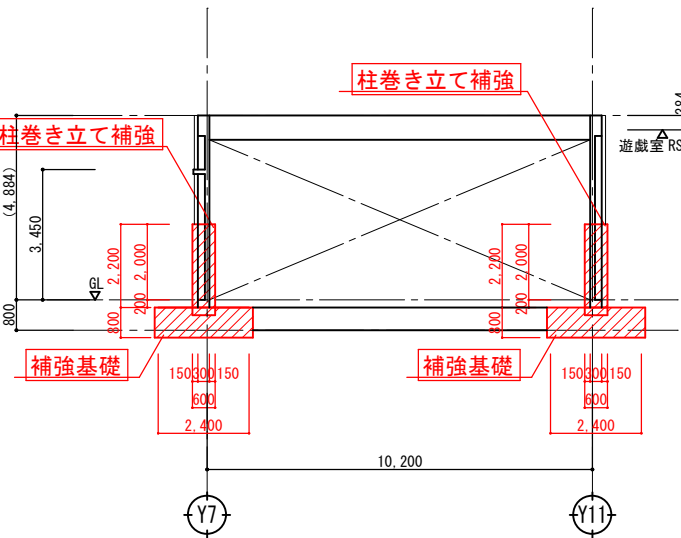
補強凡例
詳細図はS-14～18による
: 補強位置を示す
: 補強位置を示す



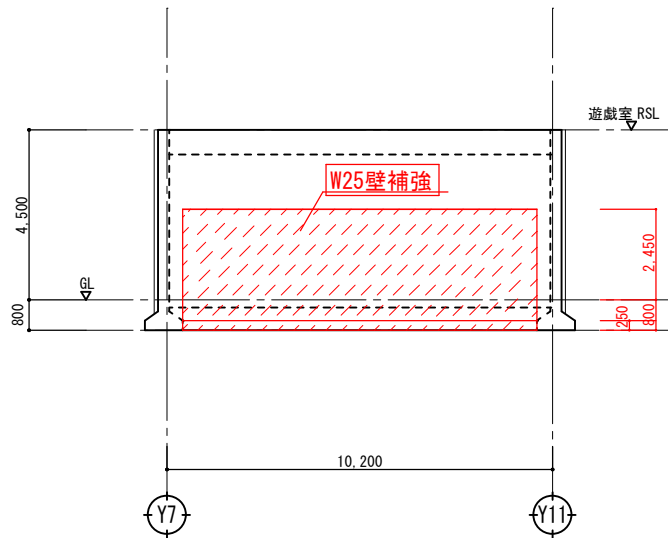
X12通 軸組図



X13通 軸組図

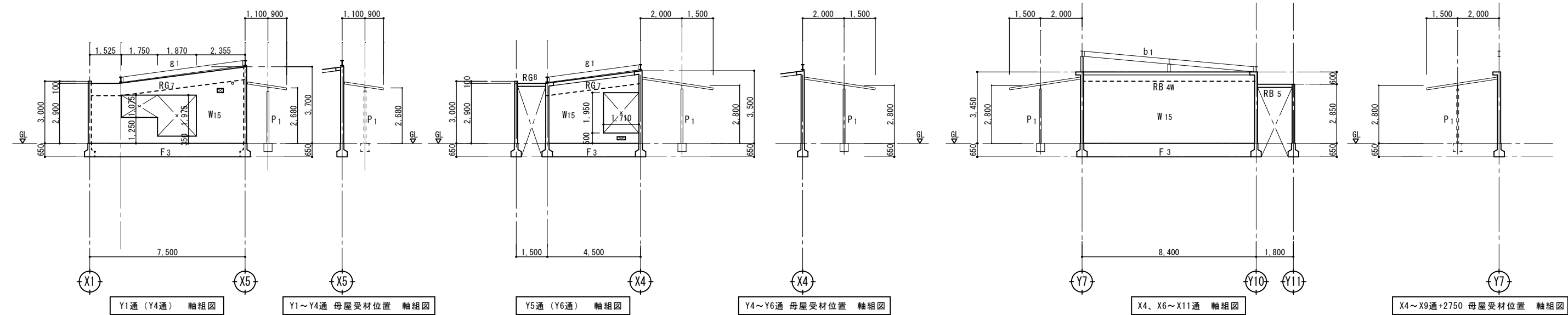


X14通 軸組図



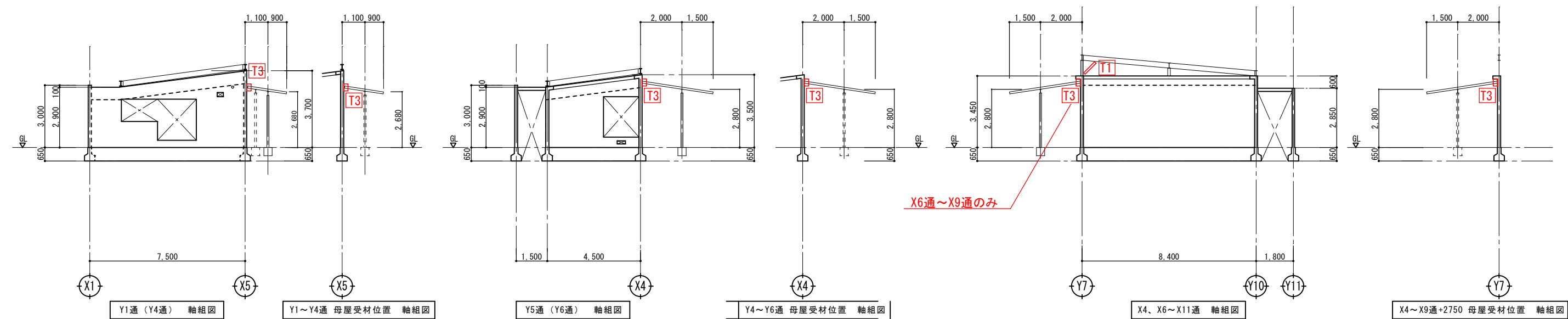
X15通 軸組図

改修前

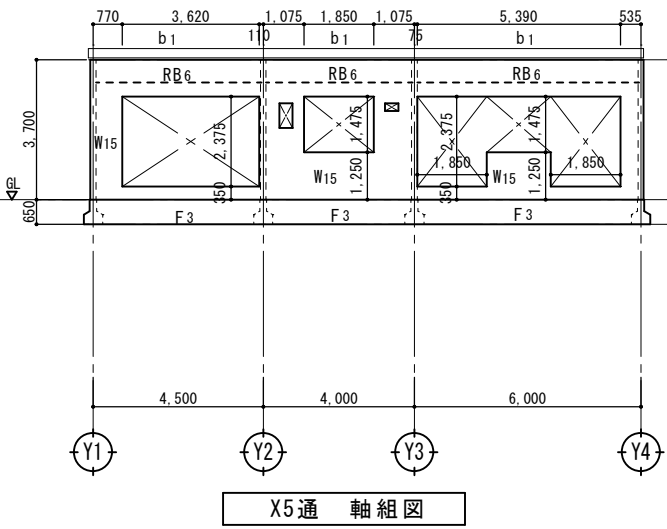
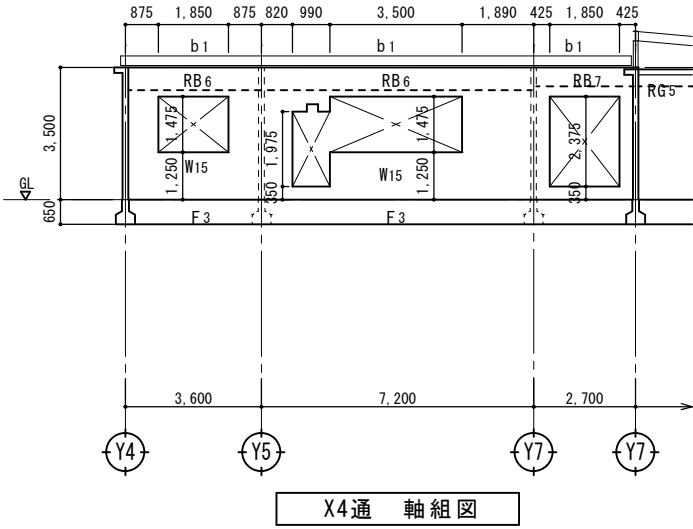


改修後

- 補強凡例
- 補強詳細図はS-19、20による
- T1 : [-100x50x5x7.5
- T3 : 母屋受材端部補強



改修前



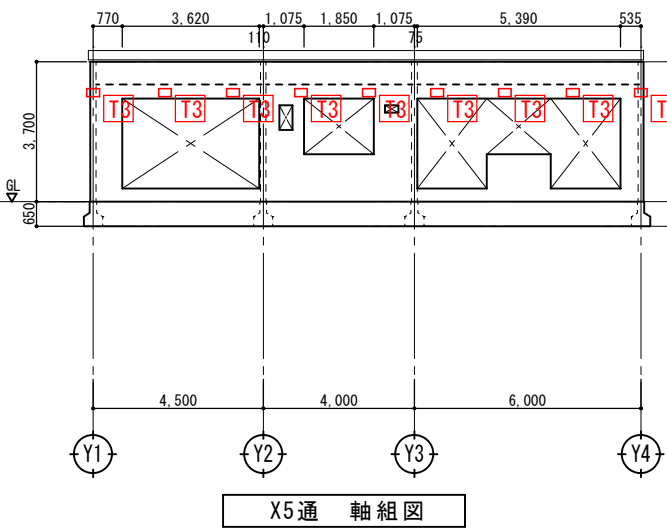
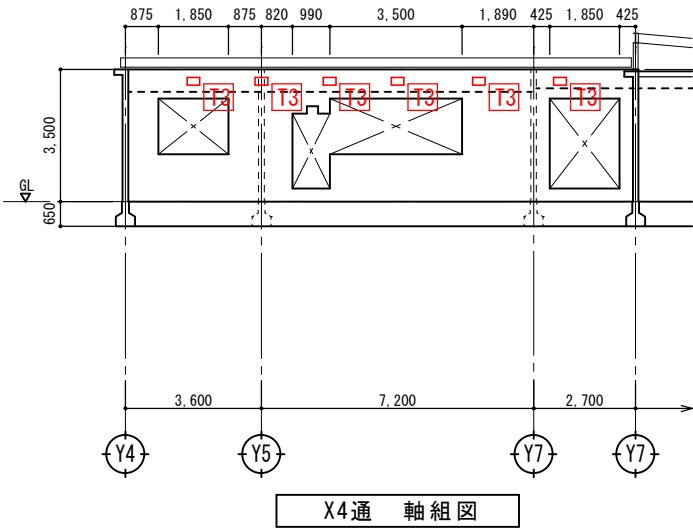
改修後

補強凡例

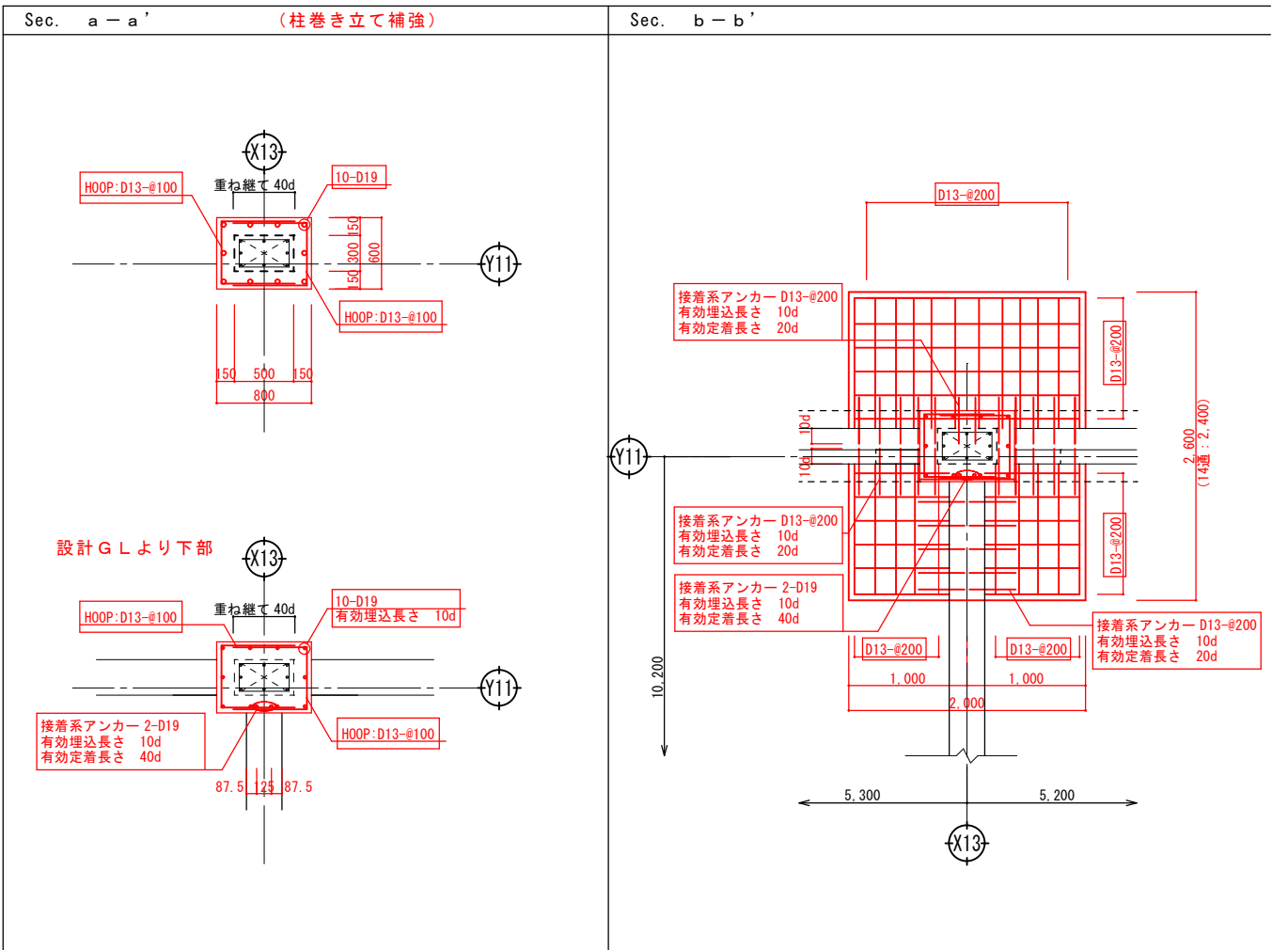
補強詳細図はS-20による

T3

: 母屋受材端部補強



※ X14通-Y7通、X14通-Y11通も同様とする



※ X14通-Y7通、X14通-Y11通も同様とする

内は新設部材を示す

鉄筋 D13~D16 : SD295
D19 : SD345

HOOP: 2-D13
10-D19
HOOP: D13-@100
HOOP: D13-@100

※ FB1位置のみ
接合系アンカー 1-D19
有効埋込長さ 10d
有効定着長さ 40d

接合系アンカー D13-@200
有効埋込長さ 10d
有効定着長さ 20d

接合系アンカー D13-@200
有効埋込長さ 10d
有効定着長さ 20d

接合系アンカー D13-@200
有効埋込長さ 10d
有効定着長さ 20d

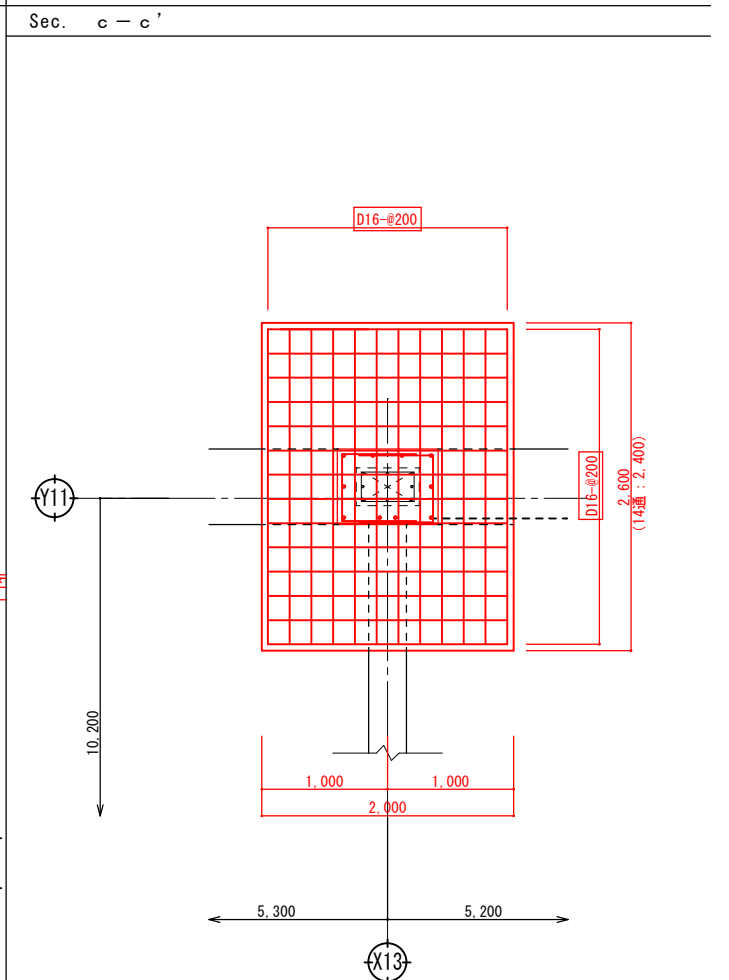
接合系アンカー D13-@200
有効埋込長さ 10d
有効定着長さ 20d

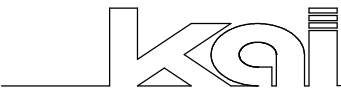
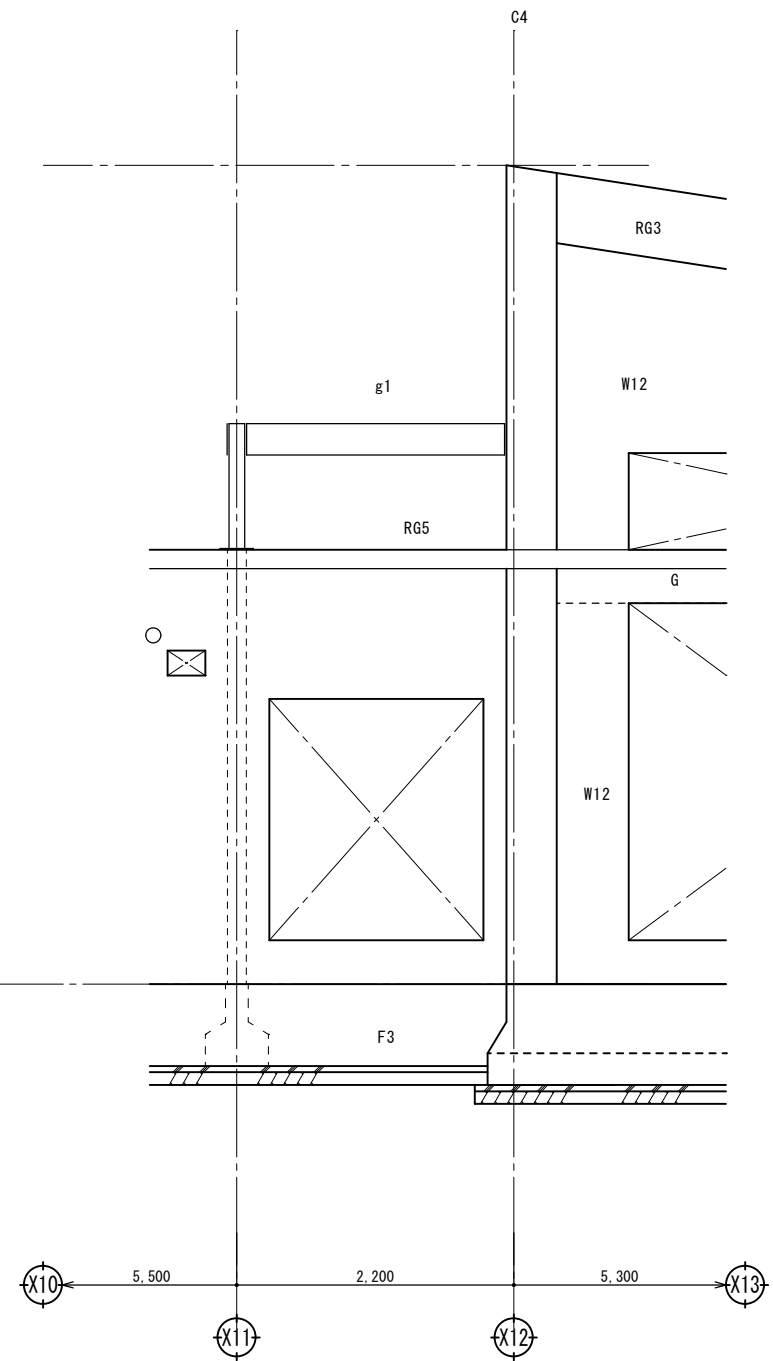
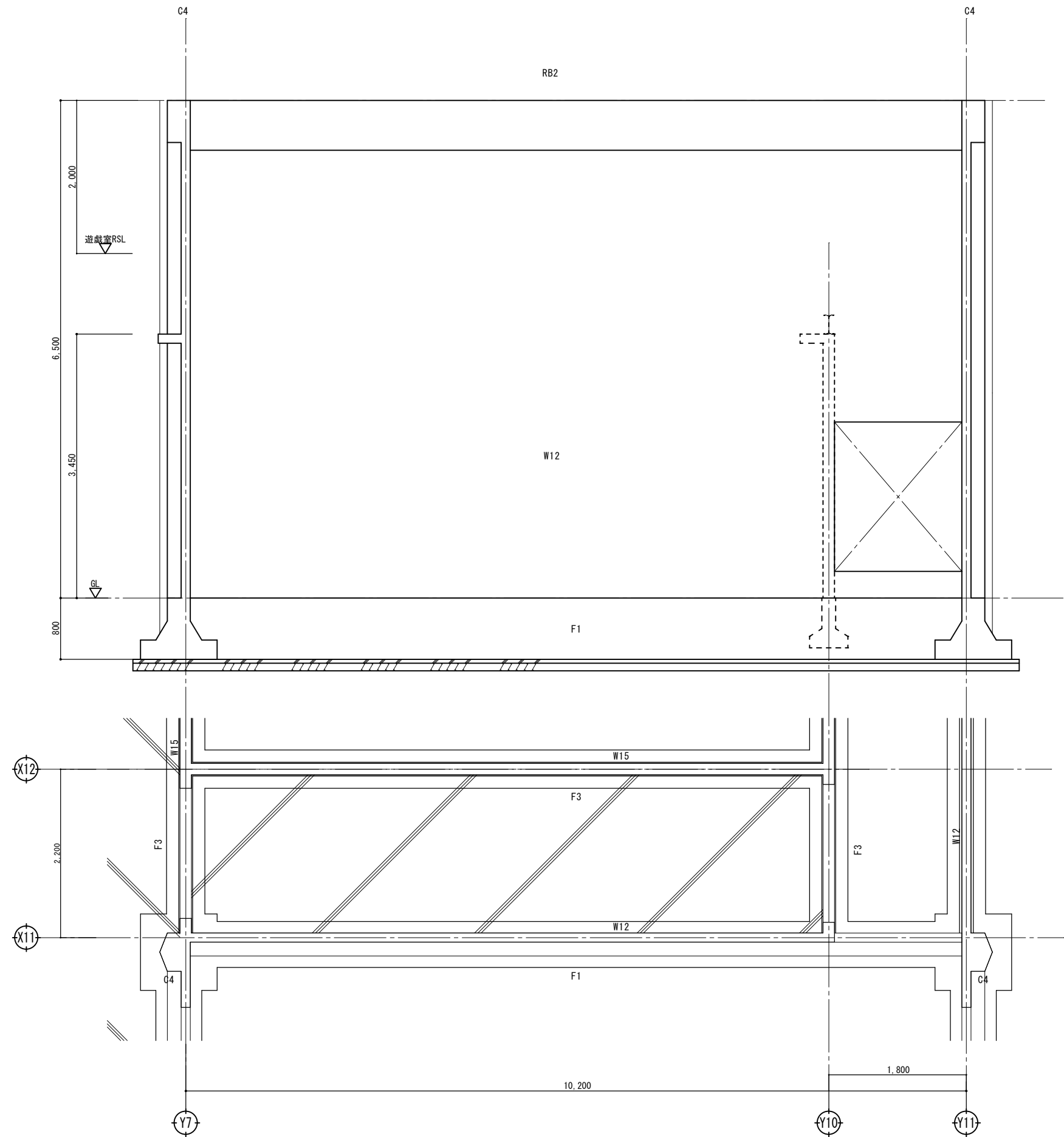
接合系アンカー D13-@200
有効埋込長さ 10d
有効定着長さ 20d

接合系アンカー D13-@200
有効埋込長さ 7d
有効定着長さ 20d

土間新設配筋図

Y11
Y7
Y13
Y14
Y7
Y11
Y13
Y14





(有)魁設計事務所

長野県佐久市野沢 306-12
PHONE (0267) 63-6355
FAX (0267) 63-6366

一級建築士事務所登録
(佐久) G第7 Z 1 6 1号
一級建築士登録第 163929号
土屋正明

CHECK
土屋

DESIGN

DRAWING

2026.05

JOB NAME

令和8年度 高瀬保育園耐震改修工事

SHEET NAME

補強詳細図(2)【改修前】

SCALE

1:30

SHEET NO.

S-15

PART

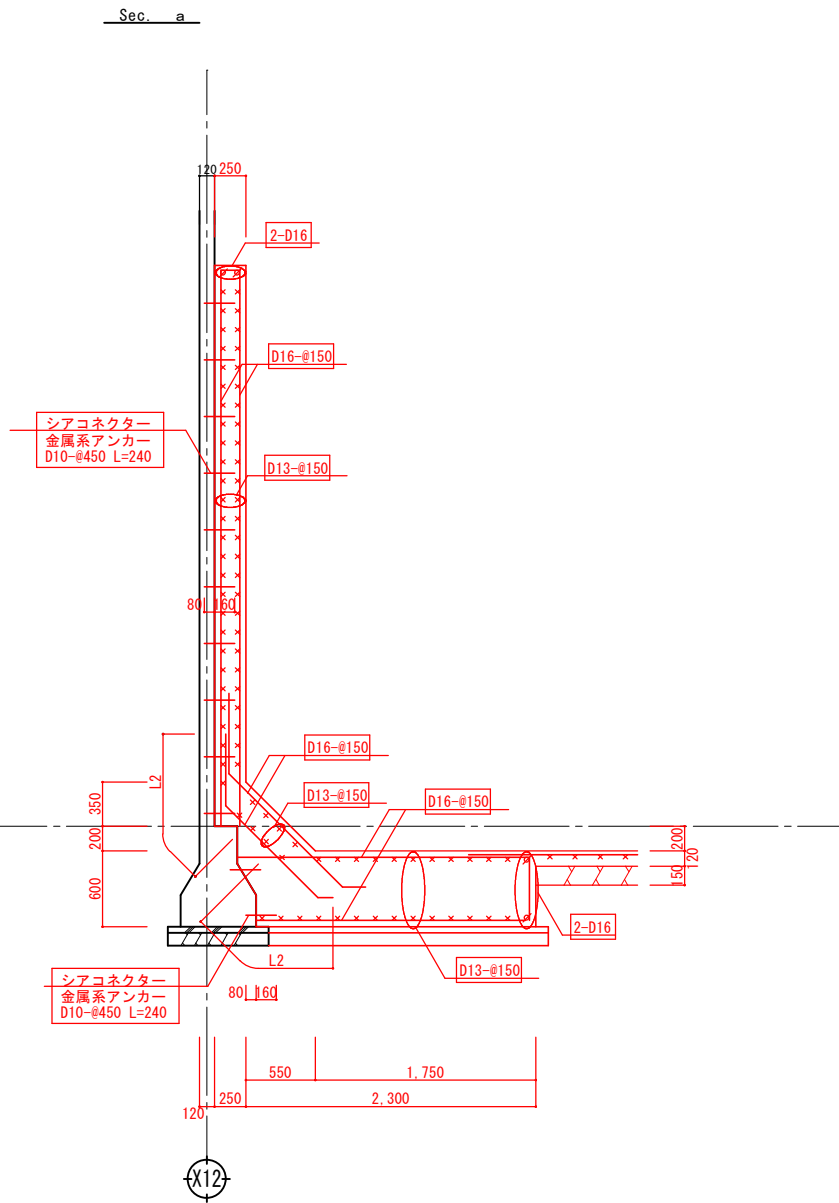
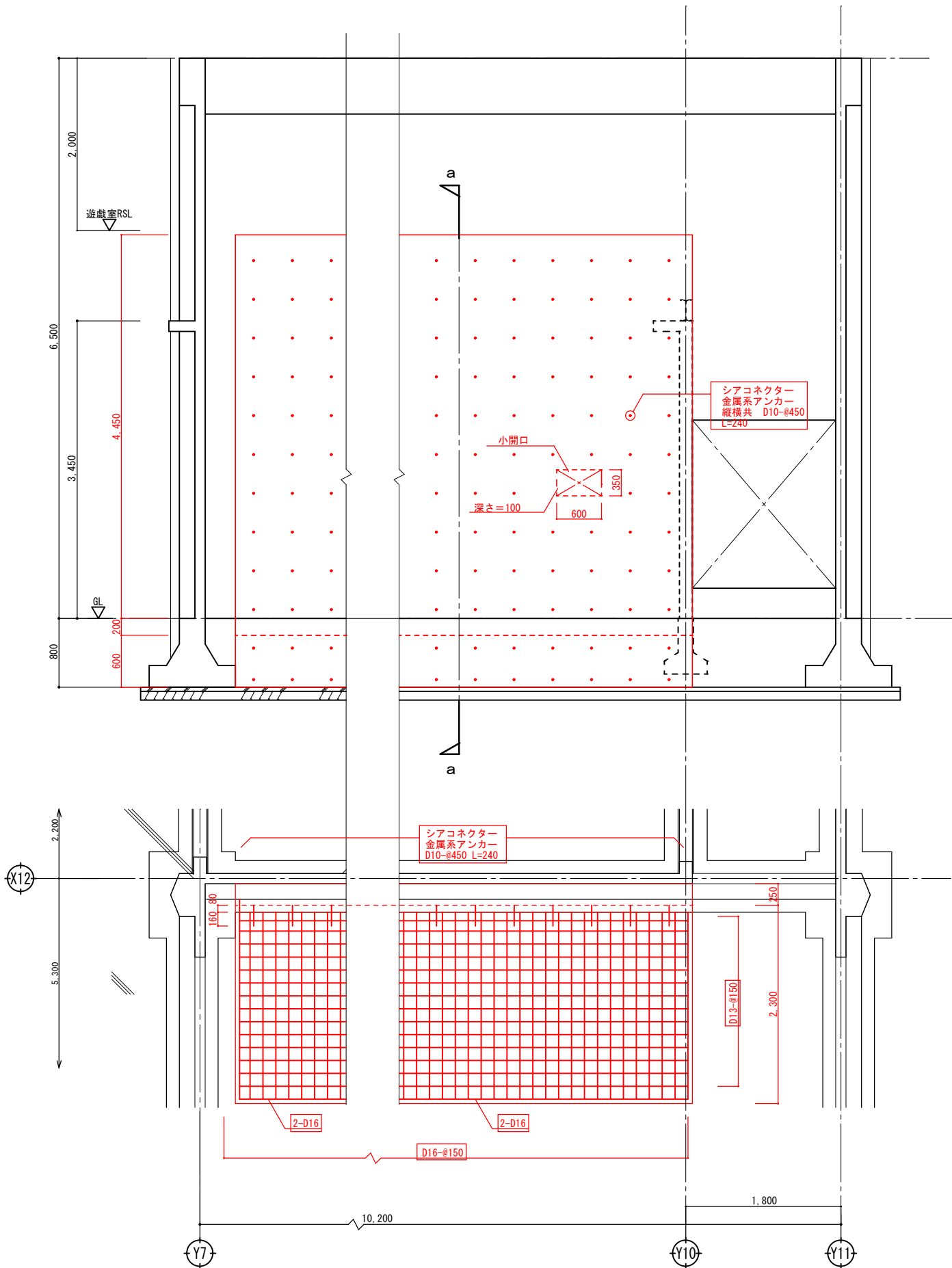
構造

改修後

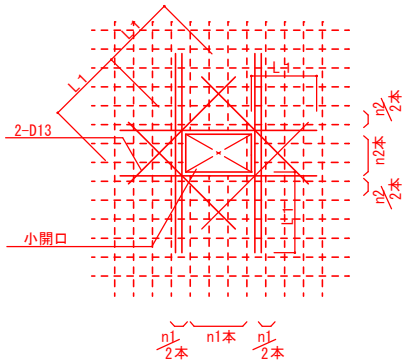
X12通 W25補強詳細図

使用材料
コンクリート $F_c=24N/mm^2$
鉄筋 D13~D16 : SD295

内は新設部材を示す

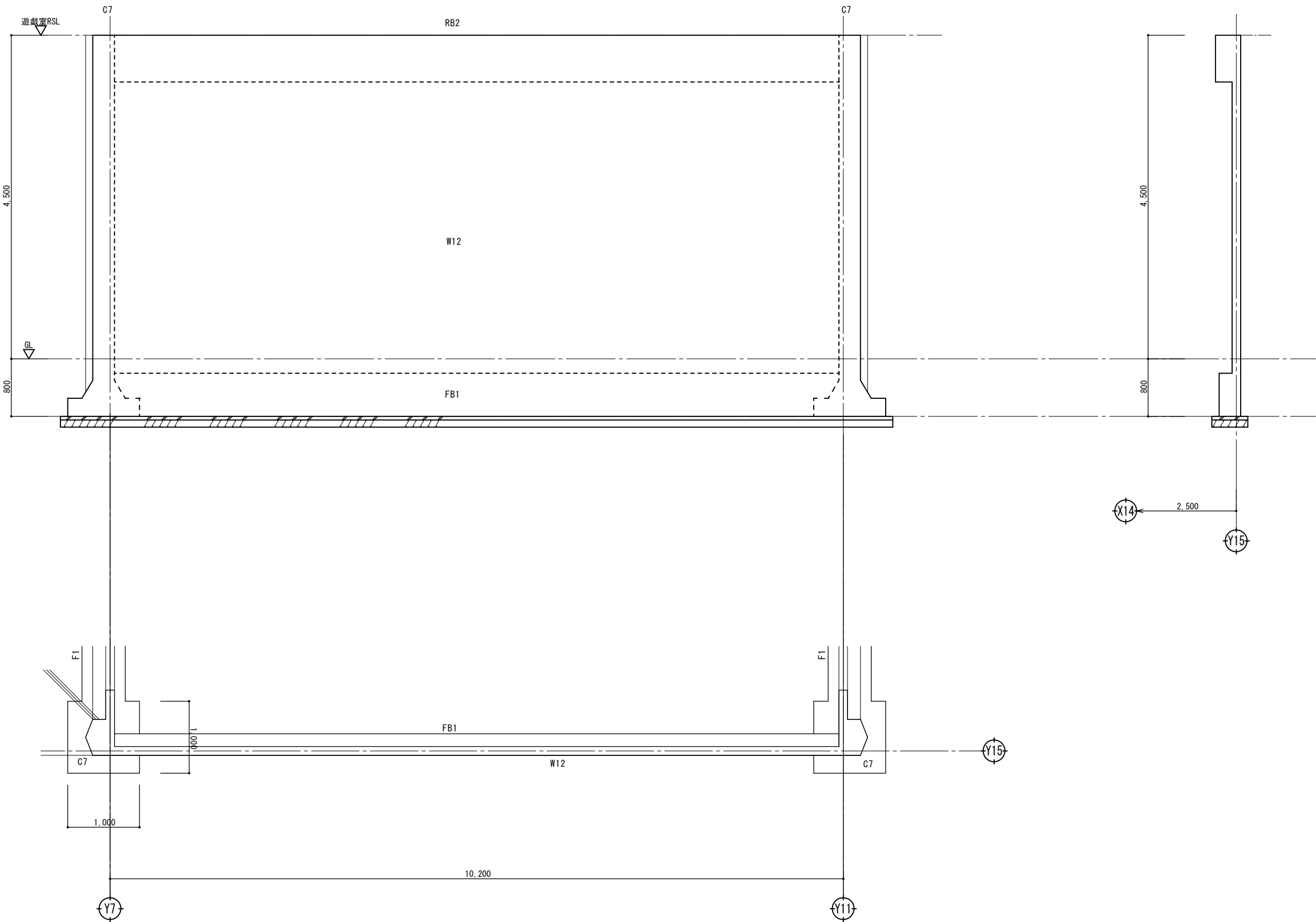


壁小開口部補強要領

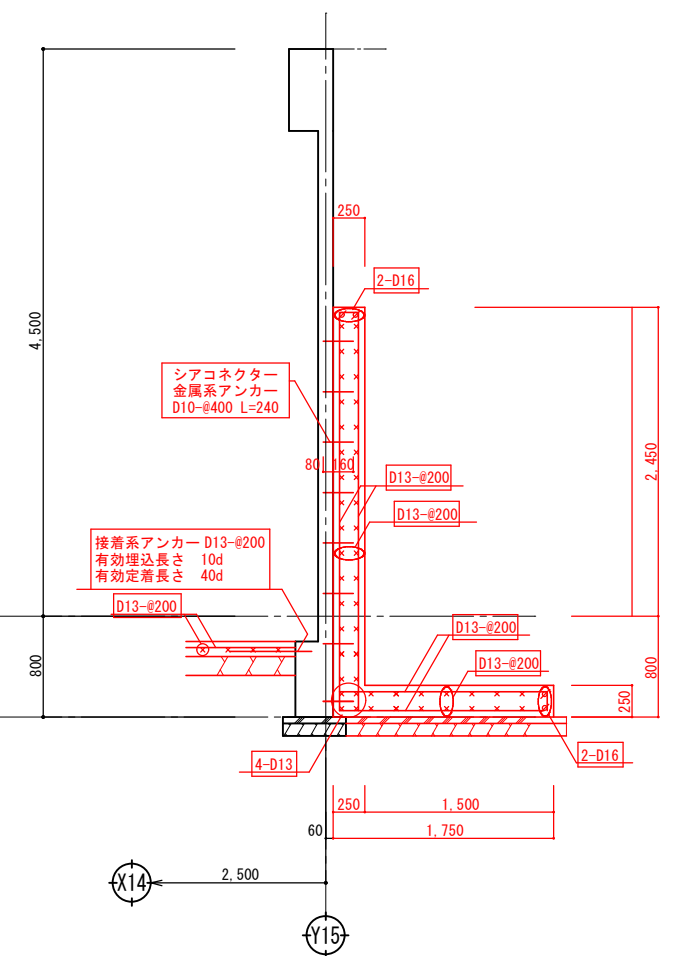


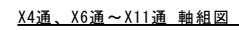
- 設備の小開口等が壁に設けられる場合は、下記の補強を施す。
- 1、壁配筋の縦横両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることで、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
 - 2、開口によって切られる鉄筋と同量以上の鉄筋を開口をさけて配筋する。

※小開口からの鉄筋のかぶりは30mm以上確保する。

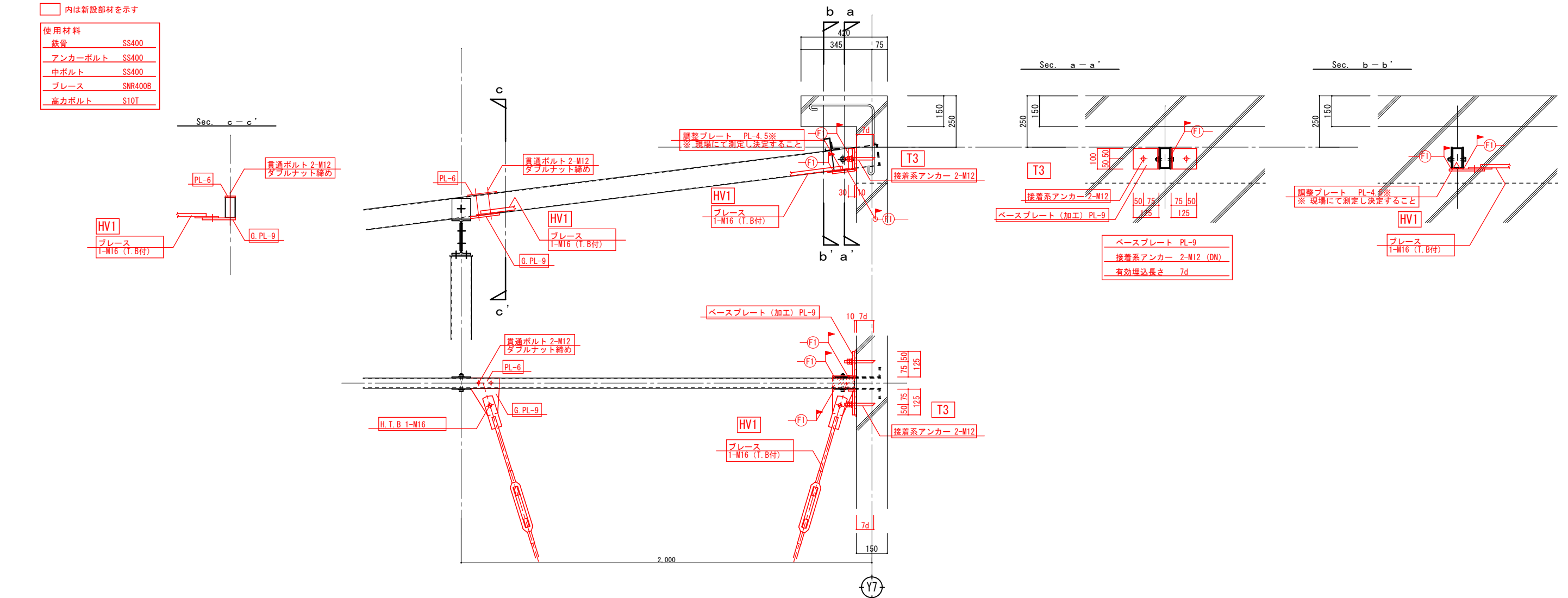
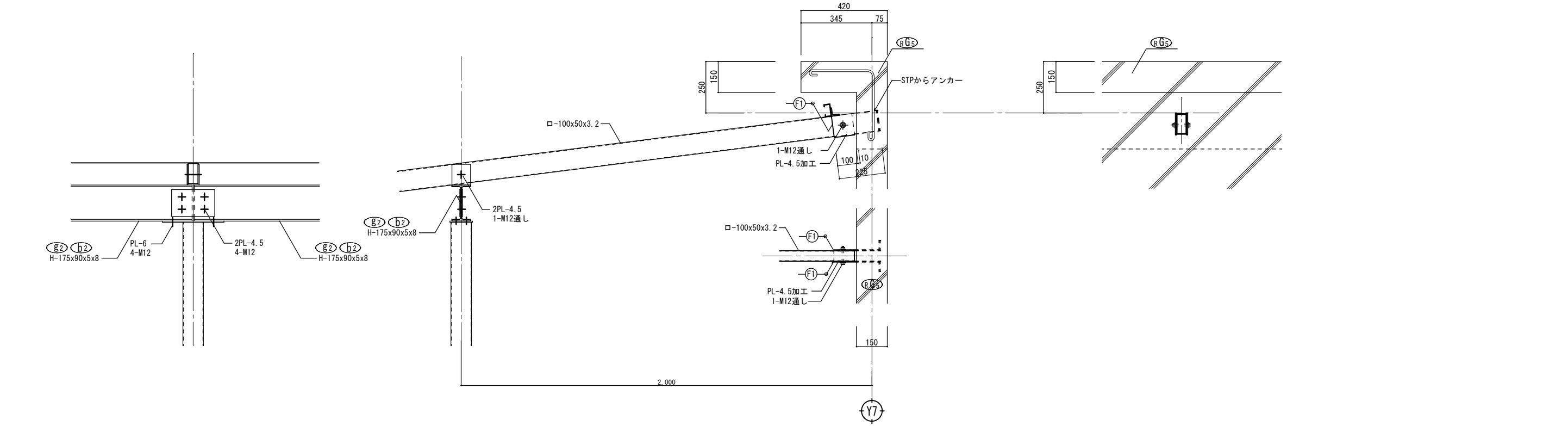


使用材料	
コンクリート	$F_c = 24 \text{ N/mm}^2$
鉄筋	D13~D16 : SD295

[illegible]

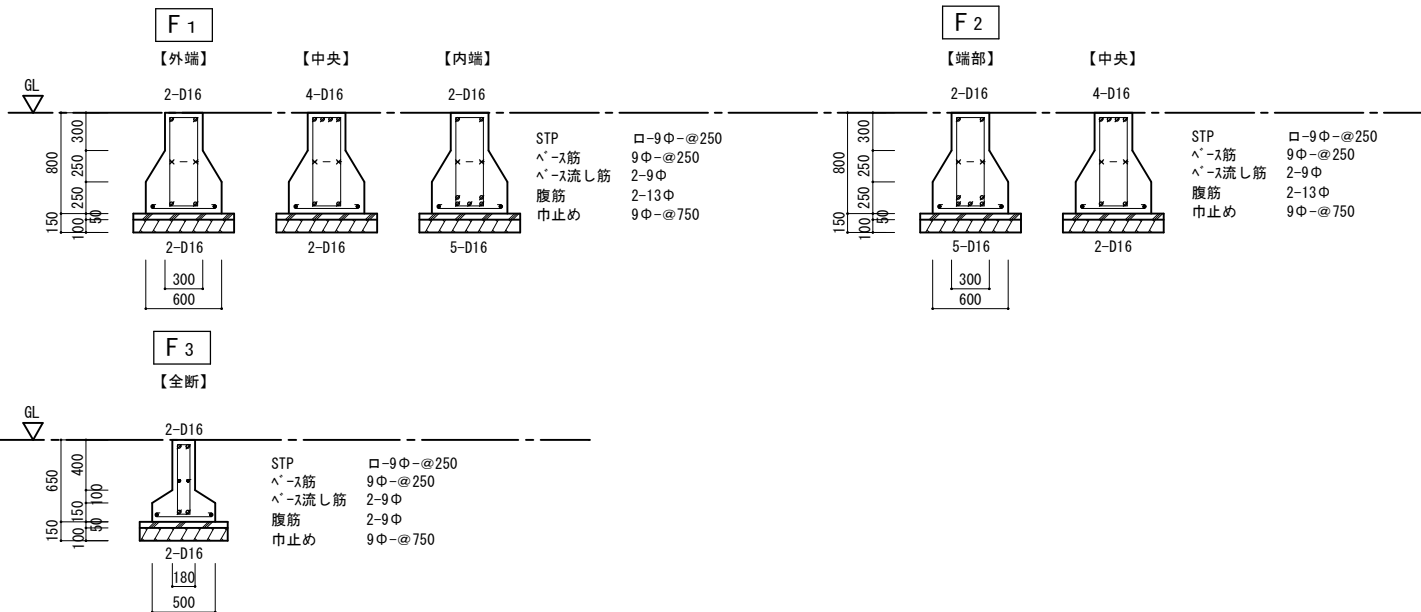


X4通、X6通～X11通 軸組図

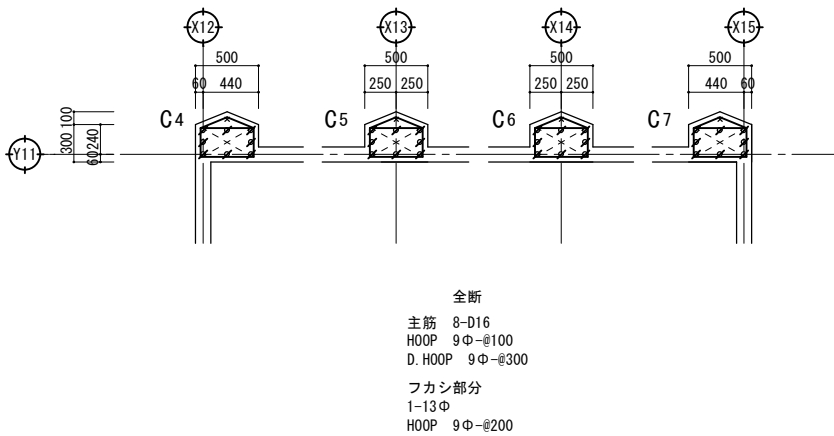


コンクリートは $F_c=18 \text{ N/mm}^2$
 使用鉄筋は D16~D19 は SD30
 9Φ~13Φ は SR24 とする
 地耐力 $f_e=15\text{t/m}^2$ (長期)

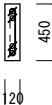
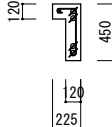
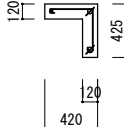
基礎リスト S=1:50



柱リスト S=1:50



小梁リスト S=1:50

階	符 号	RG6 RB7	RGW RBW	G	RG8 RB5
	位 置	全 断	全 断	全 断	全 断
R 階	断 面				
	上端筋	2-D16	2-D16+1-13Φ	1-D16+1-13Φ	3-D16
	下端筋	2-D16	2-D16	1-D16	—————
	S T P	9φ-@200千鳥	L-9φ-@200	L-9φ-@250	9φ-@250
	腹 筋				
	備 考				

大梁リスト S=1:30

樣別		A棟	D棟			
階	符 号	RB 6 RG 7	RG 3	RG 4	RB 2	RB 3
	位 置	全 断	端 部	中 央	端 部	中 央
R	断 面					
	階					
階	上端筋	3-D16+1-13Φ	3-D16	2-D16	3-D16	3-D16
	下端筋	2-D16	2-D16	2-D16	2-D16	5-D16
	S T P	□+L-9φ-@200	□-9φ-@225		□-9φ-@200	
	腹 筋	2-9φ			2-9φ	
階	備 考					

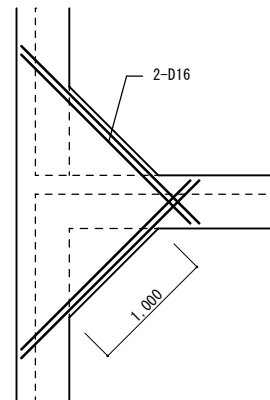
壁リスト S=1:50

符 号		CB10	W12	W15	
断 面					
	縦 筋	9φ-@800 (S)	9φ-@200 (S)	9φ-@200 (S)	
	横 筋	9φ-@800 (S)	9φ-@200 (S)	9φ-@200 (S)	
	開口補強筋				
	縦 筋	1-13φ	1-D16	1-D16	
	横 筋	1-13φ	1-D16	1-D16	
	斜め筋	—	1-D16	1-D16	

地 中 梁 リ ス ト S=1:50

階	符 号	F G 1		F B 1	
	位 置	端 部	中 央	全 断	
1	GL 断面				
	上端筋	3-D16	2-D16	2-D16	
	下端筋	3-D16	2-D16	2-D16	
	S T P	□-9φ-@250		□-9φ-@250	
	腹 筋	2-9φ		2-9φ	
	備 考				

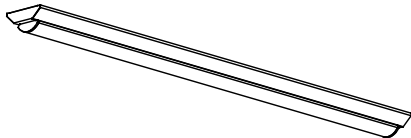
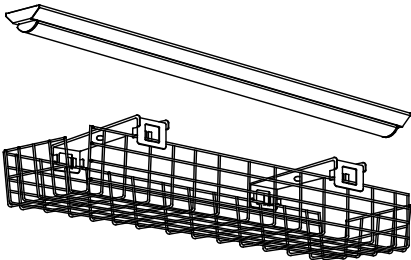
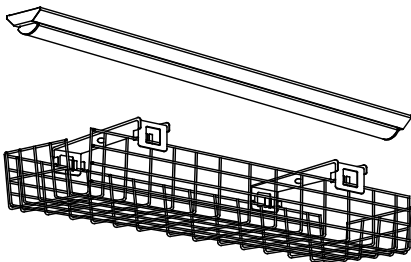
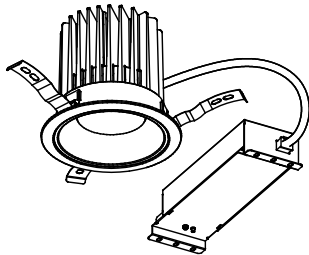
梁水平ハンチ配筋図 S=1:30



鉄骨部材リスト

符 号	使用材
b 1・E 1	H-248x124x5x8
b 2・E 2	H-175x90x5x8
b 0・E 0	H-150x75x5x7
母屋受	□-100x50x3. 2
母屋	C-60x30x10x2. 3
P ₁	□-100x100x2. 3

電 気 設 備 工 事 特 記 仕 様 書				一 般 事 項				共 通 事 項			
工 事 名 称		令和8年度 高瀬保育園耐震改修工事		試験検査報告書		機器・材料は、現場に搬入した時点、受注者が検査を行い、検査報告書を監督員に提出する。 量産品あるいは標準品で実測値などが整備されているものは、機能表または能力計算書など性能の証明となるものの提出をもって前分の検査とすることができる。 監督員が指示する機器・材料の検査には、監督員の立会いを受ける。 あと施工アンカー（吊下げ部分には基本使用しない）を使用する場合は事前に施工計画書を提出し、監督員の承認を受ける。		発生材の処理 耐震施工		構外搬出とし、請負者の責任において適正に処分する。 設備機器の固定は、「建築設備耐震設計・施工指針 ２０１４年版」（国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修）による。なお、施工に際し、耐震強度計算書を監督員に提出し、承諾を受けるものとする。 設計用標準水平震度	
工 事 場 所		佐久市鳴瀬 １ ３ ７ １									
建 物 概 要		構 造 階 数 建 築 面 積 床 面 積									
工 事 項 目		○受変電設備 ○幹線動力設備 ●電灯設備 ●照明器具設備 ●コンセント設備 ●電話設備 ●拡声設備 ○映像・音響設備		○構内情報配線設備 ●テレビ共同受信設備 ○電熱設備 ○電波時計設備 ○インターホン設備 ○警備保障配管設備 ●自動火災報知設備 ○防排煙設備		○ガス漏れ警報設備 ○構内配電線路設備 ○構内通信線路設備 ○太陽光発電設備 ○デマンド監視設備 ○テレビ電波障害防除設備					
一 般 事 項											
適 用 範 囲		この特記仕様書は本工事のほかに他工事にも適用するものとし、図面及びこの特記仕様書に記載されていない事項は、全て公共建築工事標準仕様書最新版及び建築改修工事標準仕様書最新版（建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編）による。									
優 先 順 位		設計図書の特記事項は次のとおりとする。 1、現場説明事項及び質疑応答事項 2、特記仕様書 3、設計図 4、公共建築工事標準仕様書及び公共建築改修工事標準仕様書									
記載のないもの		設計図書に記載のないもの及び記載されていても工事の納まり等について不都合な箇所が生じた場合は、監督員と協議の上その指示による。									
疑 義 軽 微 な 変 更		設計書に明示のない場合又は疑いを生じた場合は監督員と協議し、その指示を受けてから施工する。 本工事の施工にあたり、納まり等軽微な変更又は図面に記載のない部分で技術的に必要が生じた場合は、監督員の指示に従い施工する、この場合請負金額の増減は行わないものとする。									
工 事 看 板		本工事の現場には関連公的表示板及び工事名称・発注者名・設計事務所・施工業者を明記した工事看板を設置する。									
届 出 等		工事請負業者は施工に必要な一切（建築確認申請を除く）の官公署及び事業所への諸手続きを延滞なく行うものとし、これに掛かる経費は請負者の負担とする。									
施 工 計 画 書 施 工 図 等		工事着手前に施工計画書を提出し、監督員の承認を受けること。 施工上必要な各種の施工図・原寸図・工作図又は型板の類は、施工に先立ち監督員に提出し、承認を受ける。									
工 事 材 料		工事に使用する材料については必要に応じて見本品を提出し、監督員の承認を得て使用すること。材料の製造所、製品、業者等は特記されたもの又は同等品以上とする、ただし同等以上とする場合は、その理由を明記して監督員の承認を受ける。									
災 害 防 止		工事の施工に伴う災害及び公害の防止は、関係法令等に従い適切に処理する。 工事中、既設の設備を損傷した場合は、監督員の指示に従い現状復旧を行う。									
火 災 保 険 等		請負業者は工事内容に応じた建設工事保険等を付するものとする。（火災保険、建設工事保険、請負業者賠償責任保険等）、加入期間は監督員との打合せによる。									
発生材の処理		発生材は整理の上その調書と共に係員に引き継ぎ、係員の指示により処理する。 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）」を厳守し、マニフェストA票、B-2票、D票、E票の写しを提出する。ただし、一般土砂については軽量伝票又は搬入伝票を提出する。									
工 事 写 真		カラーサービス版で、A4版の工事用アルバムに工程順に説明を記入し提出する。デジタル写真可、着工前、施工中（各工程毎に撮影）、竣工時撮影の他、資材搬入時及び使用後の空き缶（塗料・接着剤等）状況等を撮影のこと。									
施 工 計 画 書 品 質 計 画 書 施 工 要 領 書 施 工 報 告 書		工事の着工に先立ち、工事の計画をまとめた施工計画書を作成し監督員に提出すること。 工事の着工に先立ち、工事の品質計画をまとめた施工計画書を作成し監督員に提出すること。 施工計画書の要件を実行するための詳細を定めた施工要領書を作成し監督員に提出すること。 施工計画書及び施工要領書に定めた項目の品質を確保し、施工時に自主検査、監督員に施工報告書を提出すること。									
搬 入 計 画 書 工事実績情報の登録について		事前に機器の搬入計画書を作成し監督員の承認を得ること。 工事実績情報を登録する内容について、あらかじめ監督職員の確認を受けた後、次に示す期間内に手続きを行うと共に、登録されることを証明する資料を監督職員に提出する。期間には土日祝日は含まない。なお、変更時と完成時の間が10日に満たない場合は変更時の提出を省略できるものとする。									
				一 般 事 項		提 出 書 類		機 器 取 付 高 さ			
				■工事施工関係書類		■工事完成資料		■保守管理資料		■官公署届出書類等	
				■完 成 図		■ そ の 他		※目次は書類全体で1部作成する。 ※提出物・提出部数については監督職員と協議すること。 ※工事における創意工夫や、社会貢献を実施した際は書面にて提出できる。			
				仮 設 工 事							
				工事用水 工事用電力 仮設便所 仮設足場		既存構内の施設 既存構内の施設 既存構内の施設 内部足場は4m未満は脚立足場とし、4m以上はローリング足場とする。		○利用可 ○利用可 ○利用可		・利用不可 ・利用不可 ・利用不可	
				CHECK		DESIGN		DRAWING		DATE	
				長野県佐久市野沢 306-12		一級建築士事務所登録 （佐久）G第72161号		2026・05		JOB NAME	
				PHONE (0267) 63-6355		一級建築士登録第 163929 号				SHEET NAME	
				FAX. (0267) 63-6366		土 屋 正 明				電気設備 特記仕様書	
				土 屋		堀 籠				SCALE	
										PART	
										電 気 設 備	

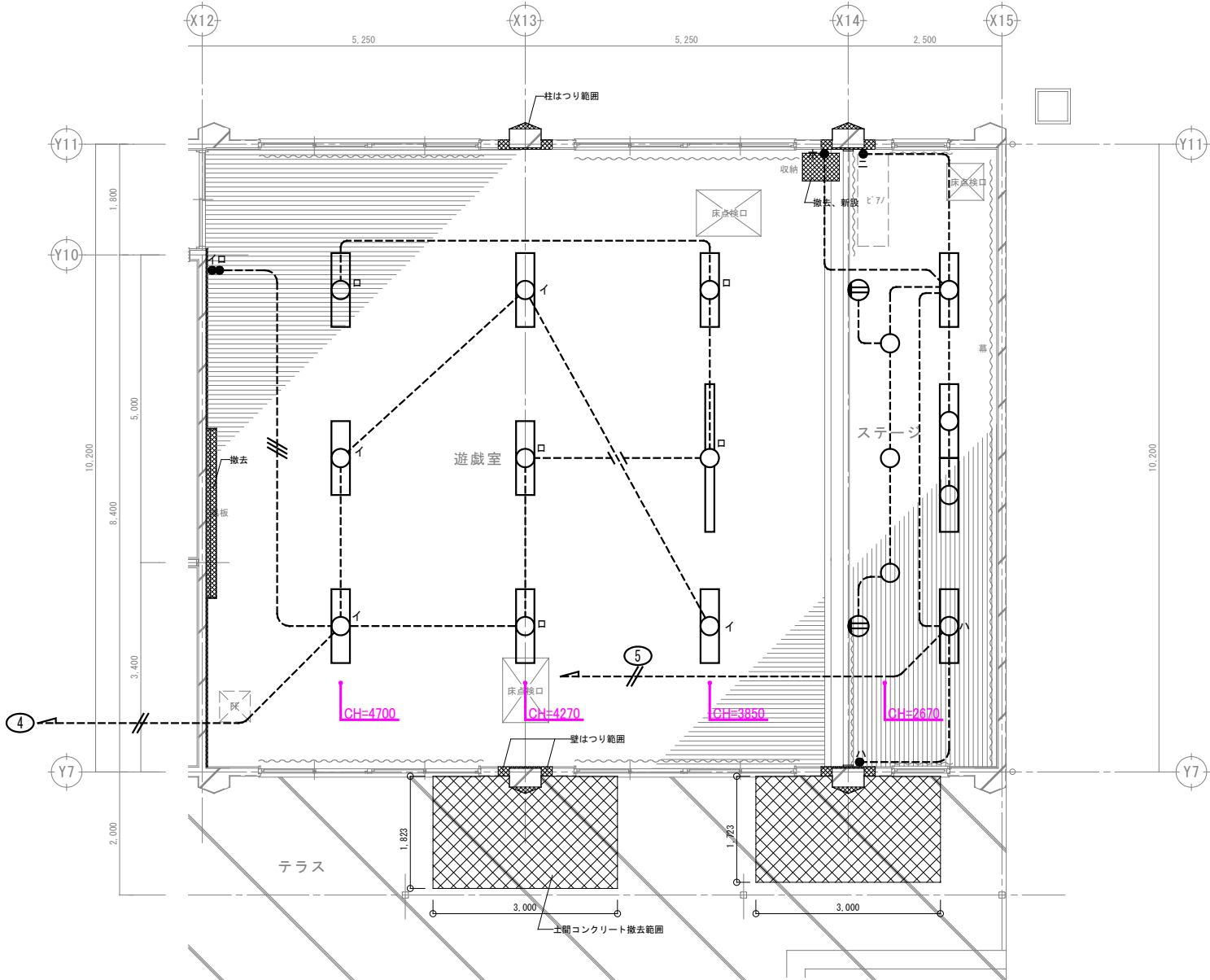
A	LEDベースライトTENQ00シリーズ 直付形 幅120		A	LEDベースライトTENQ00シリーズ 直付形 幅120	
A40	LED24.8W 4,000 lm 5000K	4 台	A69 (G)	LED43.0W 6,900 lm 5000K	8 台
寸法：幅120×1,250×高53 本体：銅板 白 LEDバー：ポリカーボネート 乳白 定格電圧：AC100V～242V 平均演色評価数（Ra）：83 			寸法：幅120×1,250×高53 本体：銅板 白 LEDバー：ポリカーボネート 乳白 定格電圧：AC100V～242V 平均演色評価数（Ra）：83 ◆ガード 寸法：幅230×1350×高175 ガード：白 		
A40	LEKT412403N-LS9 相当品	公：LSS9-4-37対象	A69 (G)	LEKT412693N-LS9+FBG-42000 相当品	
A	LEDベースライトTENQ00シリーズ 直付形 幅120		DL	LED一体形ダウンライト 一般形 白色反射板 φ125	
A100 (G)	LED61.0W 10,000 lm 5000K	1 台	DL30	LED28.2W 4,100 lm 5000K 広角	3 台
寸法：幅120×2,448×高53 本体：銅板 白 LEDバー：ポリカーボネート 乳白 定格電圧：AC100V～242V 平均演色評価数（Ra）：83 ◆ガード 寸法：幅230×2550×高155 ガード：白 			寸法：φ144×高さ130 埋め込みサイズ：φ125 本体：アルミダイカスト 枠：銅板（ピュアホホワイト） 反射板：ピュアホホワイト 定格電圧：AC100V～242V 平均演色評価数（Ra）：83 		
A100 (G)	LEKT812103N-LS9+FBG-91000 相当品		LEKD35041MN2-LD9 相当品		

遊戯室	
姿図符号	仕様
逆富士(ガ-ド)×8	FHF32W×2
逆富士(ガ-ド)110×1	FL110W×1

ステージ	
姿図符号	仕様
DL×3	ビ-ム-150W
逆富士×2	FL40W×2
逆富士32×2	FHF32W×2

遊戯室	
姿図符号	仕様
A 6 9 (G) × 8	LED43.0W
A 1 0 0 (G) × 1	LED61.0W

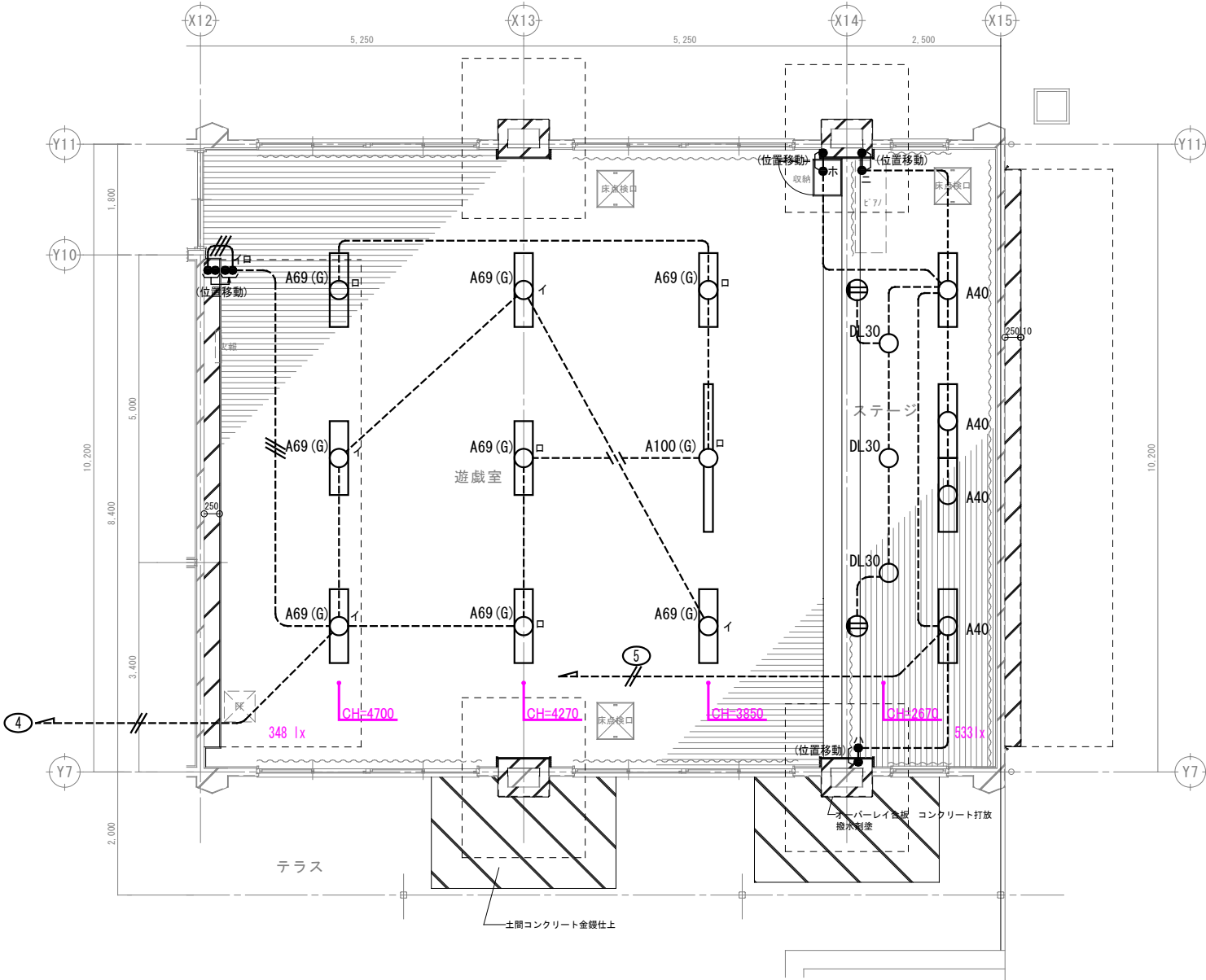
ステージ	
姿図符号	仕様
D L 3 0 × 3	LED28.2W
A 4 0 × 4	LED24.8W



撤去図 S=1/100

【既存電灯設備凡例】

記号	名 称	摘 要	備 考
	既設蛍光灯	天井直付	(既設撤去処分)
	既設白熱灯	埋込	(既設撤去処分)
	既設埋込スイッチ	1P15A300V新金属プレート共	(既設撤去処分)
	既設埋込コンセント	2P15A125V×1 新金属プレート共	(既設撤去処分)
註) 特記なき配線は下記による。			
電線・ケーブル			
----	1V2.0×2 (19) →	既設のまま	
-----	1V1.6×2 (19) →	既設のまま	
-----	1V1.6×3 (25) →	既設のまま	



改修図 S=1/100

【改修電灯設備凡例】

記号	名 称	摘 要	備 考
	新規LED灯	天井直付	別図姿図参照(新設)
	新規LED灯	埋込	別図姿図参照(新設)
	新規埋込スイッチ	1P15A300V新金属プレート共	(新設) → 移動
	既設埋込コンセント	2P15A125V×1 新金属プレート共	(既設のまま)
註) 特記なき配線は下記による。			
電線・ケーブル			
----	1V2.0×2 (19) →	既存のまま	
-----	1V1.6×2 (19) →	既存のまま	
-----	1V1.6×3 (25) →	既存のまま	
-----	EM-EEF1.6-2C(コログシ) →	新規	
-----	EM-EEF1.6-3C(コログシ) →	新規	



(有)魁設計事務所

長野県佐久市野沢 306-12
PHONE (0267) 63-6355
FAX (0267) 63-6366

一級建築士事務所登録
(佐久) G第7Z161号
一級建築士登録第 163929 号
土 屋 正 明

CHECK
土
屋

DESIGN

DRAWING
堀
籠

DATE
2026・05

JOB NAME

令和8年度 高瀬保育園耐震改修工事

SHEET NAME

遊戯室 電灯設備図【改修前・改修後】

SCALE

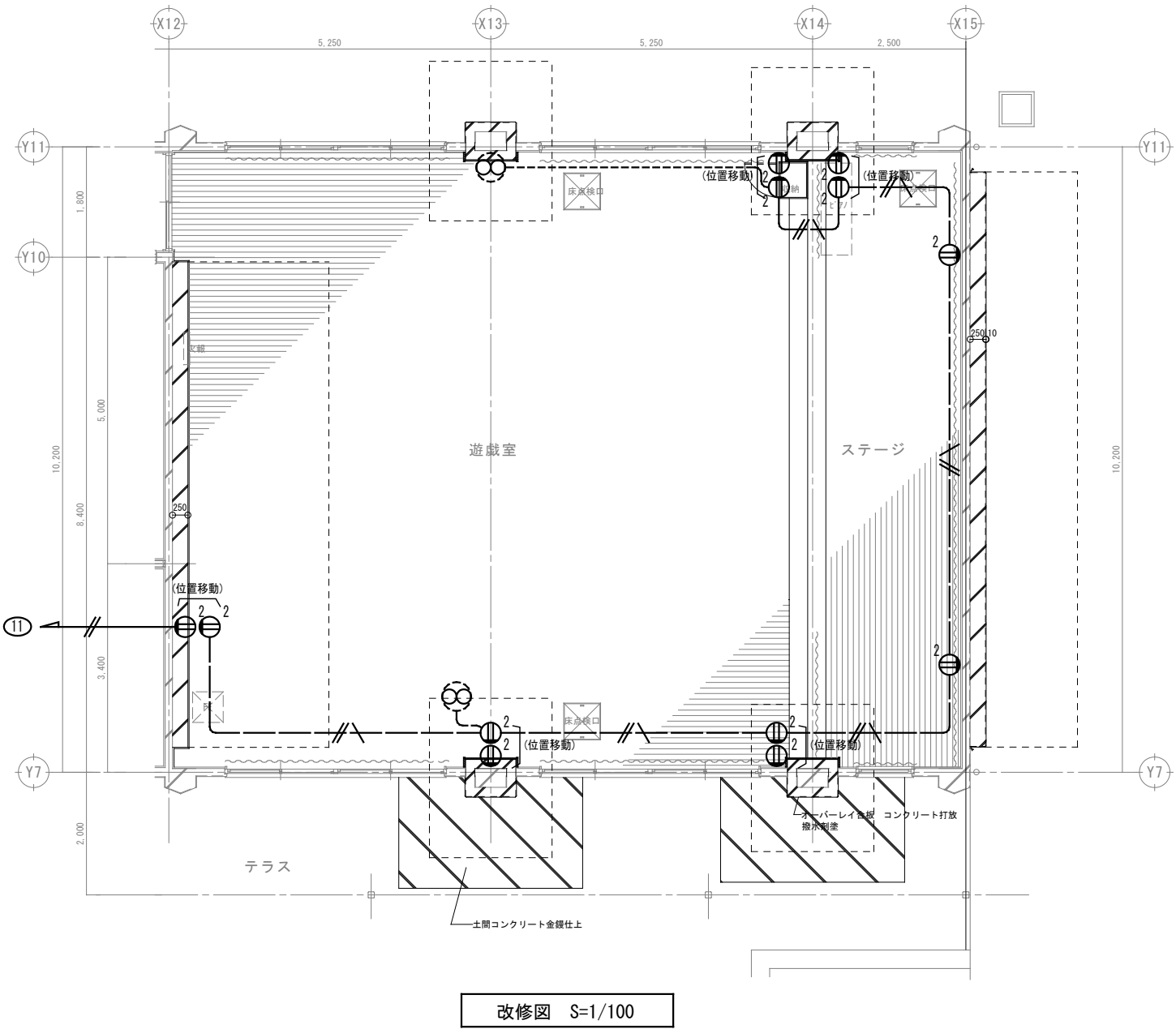
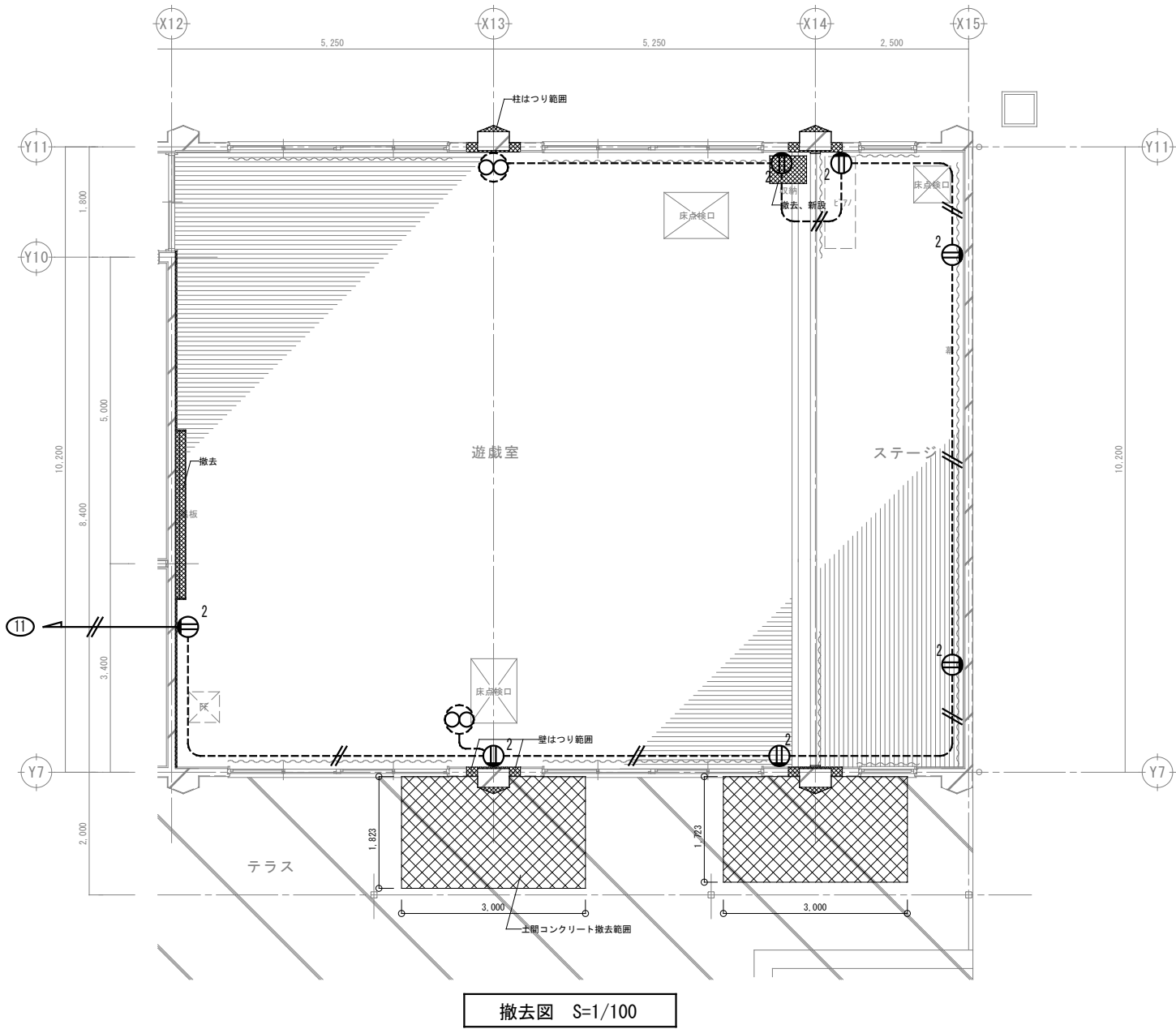
1:100

SHEET NO.

E-03

PART

電気設備



【既存コンセント設備凡例】			
記号	名 称	摘 要	備 考
	既設埋込コンセント	2P15A125V×2 新金属プレート共	(既設撤去処分)
	既設換気扇		機械設備工事
註) 特記なき配線は下記による。			
電線・ケーブル			
	1V2.0×2 (19) →	既設のまま	
	1V2.0×2 (19) →	既設撤去処分(但し、壁内配管は既設のまま)	
	差込付コード(露出配線) →	一時取外し再度配線(メタルモールA保護)	

【改修コンセント設備凡例】			
記号	名 称	摘 要	備 考
	新規埋込コンセント	2P15A125V×2 新金属プレート共	(新設) → 一部移動(深し壁等)
	既設換気扇		機械設備工事
註) 特記なき配線は下記による。			
電線・ケーブル			
	1V2.0×2 (19) →	既設のまま	
	EM-EEF2.0-3C (PF22・床下コログシ) →	(壁内配管部は既存配管利用)	
	差込付コード(露出配線) →	一時取外し再度配線(メタルモールA保護)	



(有)魁設計事務所

長野県佐久市野沢 306-12
PHONE (0267) 63-6355
FAX (0267) 63-6366

一級建築士事務所登録
(佐久) G第7Z161号
一級建築士登録第 163929 号
土 屋 正 明

CHECK
土
屋

DESIGN

DRAWING
堀
籠

DATE
2026・05

JOB NAME
SHEET NAME

令和8年度 高瀬保育園耐震改修工事

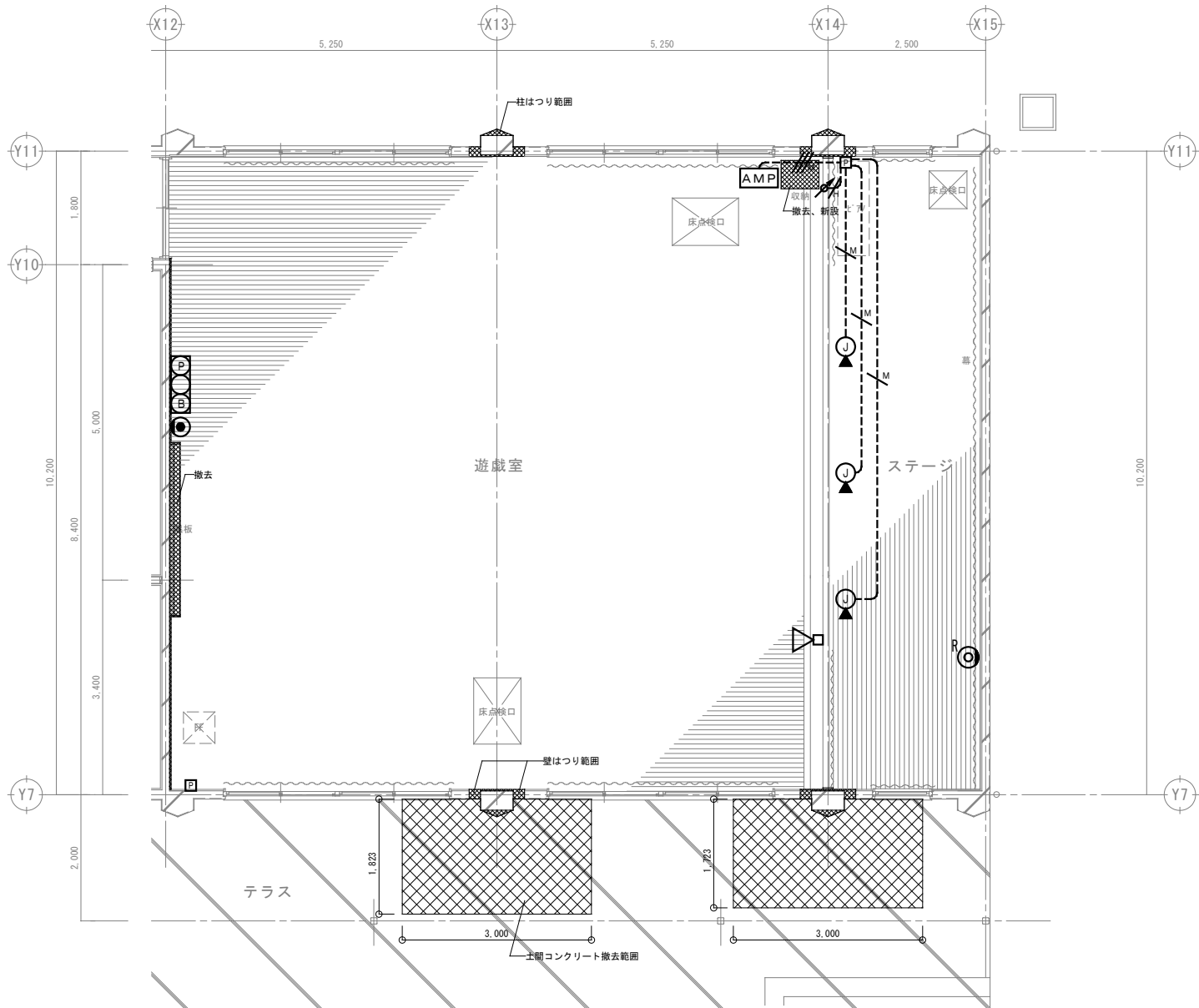
遊戯室 コンセント設備図【改修前・改修後】

SCALE
1:100

SHEET NO.
PART

E-04

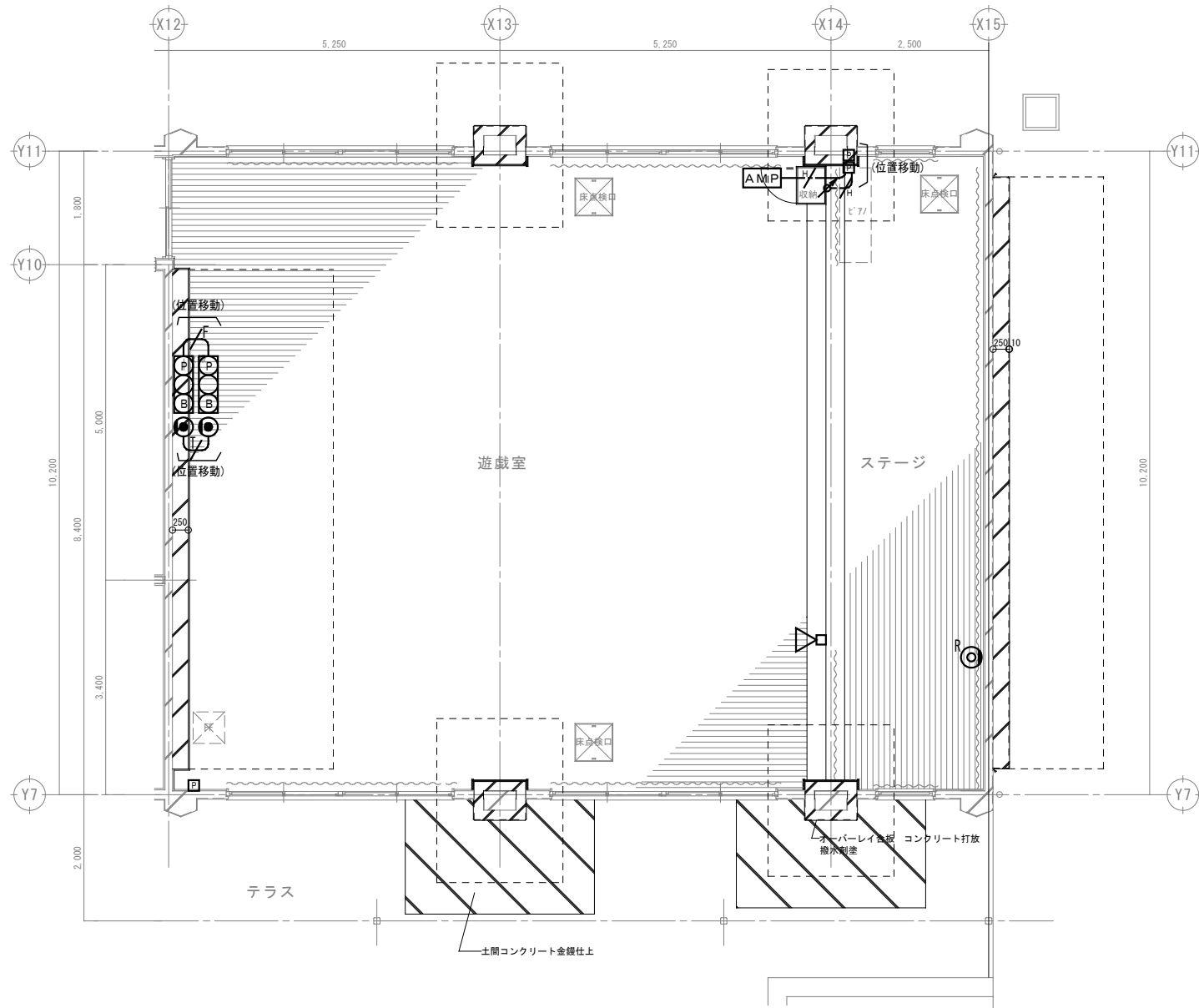
電気設備



撤去図 S=1/100

【既存弱電設備凡例】

記号	名 称	摘 要	備 考
●	既設電話アウトレット	新金属プレート共	(既設撤去処分)
AMP	既設放送アンプ類	可搬式アンプ、可搬式ワイヤレス受信機	(一時取外し再度設置)
□△	既設ブラケットスピーカ	10W	(既存そのまま)
⚡	既設アッテネータ	10W	(一時取外し再度取付)
Ⓜ	既設床用マイクジャック		(既設撤去処分)
Ⓜ ^R	既設直列ユニット	端末用	(既設撤去処分)
ⓂⓂⓂ	既設総合盤(自火報)	(W=520、H=300、D=200 埋込形)	(一時取外し再度取付)
Ⓜ	既設ノックプレート、カバープレート		(既設撤去処分)
註) 特記なき配線は下記による。			
電線・ケーブル			
----	MVS0.75°-2C(19) →	既設撤去処分	
----	MVS0.75°-2C×3(コログシ) →	既設撤去処分(再度調査)	
----	AE1.2-4C(コログシ) →	既設撤去処分	



改修図 S=1/100

【改修弱電設備凡例】

記号	名 称	摘 要	備 考
●	新規電話アウトレット	新金属プレート共	(新設) → 移動(深し壁等)
AMP	既設放送アンプ類	可搬式アンプ、可搬式ワイヤレス受信機	(一時取外し再度設置)
□△	既設ブラケットスピーカ	10W	(既存そのまま)
⚡	既設アッテネータ	10W	(一時取外し再度取付)
Ⓜ ^R	新規直列ユニット	端末用	(新設)
ⓂⓂⓂ	既設総合盤(自火報)	(W=520、H=300、D=200 埋込形)	(一時取外し再度取付)
Ⓜ	新規ノックプレート、カバープレート		(新設) → 一部移動(深し壁等)
註) 特記なき配線は下記による。			
電線・ケーブル			
----	EM-AE1.2-4C(メタルモールA) →	新設	
----	EM-EBT0.4-2P(コログシ) →	新設	
----	EM-HP1.2-5P(コログシ) →	新設	



(有)魁設計事務所

長野県佐久市野沢 306-12
PHONE (0267) 63-6355
FAX (0267) 63-6366

一級建築士事務所登録
(佐久) G第7Z161号
一級建築士登録第 163929号
土 屋 正 明

CHECK
土 屋

DESIGN

DRAWING
堀 籠

DATE
2026・05

JOB NAME
令和8年度 高瀬保育園耐震改修工事
SHEET NAME
遊戯室 弱電設備図【改修前・改修後】

SCALE
1:100

SHEET NO.
E-05
PART
電気設備